

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	良くなる	タクシー運転手	・3月26日の北海道新幹線の開業を控えて、ホテルが満床になるなど、今から影響が出てきている。観光客や北海道新幹線利用客によるタクシー利用が見込めることから、今後については良くなる。
		観光名所（従業員）	・当地では3月末に北海道新幹線が開業することで、開業効果が見込まれる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・雪解けから一気に観光客の増加が見込まれる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・北海道新幹線開業による波及効果が、ホテル、飲食店、コンビニエンスストアなどに確実に表れてくる。
		商店街（代表者）	・地元客については、暖房費などの負担がほとんどなくなることに加えて、ゴールデンウィークに旅行をせずに地元で過ごす人が徐々に増えてきている傾向があることから、来街者は増加する。管外からの旅行者が例年とおりの動きとなれば、全体的な売上は増加する。
		百貨店（担当者）	・北海道新幹線の開業効果が見込まれるため、今後についてはやや良くなる。
		スーパー（役員）	・北海道新幹線の開業により、春の行楽客が増加し、街全体の景気を押し上げる効果が期待できる。
		コンビニ（店長）	・情報のスピードが増しているなか、そのスピードにあわせて素早い対応を取れば物が売れるため、今後についても景気は良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・目玉となる大型イベント、大会はないが、個人旅行者、ビジネス客、外国人観光客のいずれも堅調であるため、今後についてはやや良くなる。3月に地元球団の開幕戦が行われることも追い風となる。
		旅行代理店（従業員）	・4月以降の先行数値が良いため、今後についてはやや良くなる。
		通信会社（社員）	・年度が替わることに加えて、北海道においては雪解けの季節を迎えて屋外活動が少しずつ活発になることで、消費に対する意識も前向きになる。これまでとは違って景気が上向くことが期待できる。
		通信会社（企画担当）	・春商戦において、進学を契機とした新規契約で例年と同じような水準が期待できるため、今後についてはやや良くなる。
		美容室（経営者）	・年度替わりの時期となり、卒業、進学シーズンを迎えるため、今後については期待できる。
	変わらない	商店街（代表者）	・マイナス金利の影響がよく分からないなど、先行きの不安や為替の話をする客が増えた。気持ちがマイナスの方向に向いているため、現状では景気が上向くことは厳しい。
		商店街（代表者）	・状況は今後も大きくは変わらない。ただ、世の中の変化のスピードが大分速くなってきていることだけは間違いない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・2月の景気は非常に良くなかったが、これが一過性のものなのか、一定の期間続くものなのか、まだ判断しかねている。
		百貨店（売場主任）	・3月には道東において北海道横断自動車道の一部延伸、函館において北海道新幹線の開業と観光面での話題が多く、当地においても観光客の増加が期待できる。また、長期予報によると、今後の気温は平年よりも高く推移する見込みとなっているため、春物の動きが活発になることも期待できる。
		百貨店（売場主任）	・来客数が回復傾向にあるものの、地元客による売上が前年を下回っているなど、地元客の消費意欲が感じられないため、今後についても厳しいまま変わらない。定価品が前年を下回っていることも消費に対する冷え込みを表している。
		百貨店（販売促進担当）	・競合の大型商業施設の出店から1年が経過することで、悪化している売上について、前年並みの維持が見込まれるものの、爆発的な改善までは期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・食料品や住まい用品のうち消耗品に当たる商材は比較的好調に推移しているものの、それ以外の住まい用品、衣料品は、降雪の影響により土日やセール時の集客が落ち込んだこともあり、前年実績を下回っている。一方で、節句人形やバレンタインデーギフトなどの季節商材は前年以上の売上で推移している。これらのことから、今後も変わらないまま推移する。
		スーパー（役員）	・マイナス金利や株安、年金問題など、先行きの不透明な報道が多すぎることで、消費者の節約志向がますます高まっており、当分は現状のまま推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・競合店の新規出店は減っているが、スーパー各社の特売セールが激化している。特に週末は大型店に客が流れており、平日と変わらない来客数となっている。得意分野であった夜間の来客数の減少にも歯止めがかからないため、今後も変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・沿岸部の店舗を中心に回復する兆候がみられず、今後も厳しい状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・この先、工事などのプラス要因が何もないため、今後も変わらない。
		衣料品専門店（店員）	・来客数が増えてこないため、今後も変わらない。
		家電量販店（経営者）	・不況感が漂い、客の雰囲気が悪くなっている。大きな買物をするのを控える傾向がみられる。
		家電量販店（店員）	・来客数の増加が期待できない。何か起爆材がなければ厳しい状況である。
		乗用車販売店（経営者）	・先行指数である新車の受注件数が依然として前年の水準を上回るなど、好調を維持している。
		乗用車販売店（従業員）	・新規案件の話がなかなか出てこないため、今後も変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・北海道の場合、春に近づくにつれて販売量が伸びる傾向があるため、2～3か月先も全体的な状況は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・物価が安定し、ガソリン価格も安定しているため、急激な変化が生じない限り、今後も変わらないまま推移する。
		自動車備品販売店（店長）	・暖冬などの影響で春物商材が早く売れ出すことが期待できるが、5～6月の需要を先取りすることになるため、全体的な需要自体は変わらない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・医療機関の改革が求められているなか、国が地域に患者のかかりつけ機能を求めるようになってきていることがプラスとなることを期待している。
		高級レストラン（経営者）	・今後の景気が上向くような好材料が見当たらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・3月下旬の北海道新幹線の開業をきっかけに国内旅行客による需要が多少は増えることになる。ただし、函館以外の地域では、売上が何割もアップするような特需までは見込めない。
		旅行代理店（従業員）	・依然としてイスラム圏の危険度が高いままであることに加えて、難民問題、ブラジルで発生しているジカ熱への心配も高まっているため、海外旅行へのプレ・キがかかりそうである。
		タクシー運転手	・外国人観光客が増えているが、タクシー利用はまだ増えておらず、今後もしばらくは利用増が期待できない。
		タクシー運転手	・北海道新幹線が開業することもあり、道南地域は活気付いているが、当地域までの波及は期待できない。
		観光名所（職員）	・外国人観光客の増加などで好況を感じる場面もあるが、物価高騰などの影響もあり、肝心の地元客の消費は停滞したままである。マイナス金利政策のように、国内の消費を伸ばすための施策を政府に期待している。
		住宅販売会社（経営者）	・株式市場の不安定さが今後も1～2か月は続くとみられるため、今のような状況が続く。
		住宅販売会社（役員）	・マイナス金利の導入により住宅ローンの支払が低減されるため、分譲マンションの販売戸数は増えるとみられるが、客の所得は伸びていないため、停滞気味の分譲マンション市場が大きく改善されることまでは考えられない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・外国人観光客の来客数は今後もあまり変わらないとみられるが、客単価の低下傾向がみられる。1つの商材を大量に購入する傾向から、広く細かく買う傾向に変化してきているなど、買物の仕方が成熟してきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・人口の急激な減少が一番の要因とみられるが、とにかく募集をかけても人が集まらない。特に若い人の定着率が悪く、新人訓練にベテランの手が取られることで、売上を上げることにまで集中できていない状況がある。さらに、燃料価格こそ下がっているが、最低賃金の引上げに伴う全社員の給料の見直し、原材料の高騰などがあり、全く収益が取れなくなっている。これまでどうにか経営してきたが、今後は段々とじり貧になるのではないかと心配している。	
		百貨店(販売促進担当)	・外国人観光客による来店の減少や景気の先行き不安から、今後、順調な消費拡大が見込めるとは考えにくく、来客数の減少傾向、客単価の低下傾向が続くことになる。	
		百貨店(役員)	・現政権下において、経済政策が思ったような効果を上げることができておらず、明るい展望も見当たらないため、今後についてはやや悪くなる。	
		スーパー(店長)	・為替のドル安円高傾向が収まらず、中国経済の低迷や原油安が引き続きみられるなど、これからも国内経済には大きな影響が生じることが懸念される。企業も設備投資に消極的である。賃金のベースアップも大きく望めそうもないため、客の財布のひもはますます固くなる。	
		スーパー(店長)	・今後 come 客数の増加が期待できない。株値の低迷や預貯金の金利低下などの影響により、客が支出を抑えることが懸念される。	
		スーパー(企画担当)	・金融市場を始めとした経済の不透明さ、実質賃金の伸び悩みなど、気持ちの面でも実質的な面でも消費者の消費意欲が上向く環境にはないため、今後についてはやや悪くなる。	
		衣料品専門店(店長)	・これといって良い材料がなく、大口の顧客も動きが鈍い。例年であれば、オーダースーツの問い合わせが多くなっていく時期だが、そうした動きも少ないため、今後についてはやや悪くなる。	
		その他専門店〔造花〕 (店長)	・商材の値上げが続いていることで、客の購買力が低下している。	
		旅行代理店(従業員)	・3～4月は観光の端境期に当たり、イベントなども少ないため、流水観光の最盛期である2月との比較では観光客は減ることになる。ただし、今年のゴールデンウィークは長期休暇が取れる日並びであるため、それ以降、観光客の動きが活性化してくることが期待できる。	
		旅行代理店(従業員)	・例年、当地域では第3～4四半期に旅行需要が高まり、それ以降は取扱量が減ってくる。今年の春先には好材料も特にないことから、今後2～3か月先については、景気はやや悪くなる。	
		タクシー運転手	・この先の客からの問い合わせや予約件数が若干少ないことから、今後の売上はあまり伸びないとみられる。	
		パチンコ店(役員)	・マイナス金利の影響がまだみえてこない。建設業界こそ良くなりそうな気配があるものの、それ以外の業界の動向が不透明なため、今後についてはやや悪くなる。	
		美容室(経営者)	・客の様子を年齢別にみると、特に高齢者の不安が増大している雰囲気があり、今後の出費を控える傾向がうかがえる。	
		悪くなる	観光型ホテル(役員)	・先行予約状況が悪い。地元空港では海外航空会社の撤退が相次いでおり、国内景気の悪化も手伝って、今後の見通しはかなり悪い。
			タクシー運転手	・国内外の不安定要因が多いため、今後についてはやや悪くなる。
タクシー運転手	・今のところ、先行きが良くなるような材料に乏しいため、今後については悪くなる。			
企業 動向 関連 (北海道)	良くなる やや良くなる	-	-	
	建設業(経営者)	・公共工事についてはゼロ国債や補正予算による工事が土木工事を中心に発注が始まることになる。建築についても新年度予算分や民間工事の契約が徐々に進んでいる。これらことから、今後、人、物、金などが動き始めることになる。		
	建設業(従業員)	・建設工事費の高騰が収まり、工事着手を保留していた工事が開始されることになる。		
	輸送業(営業担当)	・当地域において、地元港湾が2月24日に特定貨物輸入拠点港湾(穀物)として国内初の指定を国土交通省より受けたことにより、港湾関連工事事業が急ピッチで進むことが期待できる。		
	輸送業(支店長)	・雪解け後の引き合いが徐々に出てきていることから、2月が景気の底で、今後は徐々に回復することになる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（従業員）	・金融市場や資本市場のある程度の安定という条件付きではあるが、北海道新幹線の開業効果、観光関連の好調持続、原油安が景気の改善に寄与することになる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・補正予算による発注が行われる予定があるため、今後については期待できる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・補正予算の執行が見込まれるため、今後についてはやや良くなる。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	・現状の受注状況から、この先2～3か月について、これ以上は悪くならないことが見込まれる。
		家具製造業（経営者）	・株価などが落ち着きをみせているため、今後、数か月の景気は今の状況のまま推移する。
		司法書士	・3～4月の状況次第ではあるが、積雪地域では冬季の取引が少ない分、春に多くなる傾向があるため、多少は上向くことが期待できる。ただし、全体的には低水準の状況に変わりはないとみられる。
		コピーサービス業（従業員）	・企業の慎重な姿勢を考えると、短いサイクルで景気が上向くことはないとみられる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・目先の引き合い件数も低調であり、現状維持が精一杯とみられる。
	やや悪くなる	建設業（従業員）	・マイナス金利の民間設備投資への影響が見通せないなか、公共工事の減少が予想されるため、業況はやや厳しくなる。
		通信業（営業担当）	・当社もそうだが、来年度の予算計画について厳しい見方をしている企業が多い。
		司法書士	・原油安は家計にとっては良いが、それにより経済が不安定になっており、そのことが景気回復を遅らせる原因となっている。マイナス金利については、今後どのような結果となるのかは分からないが、大型の消費には向かわないとみている。
	悪くなる	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新年度のスタートを控えて様子見をしているのか、全体的に新規案件の立ち上がる気配が薄い。来年度は久しぶりに厳しく、重苦しいスタートとなりそうだ。
その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）		・春から夏にかけて、鉄骨加工業の加工量がピークになりそうだが、その他の業種の仕事量が少ないため、過度な期待はできない。また、来月以降の受注残も一気に減少することになるため、先行きへの不安材料が多い。	
雇用 関連 (北海道)	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・新規求人数は前年と比べてわずかに減少したが、有効求人数が増加しており、有効求人倍率が1.16倍と8か月連続で1.0倍超えの高水準となっているため、今後についてもやや良くなる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・求人は今後も増えるとみられるが、ミスマッチの確率が高くなることを心配している。会社が求めるスキルの人材の確保が難しくなっており、求人は市場にあふれているものの、マッチングが進まず、滞留求人が増えることが懸念される。企業がスキルの高い人材を採用できなければ、企業としての発展が滞る可能性があるほか、採用コストが高まることで企業負担が増える可能性もある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・地域経済を支える農畜産業の先行きへの懸念材料として、TPPの問題が挙げられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・製造業で大幅に求人が増えたが、その他の業種では若干求人が減っているか、ほとんど変動がないため、全体としては求人数に大きな増減がみられない。ここ数か月、同じような状況が続いているため、今後もこの状況は変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・景気の先行き不安が来期の状況をみえにくくしている。どのような人員体制を取れば良いか、しばらく様子見をする企業が増えることになる。
		職業安定所（職員）	・人口が減少しているため、北海道新幹線の開業効果が相殺されることになる。
		職業安定所（職員）	・職業別の求人状況を前年と比べると、農林漁業で大きく減少したが、それ以外の職業では増加傾向にある。特に飲食物の調理や接客、介護などのサービスの職業、販売の職業、医療・福祉の技術専門職など、人手不足といわれている職種で増加幅が大きく、この傾向は今後も続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・11月から1月までの新規求人数の累計が前年から6.8%増加しており、1月の有効求人倍率も0.99倍と高水準を維持していることから、今後も引き続き好調に推移する。
		学校〔大学〕（就職担当）	・北海道の場合、冬期間でも観光客を集客できる魅力があるため、ホテル、量販店などの関連業界では相応の活気が見込まれるが、そのほかの業界では、企業から話を聞く限り、地元客の個人消費が落ち込んでいるため、全体としては今後も変わらず、ここ数か月の景気のまま横ばいで推移する。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・景況の良さが感じられない。また、公共工事もこれといった案件がないため、地域経済の基盤産業である土木・建築といった業界の元気がない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・募集広告の売上の前年割れが継続している。新聞の求人欄の訴求力が落ちていることも影響しているのかもしれないが、地域の雇用環境が特定の業種以外悪化していることが影響していることがうかがえる。
	悪くなる	-	-

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)	良くなる	衣料品専門店（経営者）	・今が悪い状態のため、これ以上悪くなりようがない。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・冬季の購入が少なかった分、時期をずらして春先に客が動き出すとみている。冬の動きが悪すぎるため、春に期待をしたい。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・3～5月は支出が増える時期であり、学費やレジャーなどの必要なものには支出せざるを得ない状況となる。そのような意味では景気は良くなるが、それ以外の支出については食費以外のものを節約するようになる。ここは難しい判断であり、まだら模様の景気状況はまだ続くとみている。
		商店街（代表者）	・現状でも天候の良い日やイベントがある日は来客数の動きは良い。今後の天候次第ではあるが、春に向かって客が動き始めることを期待している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今後は飲む機会が増える時期のため、お酒は売れていくとみている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・寒さが和らぎ暖かさが増していくので、客の購買力に期待をしたい。
		スーパー（営業担当）	・このまま暖冬傾向が続けば春物商材の動きが活発になる。また、原油価格の値下がり傾向により、春の行楽などの商品の動きが期待できる。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数が増加傾向であり、景気は今後も上向きになるとみている。
		衣料品専門店（店長）	・比較的早めに進学が決まり準備を始めている客が多く、予算的に少し余裕があるフレッシュマンが多いように見受けられる。また、少子化となり子供にお金をかける傾向があるなかで、春の商戦において景気は上向きに推移するとみている。
		乗用車販売店（経営者）	・雪解けとなる3～4月がピークとなるとみている。
		任関連専門店（経営者）	・北海道新幹線の開業により、全体の景気が良くなるとみている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・人の動きがある時期であり天候も良くなることから、販売量はある程度増える見込みである。ただし、株価も政治も不安定な状況はしばらく変わらないことから、それが継続するかどうかは全く不透明である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・施設のリニューアルオープンにより、大幅な売上増を見込んでいる。
		高級レストラン（支配人）	・販売量、単価、予約状況から、景気は上向いているとみている。
		高級レストラン（支配人）	・予約件数などは好調を維持している。また、インバウンド対策にも取り組んでいることから、新たな客層の誘引も見込んでいる。
一般レストラン（経営者）	・東北は3月辺りから暖かくなる。転勤シーズンでもあるため来客数は増え、景気はやや良くなるとみている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スナック（経営者）	・1年で一番の閑散期である2月も終わり、これからは本格的な歓送迎会シーズンとなる。3～4月は団体客の来客数が見込めるため、売上への好影響を期待している。
		観光型旅館（スタッフ）	・ゴールデンウィークでは、長期休暇を取れた客は海外などの遠方へ行くのだろうが、今年は飛び石連休のため、短期の国内旅行の需要が高いと見込んでいる。また、休日の分散化が進めば、連休前後についても多少の伸びが期待できる。
		都市型ホテル（経営者）	・春の訪れが早くなる様子である。また、ガソリン価格も安値で推移していることから、個人客の動きが活発になり、景気を下支えするのではないかと期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・春に向けての桜関連の観光と、アフターデスティネーションキャンペーンによる集客イベントなどに期待をしている。
		通信会社（営業担当）	・新生活応援キャンペーンに合わせて、新たな商品ラインナップを複数同時に提供開始するため、低迷している新規客の加入を見込んでいる。特に格安の携帯電話など、他の商品と同時加入した場合の割安感も大きいので、トータルの売上増加も期待できる。
		観光名所（職員）	・県内に入ってくるインバウンド客は非常に多く、余す所なく見て回っていることで当地域にも訪問している様子である。そのため、来客数、乗船人数の底上げとなり予約も順調に入ってきている。この状況が続けば大変好調に推移するとみている。
		観光名所（職員）	・春の桜シーズンに向けてイベントを組んでおり、来客数は増加する見込みである。
		遊園地（経営者）	・春は暖かさが続くという3か月予報がでている。また、開業した地下鉄の効果も徐々にでてくることを期待している。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・石油製品の価格が底値の状態を維持しているため、好調な状態がこのまま続くともみている。
		住宅販売会社（経営者）	・商業用地の検索依頼が途切れない状況である。また、大規模用地仲介が、建築受注の足掛かりとなっている。
	変わらない	商店街（代表者）	・全体的にあまり例年と変わらない春先となるのではないかと。やはり公立高校の合格発表の時期を過ぎないと消費の動きに活発さが出てこない。
		商店街（代表者）	・良くなるような要因が見当たらない。
		商店街（代表者）	・国内景気が不安定ななか、異常気象が追い打ちをかけている。加えて消費税率10%への引上げの話が持ち出されると大いにづらい状況となる。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・今年は暖冬のため、当店の文化商材は好調さを維持できると期待をしていたが、あまり動きがなく、消費マインドは相当落ち込んでいるのではないかと。この傾向が春までにどの程度の動きとなるのか全くわからない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・当地域では中国人観光客が訪れることは皆無に等しいため、首都圏のような爆買いは全くみられていない。当分は景気が良くなるとは考えられない状態が続くとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ここ数か月は前年比を上回って推移しており、この傾向は継続するとみている。また、客の様子からも買い渋りなどは見受けられない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・いまや日本経済は国内要因より国際的な経済の影響を強く受けているが、今後しばらくは海外の経済情勢は安定した状態を維持するとみている。
		百貨店（売場主任）	・不安定な気候により季節感がわかりづらい状況が続くなか、洋品雑貨関連のピークが読みにくく、この先は返礼ギフトや入卒需要の盛り上がり期待するしかない状況である。
		百貨店（営業担当）	・春夏物が動き出す時期であり、婦人服の回復次第では景気が上振れする可能性もあるが、大きな変化要因がないため景気自体は変わらないとみている。
		百貨店（営業担当）	・地方では個人の所得増加に期待が持てないため、消費に活気が戻るのは難しい。
百貨店（買付担当）	・消費税率10%への引上げ前の駆け込み需要もまだなく、必要なもの以外は買わないという傾向は継続するとみている。		
百貨店（売場担当）	・婦人服は大きいサイズに関してはかなりダウントレンドしている。来客数が減少していることもあるが、サイズレスの商品が多く出回っており、更にネット販売など、百貨店以外でも購入する場所が選択できるなど、状況が変化している。そのため、相当な仕掛けや施策を考案していく必要がある。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経営者）	・先行き不透明な経済政策のニュースや、消費税率10%への引上げへの不安などから、客の消費意欲は抑えられていくのではないかと懸念している。ただし、その一方で瞬間的に需要喚起につながる商品やイベントが数多く出てくるとみている。
		百貨店（経営者）	・日銀のマイナス金利導入以降、百貨店友の会への入会希望者が明らかに増加している。預貯金の金利低下を懸念しての行動であり、消費者の生活防衛意識が高いことへの表れである。そのため、消費税率10%への引上げまでは景気に変化はないとみている。
		百貨店（経営者）	・必要なものしか購入しないという傾向に変化はなく、客単価は維持しているものの、来客数の減少傾向が続いており、当面は現状維持で推移するとみている。
		スーパー（経営者）	・3月も現在の傾向のまま推移するとみている。しかし、地方ではお金の循環が低調な印象であり、客の財布のひもはやや固くなっていくのではないかとみている。
		スーパー（経営者）	・給与ベースが伸びないまま、1年後に消費税率10%への引上げという重しがある。景気が回復するような要素は見当たらない。
		スーパー（店長）	・桜の開花予想時期が例年より早まっており、ゴールデンウィークにおける行楽関連の期待感が薄くなっている。そのため、先行きが良くなるような要素は見当たらない。
		スーパー（店長）	・商圈内の競合状態に変化はなく、これといって景気が回復する要素も見当たらないため、現状維持のまま推移するとみている。
		スーパー（店長）	・先行きの景気が不透明であり、まだまだ客には節約感が見受けられる。
		スーパー（総務担当）	・ガソリン価格の安値傾向が続いているが、株価は低迷している。一方、長期予報では春は暖かい日が続くようであり、特に景気が大きく左右されるようなことはないかとみている。
		スーパー（営業担当）	・過去1年間の既存店の売上、来客数、買上点数、客単価の推移はほぼ前年と変わりがなく、今後も数値が良くなるとは考えにくい。
		コンビニ（経営者）	・客単価が微減で推移し買上点数も横ばいが続いている状況のなか、4月にはたばこの一部銘柄の値上げも確定している。今後もたばこの販売量の減少が懸念されることから、回復基調には至らないとみている。
		コンビニ（経営者）	・来客数の微増と客単価の微減により、売上の前年比はぎりぎり100%をキープしている状態であるが、どちらも良くなる気配がない。
		コンビニ（エリア担当）	・外部環境が大きく変化する要因は見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・やや下降気味ではあるものの微減に留まるとみえており、先行きの景気はさほど変わらないのではないかとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・天候などの好影響に期待したいが、先行きは不透明である。
		コンビニ（エリア担当）	・天候以外に状況が好転する要素は考えにくく、来客数が増加するような特需も今のところはない。
		コンビニ（店長）	・気候変動が大きく、客の行動が落ちつかないことに加えて、この先売上が増加するような事象は見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・客の購買意欲が低迷している。春のファッショントレンドも特に目新しいものはなく、消費を刺激するようなものが何も見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・マイナス金利により新築住宅が増加し、それにかかわる多くの企業が潤うようになれば、景気回復もみえてくるのではないかとみている。
		衣料品専門店（店長）	・客は買物に慎重であり、安くても余分な商品は購入しないケースが非常に増えている。
		衣料品専門店（総務担当）	・現在の景気は停滞しており、必要最小限の必需品しか購入しない傾向が続いている。また、この先に期待できるような要因も見当たらない。
		家電量販店（店長）	・年間を通して来客数が減少している。
		家電量販店（従業員）	・客単価は上がってきているものの、来客数が減少している状況が続いている。
		乗用車販売店（経営者）	・新型イベントに乏しく、しばらくは現状が上向くような気配はみられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の発表もなく、販売量が伸びない状態のまま決算期が終わるとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・1月は初売りのために来客数は若干増加したが、2月には結局元に戻ってしまっている。これから2～3か月でこの数字が再び増えるとは考えにくい。
		乗用車販売店（店長）	・ガソリン価格が落ち着いているため、新型HV車の増販はあまり期待できない。また、来客数増加につながる話題も見当たらない。
		住関連専門店（経営者）	・3か月先は春となるため、自宅の整理や片付けなどで多少は商品の売上が増えるのではないかと期待している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・これから異動シーズンとなって消費に動きが出てくるとみているが、前年以上の動きは期待できない。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・ガソリン価格や灯油価格の下落により、家計に多少の余裕が生まれているだろうが、買い回り品の購買につながるかどうかは不透明である。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・春先にかけて明るい材料はなく、このままの状況で動いていくのではないかと。また、ガソリン価格の下落によってどれだけ春の行楽シーズンに寄与するのか、可処分所得の低迷を打破できるかどうかは不透明であり、今後の賃金の上昇がどの程度になるのかをみていきたい。
		一般レストラン（経営者）	・新しいシーズンとなり、いろいろな集まりで飲食店の使用頻度が激増する期間となる。そのため、この先2～3か月は飲食店、業者共に忙しくなる。
		観光型ホテル（経営者）	・ふるさと旅行券が2月で終了したことによる反動で、3月以降の予約が今一つ良くない状況である。
		観光型ホテル（スタッフ）	・業種間において、景気格差が出てきている。
		観光型旅館（経営者）	・地方や小規模事業者にとっては明るい材料は特にない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・前月から来客数に動きがあるが微増のままで続いている。また、先行きの予約状況に大幅な増加はみられず、停滞感が漂い始めている。
		旅行代理店（店長）	・政治が混沌としており、経済的に楽観視できる状況ではない。
		旅行代理店（従業員）	・春先やゴールデンウィークの先行受注状況は、あまり良いとはいえない状況である。
		タクシー運転手	・地元周辺は建設ラッシュであるが、周囲からは景気が特に良い悪いといった話を聞かない。そのため現在の状態のまま続くのではないかと。
		タクシー運転手	・客は消費税率10%への引上げに対してかなりの不安を感じている様子である。このような状況で景気が良くなるとは考えにくい。
		通信会社（営業担当）	・来年の消費税率10%への引上げを控えて、当面は現状維持となる見込みである。
		通信会社（営業担当）	・景気が変化するような材料に乏しい。
		テーマパーク（職員）	・ここ数か月間は客の購入単価に大きな変化がない。特別悪くなっているわけではないが良くもなっていない。
		遊園地（経営者）	・ガソリン価格は下がっているが、この先の価格の変動次第では景気動向にも影響が出てくるとみている。
		競艇場（職員）	・この先2～3か月は大きなイベントがなく、来客数はそれほど見込めない。
		美容室（経営者）	・北海道新幹線開業への期待はあるものの、当店には直接の影響はないとみており、現在の状況が続くとみている。
		美容室（経営者）	・客からもあまり良い話を聞かないため、先行きの状況に変化はないとみている。
		美容室（経営者）	・これから春に向けて外出する機会が多くなるが、そのために美容室に行く人は以前と比べて減少している。自分でセットする人が多くなっているのではないかと。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・消費税率10%への引上げ前の駆け込み需要とみられる問い合わせが増えていない。
	やや悪くなる	百貨店（総務担当）	・マーケット全体が縮小傾向にあるなかで、起爆剤となる政策の不在や、ここへきてのアベノミクスの不調により、消費者マインドが低下していきとみている。
		スーパー（経営者）	・円高、中国経済減速、米国利上げなどにより賃上げが停滞している。これが雇用に影響するようだと、消費も下降傾向になるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・例年2～3月は建設業関係が忙しくなる時期であるが、それほど忙しいといった様子はみられない。そのため、3か月先は暇になってしまうのではないかとみている。
		コンビニ（店長）	・春になり売上の増加が期待できるが、競合店のオープンもあり例年よりも厳しくなる見込みである。また、競合店の出店ペースが速く、その多くが経営している複数店舗の近くにオープンする予定であり、経営自体が難しい態取りとなるとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・過疎化の進む地方にとって、明るい見通しを持つことは難しい。
		衣料品専門店（店長）	・異常気象に加えて消費税率10%への引上げが控えており、消費者マインドが冷え込むことで苦戦が見込まれる。
		家電量販店（店長）	・ニュースでは、株価の下落や原油価格の低下などがマイナス要因として報じられていることから、客がやや警戒をしている。また、マイナス金利など先行きの不透明感が客の意識のなかに広まっており、購入マインドが少し弱まっている。
		家電量販店（店長）	・高付加価値商品の動きが鈍ってきている。
		乗用車販売店（店長）	・3月の決算以降は販売量が落ち込む傾向にある。
		一般レストラン（経営者）	・株価の下落傾向がこのまま続けば、景気は若干悪くなるのではないかとみている。
		一般レストラン（経営者）	・所得が上がるという見込みもあまりなく、社会情勢の不安定、少子高齢化など、いろいろな意味で先行きが明るくなるような要因が見当たらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・個人客、法人利用共に、前年同時期と比べて予約状況がやや減少している。また、来月以降も芳しくない状況である。
		旅行代理店（経営者）	・この先は北海道新幹線開業などの明るい材料があるものの、消費者マインドは下降傾向にあるのではないかとみている。先行契約も決して良い状態ではなく、横ばいもしくは若干悪い状態である。
		タクシー運転手	・タクシー業界への客足がますます遠のいていくとみている。
		通信会社（営業担当）	・マイナス金利政策や政治不安の兆候から、投資家の動きが鈍くなるのではないかとみている。また、原油価格も不安定で先行きが不透明のため、更なる倒産企業が増える懸念もあり、この先の景気は悪くなるとみている。
		通信会社（営業担当）	・売上の減少が先行きに影響するとみている。
		悪くなる	商店街（代表者）
乗用車販売店（経営者）	・円高、株安に加えて、金融機関の収益悪化傾向による車両代替意欲の減退のため、先行きは悪くなるのではないかとみている。		
住関連専門店（経営者）	・2～3か月後の受注残高はそれほど多くはなく、今月と比較すれば相当落ち込むとみている。特別注文家具をベースとして受注活動をしており、例年4～6月は大変苦勞する。		
高級レストラン（経営者）	・国際情勢、株価、それ以外のものすべてにおいて、何一つ良くなるような要素がない。		
一般レストラン（経営者）	・この先の消費税率10%への引上げが懸念材料である。		
企業 動向 関連 (東北)	良くなる やや良くなる		-
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・3月には駅周辺の大型商業施設のオープンや北海道新幹線開業など、駅の利用者数の増加が期待できるため、土産物の売上増加を期待している。
		建設業（従業員）	・年度をまたいだ発注がある。また、新年度になるため、各事業者から一定量の工事発注の可能性を見込んでいる。
		広告業協会（役員）	・来月は北海道新幹線の開業、駅ビルの増築オープン、電気料金のオープン化、マンション関係の発売などにより期待が持てる状況であり、景気は多少の回復に向かうとみている。
		広告代理店（経営者） 司法書士	・夏の参議院選挙に向けて、多少の動きがあるとみている。 ・住宅分譲地の開発などの話が少しずつ増えている。
		農林水産業（従業員）	・果樹農家の前年の収入は例年並みのため、生産資材の購入にまわすことができている。
		食料品製造業（経営者）	・3月の北海道新幹線開通後、観光客の流れがどのように変化するかで状況も変わっていく。
		食料品製造業（営業担当）	・景気が好転する要素もなく、じり貧の状態が続くとみている。
		木材木製品製造業（経営者）	・住宅需要の見通しがみえない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		土石製品製造販売（従業員）	・年度末は道路補修工事が多く大きな工事が無いため、現状維持で推移するとみている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先からの受注量に変化がない。
		建設業（経営者）	・景気が低迷しているのか、先行きの受注も鈍くなっている。
		通信業（営業担当）	・顧客の契約の更新が予断を許さない状況であり、今後も継続して顧客に対するきめ細やかな働きかけを行っていく必要がある。
		通信業（営業担当）	・政治次第である。
		金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因はない。
		経営コンサルタント	・何よりも消費者が将来に対して安心感を持てるかどうかのポイントである。
		公認会計士	・全体的には建設関係が好調を維持しており、大きな変動はないとみている。
		コピーサービス業（従業員）	・マイナンバーに関連する売上を見込んでいたが、期待したほどではない。セミナーなどを開催しても受講者は関心を持つものの、受注には結びついていない。
	金属工業協同組合（職員）	・依然として事業内容によって業種間に温度差があるため、先行きは不透明である。	
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・暖冬の影響で果樹の休眠開けが早まっている。そのため、春先の低温で花芽が悪影響を受ける可能性が高いとみている。
		食料品製造業（総務担当）	・企業業績を取り巻くマクロ環境の不透明感は著しく強まっている。日銀のマイナス金利導入も歯止めにはなっていないように見受けられる。
		繊維工業（経営者）	・大企業は大変良い様子であるが、中小企業はあまり良くない状況である。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・連休の多い5月は売上の動きが鈍るため、やや悪くなるとみている。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・株式市場が低迷していることやマイナス金利が導入されるなど不安要素も多く、企業はとて上質上げをできるような状況ではない。個人としても不景気に備えて消費を抑えるようになり、全体的に景気は低迷していくとみている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・新規発注はそれほど多くはなく、先行きは不透明である。消費税率10%への引上げ前の駆け込み需要が入ってきている状況にあるが、その先の急激な落ち込みを恐れている企業が多い。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・電子、電気部品業界における、製品価格の下落傾向が回復する要素が見当たらない。そのため、業績、給与への影響が徐々に始まっている。
		輸送業（経営者）	・一部の荷主から値下げの要求があり、それに対応しなければならぬ状況である。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・広告宣伝の絶対量が減少する見通しであり、競争のなかで少ないパイを取り合うこととなる。そのため、値引き要請の前に低価格の姿勢を示す必要が出てきている。
その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・取引先の中長期予測が、若干落ちてきている様子である。		
悪くなる			
雇用関連 (東北)	良くなる		
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・来期の採用計画において、中途採用を積極的に行う企業が増えている印象がある。そのため、先行きの状況はやや良くなると見込んでいる。
		アウトソーシング企業（社員）	・3月も仕事の予約がきており、良くなるとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・東日本大震災から5年目を迎えて一つの区切りと捉えられている。加えて、駅周辺の再開発、北海道新幹線開業などにより、3月は盛り上がっている。この状況が景気に反映できればその後も多少の上向き加減になることが期待できる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・3月の北海道新幹線開業に伴う観光客の増加を期待している。
	民間職業紹介機関（職員）	・新年度新規採用者の入社により生産性が上がるため、活発になるとみている。	
変わらない	人材派遣会社（社員）	・年度末需要は一服しており、現在は4月に新年度開始の受注が入っている。しかし、既存登録者からの引当が遅れており、新規の登録者も当てにできないことから、今後2～3か月は現状維持で推移するとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・来春卒業予定の大学3年生が、東京のベンチャー企業からすでに内定をもらっているケースがある。この様子からも相変わらず売り手市場が続くとみている。
		人材派遣会社（社員）	・求職者数に増加の兆しが見えていない。
		人材派遣会社（社員）	・当市では新規大型店舗の開店ラッシュを迎えており、販売接客、サービス系の人材争奪戦はさらに過熱するとみている。既存店舗への影響も大きく、消費者の動きに対応しきれない店舗が増加するのではないかと。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・景気が良くなっていると実感している企業はほとんどいないのではないかと。来春の消費税率10%への引上げ前の駆け込み需要を期待しているものの、その後の反動減を心配しているのが実情である。
		職業安定所（職員）	・医療機器製造業での工場増設、食肉加工業の加工場新築が3月末に完成予定であり、それに伴う雇用の増加を期待している。
		職業安定所（職員）	・円高傾向など、良くなるような要因が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・新年度になり、求職者はある程度増加する見込みである。ただし、建設、医療、卸小売、サービス業の人手不足感はますます強くなるとみている。
		職業安定所（職員）	・管外では製造業、小売業において工場閉鎖や販売不振による今後の大規模な雇用調整の情報があるものの、管内への影響は少ない模様である。また、医療福祉業、建設業などの人手不足が継続しており、情勢は同水準で推移していく見込みである。
		職業安定所（職員）	・人手不足が解消されていない業種が多い。また、求人数や事業者数は変わらないものの、1社当たりの求人数が徐々に減少の傾向がみられている。大きな変動ではないが、当面はこのような状況が続くとみている。
		職業安定所（職員）	・求人の状況はここ数か月と変わりなく増加傾向にある。また、現在のところ企業の大規模な創業及び人員整理の情報はない。求人の好調感はあるものの、内容としては非正規求人割合が多いため応募者の反応は鈍く、景気が大きく改善するほどの印象はない。
職業安定所（職員）	・有効求人倍率は2か月連続で低下している。新規求人数も前年比で増加、減少を繰り返しており、今後もこのような動きは続くともみている。		
やや悪くなる		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・世界経済の先行きへの不安感から、設備投資や雇用投資が鈍る可能性が高いとみている。
		職業安定所（職員）	・1月の月間有効求人数は、約2年ぶりに9,000人台に減少している。3か月前、6か月前、9か月前との比較では共に3～5%の減少となっているため、3か月後も厳しいとみている。
悪くなる		-	-

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計動向 関連 (北関東)	良くなる	商店街（代表者）	・桜のシーズンを迎えるにあたり、観光バスを中心に交通渋滞は必至である。	
		コンビニ（経営者）	・毎年4～5月は天候が良くなり、催し物が多くなって人々の様子も活発になるので、良くなる。	
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・季節の変わり目ということもあり、亡くなる方が増える。また、家族や近親者で葬儀をとり行いたいという方が増えてきている。	
	やや良くなる	商店街（代表者）	・景気が良いと言われている割には良くなかったが、そうはいっても給料もいくらか上がったという話も聞くので、だんだん良くなるのではないかと。	
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・季節も良くなりイベント等、積極的に行動すれば、客の反応も上向いてくるのではないかと思う。	
		百貨店（店長）	・春に近づき、気温が上がってくるため。	
		スーパー（商品部担当）	・行政での観光誘致活動、集客目標数値、活動目標などを踏まえ、期待も込めてやや良くなると回答した。	
		スーパー（副店長）	・雪国に春が訪れ、今年は地元の名刹の7年に1度の祭もあり、地域に活気が出るとみられる。原油安の影響も、生活に大きな好影響となっている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・今年は大河ドラマの地元ということで、ある程度観光客の増加が見込める。地元は大分盛り上がっているため、業績も上がっていく。
		コンビニ（経営者）	・2月初めに道路がインターより開通し、交通量が少しずつ増えているので、客数もそれに応じて伸びていく。
		コンビニ（店長）	・現状があまりにも悪すぎるので、幾分期待している。
		衣料品専門店（統括）	・客の様子、動きも同じだが、春祭りや春の行事に向けてやや準備に入ってきているような動きが出ている。今後暖かくなり、祭り等の動きが出てくれれば良いかなと思っている。
		住関連専門店（仕入担当）	・春の訪れが早まりそうで、園芸やレジャーなどの動きが期待できる。
		一般レストラン（経営者）	・客単価が下がっていないため、これからの客の動きに期待している。
		スナック（経営者）	・前月と比べて今月の方が客が元気になっているので、このまま上向きになってほしい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・2～3か月先になると信州も非常に暖かい日差しが立ち込めて春らしくなり、人もうきうきと街を歩いて表に出ることが多くなるので、景気が回復していく。
		都市型ホテル（スタッフ）	・5月はゴールデンウィーク明けの需要が気になるころではあるが、3～4月は順調に売上が伸びている。
		都市型ホテル（副支配人）	・3月は毎年繁忙月となるが、現時点で既に例年以上の予約状況で推移している。4月は募集型の団体が多く不透明ではあるが、ゴールデンウィークに向けて盛り上げていきたい。
		旅行代理店（所長）	・団体需要は期待にはまだ遠いが、個人旅行については伸びが期待できる。特に、ゴールデンウィークは2日休むことにより10連休となり、3連休が2回含まれるので、長期、短期旅行いずれのパターンでの需要も期待感が高い。
		旅行代理店（従業員）	・ガソリン代が下がっているため。
		タクシー運転手	・3～4月は歓送迎会の時期なので、悪いなりに多少は動きがあるとみられる。
		テーマパーク（職員）	・早春になることや、例年よりも暖かな日が多いなどの長期予報が出ているからである。
		ゴルフ場（支配人）	・予約状況は伸びている。やはり暖かくなるにつれ、プレーヤーは外で体を動かしたくなっているようである。健康寿命を延ばす意味でも、ゴルフを長く続けて欲しい。
ゴルフ場（総務部長）	・4月の来場者の予約状況は、順調に推移している。		
変わらない		商店街（代表者）	・卒業、入学そして行楽シーズンということもあり、貯蓄より消費に回って、景気が好転することを期待したい。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・毎年のことだが暖かさが続かないと活気も出て来ないため、春が待ち遠しい。また、今年は選挙が控えているので、人の動きが悪い。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・年度末、新年度に向けて商品の動きを期待したいが、消費者の購入意欲は見えてこない。年々、大学等への進学の際に家電が必要なくなり、季節商材も含め、時期的な売上を伸ばしていくことが難しくなっている。
		百貨店（営業担当）	・株価は乱高下しており、石油も安定はしているがやや高止まりになってくる感じなので、特段良くなる要素が見つからない。
		百貨店（営業担当）	・全体的に低調な消費傾向は変わらないが、ガソリン価格が下がってきているので今後の客足に期待したい。プラス要素としてはこの程度しか見当たらず、今後2～3か月先も変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・婦人、紳士衣料の不調が継続している。春商戦の立ち上がりを見ても、この傾向は変わっておらず、当分の間継続するとみられる。
		スーパー（経営者）	・大きな変動はない。
		スーパー（総務担当）	・社会状況も特に変わるような要因がなく、店の状況も前年の数字はなんとかクリアしており、食品と日用雑貨が好調である。その反面、その他は厳しく、余計な物は買わないという消費者意識がうかがえる。
		コンビニ（経営者）	・現内閣もごたごたしており、好材料が見当たらない。
		コンビニ（店長）	・前年と違って工事関係がないので、前年比では大分落ちているが、それがなければ客単価は落ちていないので、景気が大きく落ちていくという状況ではない。
		衣料品専門店（販売担当）	・時期的には十分入出が良くなる時期になるが、それでも今の景気から良くなる要素が見当たらないという実感である。残念ながら今しばらく停滞が続くのではないかとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・転勤や新入学など移動に伴う春の需要が年々小さくなっている。そのため、単価を上げて帳尻を合わせている状況なので、人口増加が望まれる。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車販売は全国的に減少しており、税制の優遇も期待できないことから、販売が上向き要素は見つからない。
		乗用車販売店（販売担当）	・これ以上策はない。万策尽き果てたという感じである。何をやっても売れないので、もう景気が良くなる可能性はない。悪くなる一方だが、これ以上悪くならないで欲しいと願っている。
		乗用車販売店（販売担当）	・ここ何年か営業関係の販売車数の落ち込みがひどいので、これから先も大して希望を持ってない。そのため、当社では車両展示場を従来の半分くらいのスペースに縮小して、修理部門の方に力を入れるように少しずつ方向転換をしている。とにかく販売台数が落ち込んでいるので、当社の景気は上向きにならない。
		乗用車販売店（管理担当）	・日銀のマイナス金利施策が、為替や株価、春闘といった今後の景気にどのような影響を起こすか不透明であり、これにより消費は停滞する。
		自動車備品販売店（経営者）	・身の回りでは特に良くなる材料はなく、消費税増税の不安感があり、若干財布のひもが固くなっている。良くも悪くも自分の努力でしていくしかない。
		住関連専門店（経営者）	・株価に象徴されるように、経済に対する不安感があるようで、消費税増税が迫っている警戒感から、必要最小限なものしか購入しないという消費に対する客の姿勢を感じている。
		住関連専門店（店長）	・景気が良くなり、売上が上がるような材料はない。3～4月は基本的に上昇するので、どれだけ園芸用品やレジャー、自転車等の商材の売上を上げられるかがポイントである。
		一般レストラン（経営者）	・政府が地方創生政策を進めているようだが、なかなかその結果が表れていない。一極集中でないが、東京だけが繁栄して、他県や地方はまだ景気が回復傾向にない。
		一般レストラン（経営者）	・厳しい状況は相変わらずだが、現状以上に悪くなっていく要素もないので、現状維持で変わらない。
		スナック（経営者）	・変わらないという答えだが、とにかくもうこれ以上悪くならないように、変わらないで欲しいという要望である。株をやっているわけではないが、株の下落や金利などいろいろなこと、小規模商店はとても大変である。
		観光型旅館（経営者）	・今年の春は大河ドラマ放送の影響で人の動きは良い。今月も比較的良好な状況なので、良いまま現状維持と考えている。
		都市型ホテル（営業担当）	・1年間の中で4月は稼働率が上がる月である。法人の新人研修等で各ホテルの稼働率は上がるが、これは景気が上向いたというよりは前年同様の稼働増である。良くなる要素としては現状とあまり変わらない。
		タクシー（経営者）	・夜の動きが悪いので、この先も変わらない。
		通信会社（経営者）	・進学、新社会人の時期であるが、通信業界の競争が激しく、状況は厳しい。
		通信会社（経営者）	・今年になってからの株価の下落と日銀のマイナス金利等の反応は、半年後でないと分からない。
		通信会社（営業担当）	・当面今の状況が続く。動向がつかみにくいこともあり、全体の動きが鈍くなる可能性が高い。
		遊園地（職員）	・春に向け、花見目的の客が着実に増えると想定しているが、景気に大きな影響が出るとは考えていない。
		美容室（経営者）	・これから中学、高校の卒業式が続くため、来客数が徐々に増加する予定である。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・行政、団体、商工機関を始め、街の商店会などが、もがき苦しみながら改善策を図っているが、地方は大方の産業が疲弊しているため効果がない。自動車整備業も、板金塗装業などは特に保険会社の事故割り引き制度施行後、入庫が激減し、零細業者には死活問題である。2～3か月では良くなるとは思えない。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・販売量、来客数共に横ばいが続く。予約状況がすべて横ばいの上、キャンペーン商品などがあっても飛びつかず、買い控えしているので、変わらない。
		その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・最近の経済情勢も足踏み状態であり、この先も変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・別荘の解体数が新規建築数を大幅に上回っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・特に変化が見込まれる要因がない限り、同じような状況が続く。
		住宅販売会社（経営者）	・地方のため、地価の下落とまではいかないが、まだ下がり気味などところがある。少しも上向きになっていない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・地方創生で活力を付けると、政府がかけ声をかけているが、小売店の現状はひどくなる一方である。
		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・当店は学校関係の販売をしているので、1～2月は来春進学する学生の制服等が多少動いているが、その他は動いていないので悪くなっている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・市場や会議所等でいろんな人と話をすると、景気が良くなっていると実感していると、まず聞いたことがない。地元大企業も地元工場も良くないようで、良くなる気配がうかがえない。
		百貨店（店長）	・新年からの株価下落の影響もあるのだろうか、上得意の購買意欲も落ちている。また、地方ではインバウンドもあまりない。
		スーパー（統括）	・政治、経済情勢の変化が大きく、今はなんとなく心配で衝動買い等を抑制して財布のひもを締めるという消費傾向が、1人当たり買上点数の減少や客単価低下に顕在化し始めて来ている。先行きの消費の先細りが懸念される。
		コンビニ（経営者）	・日銀のマイナス金利により、株価が下がっている。それに輪をかけてのように、天候も不安定で、降雪が多い。天候不順、株価の下落、客の買い渋りなどが目立っているため、先行きの景気は少し悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・近隣の工場が業績不振で、競合店もできるため、やや悪くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・4月以降に受注が減るためである。
		乗用車販売店（経営者）	・2～3月は期末のため車検台数もそこそこにあるが、これからの3か月先は少し読み難い。円高に転じてきたので輸出企業の多い当地方は名目上の為替差益は少なくなるが、庶民の消費意欲は高まって欲しい。
		一般レストラン（経営者）	・物価の上昇に対し予算は上がっていないので、工夫をしても利益を出すのがかなり厳しくなっている。根付いてしまった世知辛い感も抜けていない。
		旅行代理店（副支店長）	・今後モインバウンドの旅行者は伸びるが、邦人の国内需要が落ち込む傾向にある。先行きの受注状況や企業の社員旅行、企業出張などの状況を見る限りでは景気低迷が懸念される。
		タクシー運転手	・消費税の問題やマイナンバーの関係で、これから財布のひもを引き締めるのではないかとされる。
		タクシー（役員）	・今後の景気に対してマイナス要因が多くあるため。
		通信会社（社員）	・事業者からの手数料が減少するため。
		観光名所（職員）	・春から観光シーズンとなるが、今年は北海道新幹線の開業による他方への旅客の流れを懸念している。
		競輪場（職員）	・特別競輪、記念競輪レース共に売上がなかなか目標額に達しないため。
		美容室（経営者）	・美容室に来る客でさえ、政治を話題にすることも多くなっている。地方の冷え切った景気はどうかしてほしい、と口にする客もいる。銀行から融資を受けようと思わない経営者は、返済に不安を感じている。この町でも老舗と思える店舗がいつの間にか店を閉じている。決して他人事では済まされない。
		その他サービス〔貸切バス〕（経営者）	・名刹の7年に1度の大会祭りが4～5月にあるため、旅行に行かなくなる。
		設計事務所（所長）	・どうも様子見の傾向なのか、確実な物件が入ってこない。
	悪くなる	一般小売店〔乳業〕（経営者）	・末端の消費意欲を向上させるような好材料がほとんどない。
		通信会社（経営者）	・先行き不安から消費者の購買意欲がなくなっている。2%の物価上昇を目標と言いながら、規制緩和で市場競争をあおるのはどうかと思う。結果、企業も先行き不安から設備投資ができない。そこで働く労働者も同様に将来に安心感が持てないから物を買わない、という負の連鎖が続いている。今の世の中には、一生懸命働けば家を建てられ家族を持てる、という安心感がない。結局、誘導により円安になった分、一時的に一部の企業が潤っただけではないか。出口を考えると恐ろしい。食べていけるという安心感こそ1番必要である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連 (北関東)	良くなる	輸送用機械器具製造業 (経営者) その他製造業 [環境機 器] (経営者)	・輸出が増加している。 ・自社の太陽光発電が合計3.5メガ、自社開発60%の連携 で、3本目の事業柱として順調に推移している。廃家電プラ ントのフロン回収機関連の納入は一巡しているため、全体と しては横ばいである。
	やや良くなる	金属製品製造業 (経営 者) 広告代理店 (営業担 当) 経営コンサルタント その他サービス業 [情 報サービス] (経営 者)	・営業活動を行うとそれなりに仕事が集まるため。 ・新年度の販促予算が若干増えている。ツールを新しく作成 したり、ホームページを作り直すなど、引き合いが多くなっ ている。 ・年度切替の移動や生活環境の変化に伴い、家計消費が多少 盛り上がりが見込まれる。 ・引き合い、商談件数が増加しており、収益の改善が図られ ると期待している。
	変わらない	食料品製造業 (製造担 当) 食料品製造業 (営業統 括) 化学工業 (経営者) 窯業・土石製品製造業 (経営者) 窯業・土石製品製造業 (総務担当) 金属製品製造業 (経営 者) 一般機械器具製造業 (経営者) 電気機械器具製造業 (経営者) 電気機械器具製造業 (営業担当) 輸送用機械器具製造業 (経営者) その他製造業 [消防用 品] (営業担当) 輸送業 (営業担当) 通信業 (経営者) 金融業 (調査担当) 金融業 (経営企画担 当) 金融業 (役員) 不動産業 (管理担当) 新聞販売店 [広告] (総務担当) 司法書士 社会保険労務士	・10円、20円の差が大きく出ている。客は少しでも安い方へ なびいている。景気は言うほど良くない。しかし、安売りは 自分の首を絞めるだけなので、体力戦になる。 ・ワインの消費が、国内ばかりでなく東南アジア諸国への J E T R O 等による輸出促進の話があり、増加が予想される。 円の動向や経済の推移、チリ等の低コストの輸入ワインによ る攻勢もあり、今後の動きが不透明な点もある。 ・建設関係が上向くのではないかとの期待があるが、具体的 な情報がなく、変わらず推移するとみられる。 ・現状のまま推移するか、やや上向きになる可能性がある。 ・例年に比べ、大分落ち込んでいる。 ・なかなか仕事が多くなることはない。先行きも不明で、こ のままの状態は困るが、変わらなそうである。 ・客先の情報から、大幅な減産、増産の計画はなく、比較的 堅調に推移する見込みである。 ・設備が古くなっているため更新したいが、先行きが不安定 のため、ちゅうちょしている。 ・引き合いが少ないため、受注競争が激しく、内容的にも厳 しい状況が続いている。 ・この1～2か月、取引先、販売量の状況はますますである が、2～3か月先は変わらないかやや悪いくらいとみられ る。 ・しばらくはこのまま推移すると考えるからである。 ・ネット通販等の商品物量は年々伸びているが、時期的な引 越依頼については、企業側も費用負担が少なく済むように人 事異動も減っており、合わせて引越依頼も減ってきている。 ・今のところ変わる要素がない。 ・改善に向かう材料が少なく、足踏み状況が続くとみられ る。 ・中国経済が不安定の上、原油安もあり景況感は改善しな い。 ・生産量が上がったたり、賃金が上昇しているわけではないの で、地域では底上げができず、最終需要も喚起できない。 ・今年も年度末の予算調整と思われる業務がいくつかあり、 見積等を提出していたり、建物の建替えに伴った新規業務の 話も来ているが、実現可能性がまだ見通せず、来年度の契約 更改案件も受注価格の引き下げ要請が来ているため、前年比 横ばいではないかと見込んでいる。 ・週3日発行の有料地域紙では、広告集稿が厳しくなってい る。広告単価も低く、企画物や定期出稿していた店でも断り 文句を聞く機会が増え、企画物がまとまらないケースも出て いる。 ・低位安定といった状態がまだ続きそうである。 ・車社会の地方は原油安で助かっているはずだが、消費はそ れほど上向いていない。
	やや悪くなる	一般機械器具製造業 (経営者)	・毎月受注量は微減傾向にあり、増量の計画はない。1年前 より始めた新規取引先の開拓は、何社か引き合いが来始めた ので、なんとか新規受注につなげたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・国内の景況感が回復せず、売上の低迷が続いている。春先用の企画商品を探している会社もあるので、回復に向かってくれればと期待している。業界としては、3月の香港での展示会での中国の顧客動向が鍵となる。来客数、購入が増えれば明るい兆しがみえるかもしれない。	
		建設業（経営者）	・公共工事は4～5月の発注が極端に少ない。	
		建設業（開発担当）	・現政権のもと2年連続で前年増であった発注額が、今年は前年比8%減であり、当社も10%減となっている。また、2020年の東京オリンピックで東京は建設ラッシュと好景気だが、地方は元気がない。東京の好景気のために、建設業では材料費、人件費が高騰してしまい、経営は厳しい。	
		建設業（総務担当）	・災害復旧工事以外は、動きがとて少ないので、先行きが大変不安である。	
	悪くなる	不動産業（経営者）	・二極化が今後も進むように見受けられる。	
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月資金繰りが大変である。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・造船の関係の仕事をやっているが、その仕事がほとんどなくなってきた。部店の売上に占める割合が3～4割の仕事がゼロになったということで、相当厳しい状況である。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先より、4月以降の受注が芳しくないため早めの生産調整をするから協力願いたいとの会議が行われた。	
雇用 関連 (北関東)	良くなる	-	-	
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・春先だと新入学、新学期に向けての春物商材、進学や転勤等で家電や衣料が伸びてくる。また、生産関係も徐々に機械や電子関連が伸びていく。新製品等も出てくるので、その辺が伸びるとみられる。あとは新年度に向けての土木建築、住宅なども動き始める。	
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・このところ、あまり良い話も悪い話もなく、あまり変わらない。	
		人材派遣会社（営業担当）	・動かなくても携帯など経費がかかる世の中であり、給与が上がることもないため、消費に回らないのが現実である。	
		求人情報誌製作会社（経営者）	・新年度に向けてこれから募集する企業も例年同様に増加してくるが、まだ景気が不安定なために正社員募集は少なく、パート、契約社員の募集が多い。	
		職業安定所（職員）	・求人数の増加傾向がやや収まっている。	
			職業安定所（職員）	・管内の主要企業に景況アンケートを行なったところ、今後の見通しとして、業種間でばらつきはあるが横ばいで推移すると予想した企業が多かった。前年同時期と比較すると、名刺のご開帳、新幹線効果のあった前年と比べ減少としている企業が多い。
			学校〔専門学校〕（副校長）	・職種に偏りがあるのは変わらない。この時期、補充という意味も含め求人職種が増える傾向があるが、内部での配置転換などでまかない、新規採用をしていないようである。
	やや悪くなる	人材派遣会社（管理担当）	・携帯電話の製造ラインが集約されることになり、製造派遣が減少するため、やや悪くなる。	
		職業安定所（職員）	・製造業において、離職を伴わない再編整理が行われたこともあり、今後もその動向に注視するとともに予断を許さない状況である。	
	悪くなる			

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	良くなる	コンビニ（経営者）	・まず言えることは、人手不足である。また、人手不足に逆比例して多くの客が来店する。そういう状況をみていると、これからまだ、景気は良くなるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・春は歓送迎会や入学等もあり、陽気も良くなって、人通りや商店街の人の動きも大分出てくるため、景気は良くなる。
		観光名所（職員）	・2～3月が一番の閑散期のため、2～3か月後になれば、春のシーズンで来客数の動きは良くなる。
		ゴルフ場（支配人）	・3月中旬からの予約数が急激に増え、やっと本来予定した来客数を見込めそうである。
	やや良くなる	一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・徐々に発注が増えてきている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・現在、北朝鮮や中国の問題、原油価格の引下げ等、嫌な報道が続いているが、徐々に回復していくのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔文房具〕 (経営者)	・新入学、新入社シーズンを迎えるため、文具に対する購買意欲の高まる季節となる。来客数及び購入単価も2月より上昇すると考えられ、売上は増加する。また、文房具の売出しに合わせて、折り込み広告も行なうため、新規客の獲得による売上増加も考えられる。
		一般小売店〔傘〕(店長)	・新入学を控えて需要が増えると期待している。
		百貨店(広報担当)	・前年6月から行っていた店舗高層階にある大規模食堂街の改装が終了し、2月下旬にグランドオープンとなり本格的に稼働を始めた。改装オープン後の食堂街の出足は大変好調で順調に売上を伸ばしている。この食堂街の改装効果は、当面持続すると見込まれ、これに伴い下層階の百貨店売場へのシャワー効果も期待される。
		百貨店(店長)	・春に向けて、卒入学等のセレモニー商品の動き、また、新生活に向けた家具、家電の動きが好調に推移している。
		スーパー(経営者)	・提案し続けるため、客の反応がやや良くなる。
		スーパー(店長)	・今月は店舗改装もあり、3か月後の数字は今よりも、やや良くなる。
		コンビニ(経営者)	・現在、店舗両隣でマンションの建設をしているため一般客の数は減っているが、工事関係の客で来客数、売上共に上がっている。
		コンビニ(エリア担当)	・たばこの値上げに対する駆け込み需要に期待がある。ただし、銘柄が限られるため、そこまで大きな影響ではないと考える。
		衣料品専門店(経営者)	・これからは小中学校の入学シーズンである。入学児童数が10%多いため、受注も前年より多い。
		衣料品専門店(統括)	・前年から春物需要の低下に伴う買い控えが続いているが、消費税増税前の最後の年となるため、需要が喚起されると予想している。
		家電量販店(店員)	・現状、市場の動きが緩やかで、景気の上昇はみえない。
		乗用車販売店(販売担当)	・ここ数か月間、やや良くなるのではないかと期待感を持って判断している。オリンピック、東北の復興、沖縄の基地の移転など、いろんな面で建築関係は、明るい材料があるのかと思うが、残念ながら、それらに従事する運送関係の現状は、景気が良いという判断は出ていない。ただし、良くなるのではないかと期待感、業界としては持っているようである。
		住関連専門店(営業担当)	・消費税率引き上げの影響か、大型リフォーム工事の引き合いが多くなっている。特に、外壁塗装工事に関する関心が高く、見積依頼が増加傾向である。
		その他専門店〔ドラッグストア〕(経営者)	・花粉関連が当初予想より良さそうのため、期待している。
		その他小売〔雑貨卸〕(経営者)	・来客数の動きから、やや良くなる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・株価の推移にもよると思うが、マイナス金利の影響が消費環境に貢献すると期待している。
		一般レストラン(経営者)	・2～3か月先は、多少売上が良くなる。やはり寒い時期は客の出足も悪いため、暖かくなれば、客の出足も良くなり、今より売上は増える。
		都市型ホテル(スタッフ)	・行楽シーズンに入り、状況は良くなる見通しである。
		都市型ホテル(スタッフ)	・お花見時期や東京オリンピックまでは、インバウンドの増加が見込め、稼働率、客単価も上がる。
		旅行代理店(従業員)	・九州、沖縄を中心に一般団体の動きが好調で、既にホテルや飛行機の予約が満室、満席の日程が多くなってきている。
		旅行代理店(販売促進担当)	・2～3か月後は、春の旅行シーズンとなる。特に3月末から4月の初めは卒業旅行などもあり、5月は連休もあるため、業界としては、間違いなく個人を中心に景気は良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・新聞などの報道によれば2月16日からマイナス金利政策が実施された。これによって円安株高への期待が高まったが、マイナス金利政策を決めた1月29日の日銀政策決定会合の翌週には株価が下落、円も高騰している。これは原油安など主に海外要因によるものだが、期待に反して円高株安が進み、マイナス金利政策に対する評価は現状では非常に低い。マイナス金利の効果はこれからじわじわ出てくると思われ、これは日銀の狙いでもある。6～7兆円のお金が市中に流入することで、貸出が増え、投資が増えたりし、株価上昇により景気は徐々に良くなるのではないかと。
		タクシー運転手	・1年のうちでも、2月の景気は良くない。先行き良くなる材料は乏しいが期待を込めての判断である。
		通信会社（営業担当）	・電力小売自由化により相乗効果が生まれ、契約数にもプラスに働いていくものと思われる。
		通信会社（管理担当）	・ライフスタイルの変化する新生活時期において、取り組み次第では好景気を感じることができると実感している。電力自由化など、人々が新たなものを選択する機会を世の中に提供できている。
		通信会社（経営企画担当）	・4月以降の商談数が増加傾向にある。
		ゴルフ場（経営者）	・新しい客をよく見かけるようになったうえ、来月大きな設備投資を考えているためである。
		ゴルフ場（支配人）	・客単価の上昇にまだ難しさは残るものの、これから春めいてくると、予約状況からも来客数の増加は見込めるため、やや良くなる。
		設計事務所（経営者）	・具体的な打ち合わせが始まるのは来月からであるが、新しい仕事が入り、顔合わせをした。契約は来期になると思われるため、ちょうど2～3か月後から大きな動きになってくるはずである。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税率の引き上げ前の駆け込みを考える客が増えてきている。特に1次取得者が多いと感じている。土地から購入もしくは分譲住宅を検討している若い方が動いている。今月の景気が悪かったため、2～3か月後の景気はやや良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・3月の期末に向けて、受注量は伸びる。また、消費税再増税関連がそろそろ出始めてくるはずなので、2月よりは、数が月間を上向きになる。
変わらない		商店街（代表者）	・円安株高だった状況からすると、最近の円高により、先行きはかなり不透明であるため、消費に対して非常に慎重になっている。そうしたなかで、為替相場や円、株価の動向等が、どのように変化するか分からないが、今後期待を持っているという感覚は、若干薄れているようである。
		商店街（代表者）	・最近の状態をみると、店の者は全員、落ちていると言っている。何が原因がよく分からないが、不景気であることは間違いない。景気を良くするためには、政府にも頑張ってもらわないと、我々だけではどうにもならない。
		商店街（代表者）	・国政が安定し、中国経済も静穏で、株価の乱高下もなければ、多少景気は上向き。波乱含みの要素が多い現状では、上向きとはなかなか言えない。また、消費税再増税のカウントダウンも始まるため、マイナス要素のほうが多い。消費に対する国の積極的な、てこ入れに期待したい。
		商店街（代表者）	・消費税再増税時の軽減税率導入可否によっては、逆に増税による先買い効果が期待できない。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・マイナス金利などの政策が、まだ小売店にはっきり出てきていないため、不透明なところが多く、現状とあまり変わらない。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・今では、客は商品情報をネットで調べ、価格を他店と比べているため、非常に販売が難しい。いかに差別化していくかが重要である。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・これから先の2～3か月は、景気が少しも良くなる気配がないため、変わらずに現状のままで行くのではないかと。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・変わらないと回答したが、現状が底であるため、これ以上悪くなること自体、考えられない。今が1番悪い状況ではないかと思うが、多少なりとも成長することを望んでいる。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・急激に上がるというようなことはない。今後それほど大型案件を期待できないが、急激に下がるということもない。これは、客数もある程度安定している状況が続いているためである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・出荷量も頭打ちで、新規客もなかなか増えない。
		百貨店（売場主任）	・デフレにより価格は上昇しているものの、賃金が増えないため、物価のみ上がっている。
		百貨店（総務担当）	・当社では衣料品販売が上がる要素に乏しく、先行き不透明であり、大きな改善は期待できない。株価も低迷しており、消費が進むとは考えにくい。何らかの打開策をデイリー性の高い食品や、美術、宝飾などの高額品で埋めていきたいが、今後どうなるか予測が難しく、注視していく必要がある。
		百貨店（総務担当）	・日本の景気全体が上昇しないと、郊外店舗は売上に結び付かない。
		百貨店（広報担当）	・都心部を中心に百貨店の販売は好調である。郊外店、地方店は、若干前年実績を割る状況であり、全体では前年を少し上回る状況が、ここのところ続いている。
		百貨店（営業担当）	・相変わらず、訪日外国人観光客の買上は良いが、国内客の買上は、衣料品をはじめとして食品、リビング用品、家庭雑貨、高級雑貨の動きが悪い。景気が後退傾向にあるように思う。
		百貨店（計画管理担当）	・幸いなことに日本には四季があるため、春になれば春物衣料が動き出し、販売量も上がってくる。マイナス金利など政府の施策が、かえって個人消費の低迷につながらない事を祈る。
		百貨店（店長）	・次年度の消費税増税問題も含めて、状況は悪くなる可能性が大きく好材料に乏しいため、なかなか状況は好転しないと考えている。
		百貨店（副店長）	・今後の株価や春闘の動向等、先行きが不透明な状態が続くと、身の回りの景気についても世の中の動きと同様に、不透明な部分が多い。都心では好調なインバウンドも、当地域では大きなプラス効果は感じられず、景気の先行きに対する明るさは、やや乏しいと感じる。
		スーパー（販売担当）	・競合店との価格競争もあり、商品単価は下がる傾向にある。客の購入数量は前年並みかそれ以上であるものの、平均単価が下がり、客1人当たりの買上金額が前年を上回らない状況がずっと続いている。
		スーパー（経営者）	・やや悪い状態が、この先も続いていくのではないかと。当社に限った話ではないが、競合店が次々に出店しているため、なかなか良い方向には行かない。景気自体も、あまり良いとは思えない。スーパーは、近隣に競争相手が出ると影響を大きく受けるため、やや悪い状態がずっと続く。
		スーパー（店長）	・一部を除き、世間の節約志向は続いており、しばらくはこのような状態が続く。
		スーパー（営業担当）	・現在の円高、株安の状況が、今後の景気を大きく左右するのではないかと。さらに、今後の国際環境、状況の変化も大きく影響すると思われる。
		スーパー（仕入担当）	・株安、円高傾向、マイナス金利と経済の不安材料が多く、消費は節約志向に動いていくと予測する。
		スーパー（仕入担当）	・価格により敏感に動く商品とそうでない商品がはっきりと二極化し、分かれてきている。客も価格を見て商品を買っている。
		コンビニ（経営者）	・同業他社の出店ラッシュは今後も続くうえ、異常な人手不足もあり先行きが全く見通せないものの、それほど大きな景気変動はないと思う。
		コンビニ（経営者）	・消費性向は非常に良くないと思う。これからの暖かくなる季節に、どう回復してくるかが問題である。
		コンビニ（経営者）	・今後期待できる要素はなく、現状維持できれば良い。
		コンビニ（経営者）	・円高株安のなかで、無駄遣いをしないようになっているようである。ショッピングセンター内に出店しているが、来客数、客単価共に、前年に比べて落ちている。
		コンビニ（商品開発担当）	・来客数、単価共に、良くも悪くも、大きく変動するような要因は見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・1シーズン中に1～2回は楽しみながら買物に来る客も、来店回数が少なくなったり価格の安いもので我慢したりである。景気の悪い状態はまだしばらく続く。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をしているが、整備の方は順調に入っているものの、販売があまり芳しくない。しかしながら、今月に入り、来年4月の消費税増税に対する駆け込み需要が多少始まっているようで、徐々に上向きになっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・新規客の減少分を既存客で補っているが、景気はまだ、上向きとは言えない。
		乗用車販売店（営業担当）	・毎年、決算が終わると反動減が始まるため、期待できない。
		乗用車販売店（渉外担当）	・車検等サービスでの来客は多いが、新車販売は、一部の車種に集中して好調であるものの全体の台数は良くない。年度替わりもこの傾向は変わらない。
		乗用車販売店（店長）	・消費税率10%がどうなるかはっきり決まらない限り、販売量が増えないとみている。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・あまり景気が良くないため、変わらない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・世界経済が安定せず、連日報道されるマイナス情報が消費トレンドの向上に歯止めをかけている状況かと思われる。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・良い材料が見当たらない。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・良くなる材料がない。
		高級レストラン（経営者）	・不動産動向、金利政策、来年の消費税増税等の不安要素が重なっている。更に政治家のモラル低下が雰囲気悪くしている。
		高級レストラン（副支配人）	・法人関連の宴席予約状況から判断し、変わらない。
		高級レストラン（仕入担当）	・前年から続く原材料の値上げが、年明け以降も続いている。合わせて販売単価も上げたいが、すべての商品を値上げするわけにもいかず、様子見の状態である。この状態がしばらく続くのではないか。
		一般レストラン（経営者）	・民泊を含めた、外国人観光客への法整備が遅れているため、トラブルも少しずつ増えている。
		一般レストラン（経営者）	・3か月後も今と変わらず良くなるとは思えない。現状、消費意欲がないため、本当に考えないといけない。また、消費税増税の話もあり、ますますお金を使わないのではないが、マイナス金利等もあり、銀行はお金を貸そうとしているものの、一般の人までは、なかなかお金は回ってこない。消費ではなく貯蓄に回してしまいそうである。
		一般レストラン（経営者）	・人手不足、原材料の高騰は相変わらずである。消費税増税の話題の関係か、客の財布のひもは固くなるばかりである。来年、消費税が増税されると大変なことになってしまう。心配である。
		一般レストラン（経営者）	・マイナス金利、株安、円高による景気の不透明さがある。
		一般レストラン（スタッフ）	・街全体でお金を使うような人がいないため、あまり景気は良くない。当店は古いため、今までの客が来てくれているが、売上は上がっていない。タクシー運転手の方も暇だと言っており、景気自体は悪い。
		都市型ホテル（総務担当）	・販売量等は前年実績よりも増加しているものの、人件費や材料費等のコスト上昇も大きく、全体としては変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・現状、受注している仕事には変わりはない。ただし、今以上の発注があるかどうかは微妙なので、変わらないのではないか。
		旅行代理店（従業員）	・バス運賃の見直しがあり、利用はするものの価格を抑える旅行になってきている。
		旅行代理店（営業担当）	・状況はしばらく、変わりそうもない。
		タクシー運転手	・今の世の中、どの方向に向かっているのか。何が目的で、どういう向きなのか分からない状態で、戸惑うことは多々ある。
		タクシー運転手	・希望としては良くなるとしたいが、金融関係の会社以外では好景気を感じない。逆にやや景気が悪くなっている感じがする。
		タクシー（団体役員）	・例年3～4月は景気が上向きとなるが、株価低迷、円高傾向が続いている現状で、大きな回復は期待できない。
		通信会社（経営者）	・今春はペースアップも期待できないなかで、高額なコース契約が難しいことは、変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（社員）	・3月は転居などに伴う解約が増える時期ではあるものの、今年度は好調に目標数字を達成できているため、このまま現状維持は可能であると考え。悪くなる要因は特にないため、変わらない。
		通信会社（営業担当）	・最近の株価低迷による先行き不透明感が、消費意欲に悪影響を与えている。
		通信会社（営業担当）	・営業マーケット内での客への案内がほぼ完了し、訪問サイクルを確保しにくい、新しいサービスや付加価値の案内をしなければ、契約の増加は難しい。
		通信会社（局長）	・4月の電力小売自由化や夏のオリンピックも控えて期待したいが、電力小売は参入事業者が乱立しており、客からは何が得なのかよくわからないという声が上がっている。また、オリンピックについて、東京エリアは期待度は高いようだが、単純に購買に結び付くとは感じられない。
		通信会社（総務担当）	・現状、景気回復の好材料は見当たらない。
		ゴルフ場（従業員）	・少子高齢化の流れが解決しなければ、景気回復は難しいだろう。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・為替や景況の影響による、今後の外国人客の動きが気になるところである。
		その他サービス[福祉輸送]（経営者）	・自動車産業では、新車種、新しい安全装置、あるいは低燃費車が次々と発表されており、需要を押し上げている。また、ガソリン価格が非常に下がったことも、自動車を使う上でコスト削減面から大きな好要素となっている。ただし、全体の景気あるいは消費者の懐では、警戒心が若干あるような気がする。
		その他サービス[保険代理店]（経営者）	・当分の間は景気の様子見て、目立った変化はない。顧客増加や単価アップに傾注するが、期待はできない。
		設計事務所（経営者）	・新年度への期待感は大いなもの、景況が改善する材料は見当たらない。今のところ、日銀のマイナス金利もプラス要素になるとは考えにくい。民間が厳しい今、新年度の公共工事発注を前倒しして欲しい。
		設計事務所（所長）	・設計業務は契約するとスパンが長い、何ら変わらない。
		設計事務所（職員）	・特に民間の発注動向が鈍いように感じる。消費税増税の動向、延期が取り沙汰されているが、建築の発注件数に大きな影響を与えるとは思わない。
		住宅販売会社（従業員）	・展示場等の来客はほぼ前年並みで、消費税増税を意識した客の動きはない。景気が良くなる要素はあまりない。
		住宅販売会社（従業員）	・まだわからないが、急激な不景気にはならないのではないかと。日本より海外の情勢に大きく影響するため、状況をいち早く把握することが重要である。
		住宅販売会社（従業員）	・今後、消費税増税前の駆け込み受注を期待しているが、それほど多くは望めないと考えている。
	やや悪くなる	一般小売店[茶]（経営者）	・2月は寒波の影響で来客数は伸びず、客単価も低い、販売量、売上高共に変わらない。
		一般小売店[家電]（経理担当）	・新年度になっても景気の良くなる感じがしない。これといった目玉商品もなく、キャンペーンはあるものの、メーカーの思いは消費者とかみ合っていないようである。販売会社も力がない。
		一般小売店[米穀]（経営者）	・最近のビジネスの状況または、経済的なメディアからの報道をみていると、マイナス金利は、初めての体験であり、いるいるなところで、落ち着きがないと感じる。経済の根本を安定してくれれば良いのかなと思うが、政策がプラスになるには、しばらく時間がかかる。
		百貨店（総務担当）	・消費への慎重な動きは継続する。
		百貨店（営業担当）	・今後の経済状況を懸念している。現状、上顧客に支えられている感があるため、一般客が伸び悩んでいる状況のもと、しばらくは先が見えない。インバウンド需要も、円高が進むと訪日旅行者が減る可能性もあり、現在は来客数の増加によって売上を維持している、楽観はできない。
		百貨店（営業担当）	・景気不透明感により、やや悪くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・好調を維持しているインバウンド売上も伸び率の減少が続いているなかで、インバウンドを除く部門の売上が伸びていく材料は見当たらない。
		百貨店（管理担当）	・マイナス金利政策導入に伴う円高、株安進行による先行きに対する不安感がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・参議院選挙によって変わってくるとは思うが、株価はまだまだ下がるため、景気は良くならないのではないかと。
		スーパー（店長）	・現状、1品単価も来客数の変化もなく進んでいるものの、1人当たりの買上点数は、若干マイナス傾向にある。将来的にも高齢化、少子化、核家族化が進み、1人当たりの買上点数は現状より増えないと予想される。
		スーパー（総務担当）	・昨今のベースアップの報道などを見てみると、非常に株価動向や円高方向での乱高下が激しく、身近な商品に対する購買を大きく伸ばすことは難しい。逆に、競合店の価格競争により、客が価格で動いてしまうことが予想されるため、非常に厳しくなるのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・最近の客の様子からやや悪く感じる。
		コンビニ（経営者）	・当店のようなコンビニフランチャイズの店舗は、度重なる本部による出店攻勢により、商圈が狭まり、それによって来客数も少なくなっているが、チャージは30年来変わらず、加盟店は大変疲弊している。そうしたなかで、商品をまんべんなく仕入、従業員を採用し、客のために貢献をするという体制が整えられなくなっている。コンビニ業界は最大限の努力をしてはいるが、今後は大変厳しいのではないかと考えている。
		コンビニ（経営者）	・当店はフランチャイズのコンビニに加盟しているが、商圈内はオーバーストアになっており、年々、月ごとの売上、来客数が前年を超えることなく、逆に減っている状況のため、これ以上の売上は見込めない。また、周囲の人口、戸数も増えていないため、売上は低迷するものと思われる。
		衣料品専門店（経営者）	・マイナス金利の影響や来年は消費税率が10%になり、消費者心理にどのように影響が出てくるか。また、消費者は自己防衛で将来のために貯金を殖やしているという話をよく聞く。
		衣料品専門店（経営者）	・前年と比べると、特にスクール関係は大手競合店が増え、少子化により生徒数が減る傾向も続いているため、なかなか売上は上がらない。今後も、こうした傾向がさらに続く。
		衣料品専門店（店長）	・商品単価を上げるよう工夫をしてきたが、客は安価なものに流れてきている。この傾向はしばらく続く。
		衣料品専門店（営業担当）	・本当に主婦層が衣料品を買わなくなってきた。今後の消費税増税やマイナス金利などの不安材料だらけで、衣料品まで手が回らず、古い洋服を引っ張り出して、着ている状況が、客の様子からみられる。
		家電量販店（統括）	・株価、為替などの影響で消費が落ち込むかもしれない。
		家電量販店（経営企画担当）	・地政学上のリスク、中国の減速、原油市場、日銀のマイナス金利導入、日経平均株価の伸び悩みと、悪材料が解消に向かう兆しがみえない限り、消費者心理は冷え込み内需は厳しいと考える。
		乗用車販売店（総務担当）	・2～3月の最需要月の反動減は免れられない。
		住関連専門店（統括）	・景気が上向く要素は今のところ見当たらず、しばらくは買い控えが続くのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・今月投資マンションを1つ購入するが、かなり物件の売行きが悪くなっているようで、不動産屋が大幅な値引きにも応じてくる状態である。金融機関も即融資で、貸出先がなく困っているようである。
		一般レストラン（経営者）	・現在の政権の政策、日銀のマイナス金利等を考えても、決してプラスになる要因は、日本国内にない。どこの企業が、この時期に、給料を増やしたり、雇用を増やしたりするのか、逆に聞きたい。
		一般レストラン（経営者）	・マイナス金利の影響が出始め、不利な状況に陥る業種が増えるのではないかと。
		都市型ホテル（支配人）	・前年に比べて、4月以降の予約が減少している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・消費税増税もあり、現状株価などが非常に不安定なため、なかなか読みにくいが、若干悪くなるのではないかと。
		都市型ホテル（スタッフ）	・例年に比べて2～3か月先の予約は少なく、動きも鈍い。先行きが不透明な状況から、景気はやや悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・為替相場や株安により、先行きに不安がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		タクシー（経営者）	・良くなりそうな要素がない。大企業が内部留保を増やし、中小企業までのお金の流れができていない。また、建築業界はオリンピックまでは良いだろうが、それ以外の業種は散々たるものである。	
		通信会社（経営者）	・分譲住宅への相対販売による供給世帯は増加しており、転入居の繁忙期を迎え、分譲営業と転入居客をどれだけ取り込めるかが鍵となる。	
		通信会社（経営者）	・日銀がマイナス金利の政策を打ち出したが、かえって消費者心理にマイナスの効果が出るのではない。	
		通信会社（営業担当）	・変わらないと言いたいが、この流れに歯止めを掛ける材料は見当たらない。極端に悪くなるとも思わないが、徐々に悪くなる流れのなかにいる印象は否めない。	
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・塾業界は、前年と比べても無料期間が長くなり、生徒の取り込みは激しくなっている。1人当たりの単価も下がっているため、ここ数か月だけでも、全体としての景気は悪くなっている。	
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・買物客が減る一方で、これ以上悪くなりようのないほど悪い。	
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・株価や消費税増税など経済ニュースの先行きに対する不安感が事業者、消費者共に広がっているように感じる。	
		設計事務所（経営者）	・12～1月と比べても、株価下落においても、先が見えない。そうしたなかで、当社の業務として、公共案件の指名参加及び市町村へのアピールを展開していこうと考えている。民間業務も、先行きが見えない。	
		設計事務所（所長）	・相談のないことは先月も同じである。今月もいまだに来年度の仕事の相談が来ていない。	
		設計事務所（所長）	・いずれにしても仕事量が少なく、今後増えるとは思わない。	
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・物件の先行情報が例年より少なく、先行きに対する期待感が持てない。	
		悪くなる	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・競合店が増床オープンし、大きく影響を受けている。
			百貨店（販売促進担当）	・株価の下落やマイナス金利の影響か、外商などの上顧客も消費に対してシビアになっていると感じる。
			パチンコ店（経営者）	・12月の後半に、パチンコ台の許可が下りないことがあり、新しい機械はあまり出ていない。それに合わせて、5月のサミットまでは、許可関係を管轄する警察が警備で忙しいため、約1か月間入れ替えを自粛するので、かなり数字が落ちて悪くなる。
住宅販売会社（経営者）	・中小企業の景気が良くなり、中間層の所得が増えない限り、住宅は売れない。住宅は消費税を免税にしても良いのではない。住宅が売れることは、経済波及効果もかなりあると思われる。一方、公共工事は、工事原価の見直しをしてもらわないと、防災工事もなかなか進まず、苦勞している。			
企業 動向 関連 (南関東)	良くなる	その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・いろいろな対策を講じており期待感がある。仕事量も減ってはいない。	
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・春になり、街全体のイベントが多くなる。財布のひもが緩くなることを願っている。	
		食料品製造業（営業統括）	・天候次第ではあるが、期待したい。	
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・2月はイベントのない時期で例年数字は落ち込むが、今年は例年以上にサロンの集客が悪いようである。	
		輸送業（経営者）	・1～2月は、年間で売上が一番落ち込む時期であり、2～3か月後は、新学期の特需も小規模ながら期待できるため、今よりは良くなるものと思われる。	
		金融業（役員）	・マイナス金利の影響で、企業の設備投資意欲が出てくるのではない。消費マインドは相変わらず低調なものの、相続税対策のアパート投資は活発である。	
		税理士	・アメリカの景気が良くなってきており、日本車が売れている。中国の景気は少し不透明でバブルがはじけるのではないかとされている。一方が良くて、もう一方が悪い、良くない。日本では政治が以前と比べて、景気を引っ張っている。アベノミクスが大企業だけでなく、中小企業まで影響があるかは分からないが、政治的に引っ張っているため、少しは良くなっていくのではないかと。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・今月の受注量は横ばいであったものの、来月からは年度末、年度初めに向かい若干の増加が見込まれる。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・特段、良くも悪くもなるような話は聞かない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・単価の高い商品も出るようにはなったが、受注件数がまだ良い時に比べると、足りていない。会社設立の件数をみる、代表者印の注文も2月は3本なので、やや少な目だったと感じている。そうしたことから、どちらとも言えないという見通しである。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・印刷市場全体の動向を製本会社の仕事量で判断するには、この先3～6か月は様子を見ないとならない。
		化学工業（従業員）	・受注量も増える様子がなく、大きく変わらない。ただし、得意先の営業所、倉庫の閉鎖が増えており、気がかりである。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・アベノミクスの進捗状況も今一つぱっとしないため、当面すぐに景気は良くなることはないが、悪くなることもないのではないかと。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・大手電機メーカーのリストラ策でしばらく厳しい状況が続いている一方で、化粧品メーカーからの受注は順調で新企画が立ち上がる予定もあるので、期待したい。
		金属製品製造業（経営者）	・取引先に大きな設備計画がないため、営業活動で仕事の量を確保していく。
		一般機械器具製造業（経営者）	・あまり良くない現状がこのまま続くような気がする。今後、新規に利益率の良い製品が立ち上がる状態でもない。このところ見積も少ない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・他力本願では良くならない。自社の努力で景気を良くするしかない。画期的な新商品を開発し、輸出で稼ぎたいと思っている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・中小零細企業においては、景気の良くなる気配が全くなく、今後しばらく続くのではないかと。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・現状が大分長く続いており、当面このまま推移していくと思う。
		建設業（経営者）	・中小企業に対する政策が実施されているのかどうか、実感できない。
		建設業（経営者）	・製造業は波があり、先が見えない。建設業も公共工事の来年度予算がかなり削減されているようで心配である。
		建設業（営業担当）	・客の多くは、消費税増税前に設備投資の発注を検討し始めているが、経済状況が株価など不安なため、慎重になっている。
		輸送業（経営者）	・公的な施策を打ち出していることは、本当に感謝しているものの、なかなか実効がない。投機的な部分でも非常に低落した状態となっているため、不安要素が大きい。
		輸送業（総務担当）	・新年度以降、売上を伸ばせるような案件はなく、また、市場の不安もあり、厳しい状況は続くものとみている。
		通信業（広報担当）	・しばらくは一進一退の状況が続くと思われる。
		金融業（統括）	・マイナス金利導入により、皆が疑心暗鬼になって、特に積極的になることもなく、様子見状態だと思う。
		金融業（従業員）	・建設業、不動産業や海外輸出向け製品が多い製造業の取引先では、業況の改善が続いているものの、地元客を主な取引相手とする小売、サービス業では、売上が伸び悩んでいる。
		金融業（支店長）	・企業業績はさほど悪くはないものの、株安、円高、原油安が将来への不安を感じさせる。当面このままの状態が続く。
		金融業（営業担当）	・今後の受注予想から増加とは考えにくい。マイナス金利でも企業に影響が出てくるには時間がかかり、仕事の増加要素がない限り、景気が良くなるとは言えない。
		不動産業（経営者）	・年間を通じて一番物件の動く時期なのだが、学生の動きも少なく、特に30平方メートル以上の1DKの動きがない。
		不動産業（総務担当）	・この先テナントの退去が予想されるが、引き合いも多く後継テナントは何とか決まると考えている。競合先の中には思い切った好条件を提示しているところもあるらしく、楽観はできないと感じている。また、今後、テナントの誘致合戦が再燃しかねない、と心配している。
		広告代理店（従業員）	・販売量や売上予想は前年度と変わらず推移しており、新しい売上予想も特にはない。
		社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		税理士	・円高傾向や株価の不安定な動きにより、消費者の不安があるため、今後の動きは不透明である。落ち込むことはないと思うが、上向きも期待できない。
		経営コンサルタント	・先日、経営問題をテーマにしたシンポジウムに参加したが、参加者の質問は、人件費アップに絡むものが多かった。「仕事は確保しているが人が集まらず、そのため人件費上昇が避けられない状態は続くのか。続としたら中小企業にはどんな手立てがあるのか。」といった内容が多かった。
		経営コンサルタント	・人材採用はさらに厳しく、中小企業の現況を改善するパワー不足となりつつある。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・円安の影響で原材料の値上げも実施される局面になってきており、しばらくは厳しい状態が続くものと思われる。アベノミクスがあいまいなまま進むと、とんでもない大恐慌になるのではないかと懸念している。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・今後ますます広告費の削減が予想されるため、レギュラー以外の新規の仕事は考えにくい。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・時期的に業務の減少する時期だが、さらに継続事業がなくなる傾向にある。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・政府の方針もうまくいっていない感が否めず、景気の回復は全く期待できない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・メーカーの生産は日本回帰の傾向が強くなってきており、非常に良いことである。しかしながら、内需が伸び悩んでおり、また、生産する中小企業の体力も底をついている状況で、円高になれば、再び大企業が海外比率を高めるのではないかと不安感が強い。中小企業は設備投資できない。リーマンショックの影響もまだ返しきれてない。
		建設業（経理担当）	・都内企業の下請を行っている業者は、まずまずのようだが、地元で頑張っている業者は、材料代は落ち着いたものの労賃が上がったため、仕事量の減少が続いている。
		輸送業（総務担当）	・年度末に向けての出荷量のピークは2月始めで終わり、鉄鋼、住宅建材共に、今後の出荷量は激減する見込みである。
不動産業（経営者）		・株価の乱高下、金融、中国経済の減速、原油価格、国内景気の実態など、心理的な不安で財布のひもが固くなってきている。	
広告代理店（営業担当）		・基本的に大手広告代理店以外は、レギュラークライアントが少なく、スポットでの宣伝を請負うことが多い。また、最近はその傾向もより強い。当社の体質もあるが、先を見通せる売上が少ない。	
その他サービス業〔警備〕（経営者）		・4月に入ると工期終了予定があるため、悪くなると予想する。	
悪くなる	出版・印刷・同関連産業（所長）	・年度末の繁忙時期ではあるものの、今年の予測では大きなマイナスとなっており、なかなか回復する兆しはみえてこない。	
	建設業（経営者）	・少子高齢化のため、悪くなる。	
	金融業（融資担当）	・今回の日銀のマイナス金利は、地方銀行にとって最悪である。この政策が資金需要の増加につながるとは全く思えない。これは景気に悪い影響を与えようと思う。	
	広告代理店（経営者）	・今年度売上の600万円程度を占める案件が、2016年度は取り止めが決定し、それを補てんしようとしていた約700万円の案件を、当社と同様に次年度予算を削減された他の業者に奪われ、また一から出直しになってしまっている。	
	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・株価が今の水準のままだと、金融機関の投資予算は抑制される。	
雇用関連 (南関東)	良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・直接雇用社員化の条件面では、現状を上回る条件が多数である。所得が増加するため景気は良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年度末ということで、まだ予算を使いきっていないという企業が、話を聞いているだけで12社ある。必要がないため今は募集しないが、普段できない正社員募集なども含めて、3～4月にやりたいという話は来ており、相当な盛り上がりがあると予測している。
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・有効求人倍率の推移を見ると、有効求職者数の減少による要因はあるものの、前年同月比プラスで推移している。また、産業計の新規求人数の推移をみても10月以降、プラスで推移している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・経営者と話をすると、「日銀の政策の意味がよく分からない。現在、中国市場が冷え込み、世界的にも良くなっている市場はないのに、お金を借りて設備投資をすることはあり得ない。国内需要も相当冷え込んでいる。」と話す方が多く、皆さん非常に困っている。
		人材派遣会社（社員）	・マイナス金利政策、海外情勢、株価下落等の要因で経済活動への影響が不透明である。足元の企業の採用意欲は依然活発であり、現時点では、急激な採用市場の縮小は考えにくい。
		人材派遣会社（社員）	・人材不足の状況が続く。
		人材派遣会社（社員）	・景気の良くなる要因が見当たらない。
		人材派遣会社（支店長）	・多くの企業で人材不足という声があり、景気や会社業績と連動した人件費が確保できるかどうかによると思われる。
		人材派遣会社（営業担当）	・このまま堅調な状態は続きそうだが、さらに良くなっていくというような材料は見当たらない。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数の増加傾向は続くともっているが、正規雇用の求人数も増加傾向にあり、派遣労働者数は減少する可能性もある。そのため、派遣市場としての景況感は現状とさほど変わらない。
		人材派遣会社（支店長）	・求人数は、高いレベルで横ばいだが、求職者の確保に苦戦している。売り手市場になってきており、求人企業については、給与を含めて募集条件を高く設定する必要がある。
		人材派遣会社（営業担当）	・一部企業ではマイナスの動きがあるものの、製造業全体の推進力は相変わらず強く、これまでの好調状態にすぐに戻ると思われる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・新規の客が増えてこない。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・現在案件が増えているのは、一時的なもののように思える。
		職業安定所（職員）	・正社員求人数も前年同月比で増加しているが、ミスマッチのためか正社員就職件数は4か月ぶりに減少している。
		職業安定所（職員）	・雇用失業情勢は改善傾向が続いている一方で、労働者の収入はあまり増えておらず、景気を押し上げるほど効果は強くない。今後は、あまり変わらずに推移するとみている。
		職業安定所（職員）	・新規求人の増加が鈍化してきている。
		職業安定所（職員）	・求人の増加が今までより、緩やかになってきている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・経済環境がさまざまなリスクにさらされている現状から推測すると、安全策や温存策を考える企業は増える。
		民間職業紹介機関（経営者）	・面接から採用決定まで時間がかかるようになってきている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・現時点では不安要素も多いが、中期的な観点で技術領域だけではなく、営業管理部門でも質向上のために、人材は求められる。
		民間職業紹介機関（職員）	・来期の計画において求人の縮小傾向が出ている業界等はあまりない。
	学校〔大学〕（就職担当）	・日本の人口が減っており、少子高齢化がますます進んでいる。	
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・消費税率が再度上げの予定であり、消費は落ち込み、景気は下向きで推移すると考えられる。
	悪くなる	-	-

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東海)	良くなる	一般小売店〔土産〕（経営者）	・5月開催の伊勢志摩サミットに向けて、メディアでの当地域の露出も増えてきており、当面、景気は上向きの局面が続く。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・取扱商品が生活に密接している面もあり、落ち込みのない推移が見込まれる。
		衣料品専門店〔紳士服洋品〕（売場担当）	・この先は母の日やゴールデンウィークというイベントも控えており、購入意欲が高まる。
			一般レストラン（従業員）
	やや良くなる	商店街（代表者）	・気候も良くなり、来客数等が増えて売上の増加につながる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・伊勢志摩サミットの開催時期は警備等で混乱するだろうが、その後は好転する。
		一般小売店〔贈答品〕 (経営者)	・伊勢志摩サミットのある5月に向けては、若干でもムードは良くなる方向である。今よりも経済に動きが出て、返礼品や贈答品の需要も増えればという期待を含む。
		一般小売店〔書店〕 (営業担当)	・例年、新年度用品の需要増加が見込まれる時期となる。
		百貨店(経理担当)	・1～2月にかけては身の回りの売上動向が非常に悪い状況で、新聞等の情報とかい離を感じたが、今後は回復すると考えている。
		百貨店(販売担当)	・徐々に購買意欲が回復しているところを見ると、売上に波がある点は変化ないかもしれないが、所得増加等の目にみえるプラス要因さえあれば、大幅ではなくても景気が上昇していくきっかけになる。
		百貨店(経営企画担当)	・この春は暖かくなるという予報があり、春物衣料の動きに期待ができそうである。
		スーパー(経営者)	・伊勢志摩サミットの効果でマスコミが当地をとりあげることが多く、来客数の増加に期待している。
		スーパー(総務担当)	・日本各地の生鮮食品フェアでは、集客が良くなっている。
		スーパー(販売担当)	・良い季節になり、購買意欲が高まる。
		スーパー(販売担当)	・競合店では店内配布チラシを始めているが、売上獲得の苦肉の策と感じる。楽観的な見方だが客足は競合店でなく本店に流れている。3月は決算月のため、チラシの強化等で予算達成を目指す。
		コンビニ(エリア担当)	・客の生活支援を意識した店舗づくりを進め、品ぞろえを変更していく。
		家電量販店(店員)	・客の買物予算が増えていると感じる。特に予算を決めず、自分にちょうど合う品物を選ぶ買い方も増えている。
		乗用車販売店(総務担当)	・人手不足となってきたり、春になって賃上げが話題となれば、消費を取り巻くムードもやや改善する。
		住関連専門店(営業担当)	・消費税増税を前に、新築住宅や民間ビル等の設計、着工案件が多少多くなっている。大規模改修やリフォーム工事の件数は、前年よりも多く推移している。
		その他専門店〔書籍〕 (店員)	・祖父母と一緒に来店する客が増えて新入学用品の動きが良くなれば、客単価が上がると期待している。
		一般レストラン(経営者)	・年度末や春を迎え、人の動きが活発になる。
		旅行代理店(経営者)	・マイナス金利政策で企業の資金が福利厚生や設備投資等に回れば、景気を底上げする。市場が円滑に機能すれば、景気は良くなる。
		旅行代理店(経営者)	・消費税増税の影響もやや落ち着いてきたので、これから3か月後には、少しは消費も伸びると見込まれる。
		タクシー運転手	・今が悪すぎるため、現状よりはもう少し良くなる。
		タクシー運転手	・会社や学校等でも新年度を迎え、人が集まる機会が増え、タクシー客も増える。
		通信会社(営業担当)	・新サービスに対して客は様子見の感があるので、動き出せば少しは良くなる。
		通信会社(営業担当)	・大手通信事業者とのコラボレーションが寄与し、徐々に増加が見込まれる。
		テーマパーク(職員)	・春からは積雪状況に左右されない営業形態に戻るため、現在よりは良くなる。
		美容室(経営者)	・3～5月には行事もあって客が出かける機会が増えるため、忙しくなる。
		美顔美容室(経営者)	・行事等が多くなり、その前にケアをするために来客数が増える。
		住宅販売会社(従業員)	・マイナス金利により、住宅ローン金利の一層の低下が期待できる。
	変わらない	商店街(代表者)	・今のところ、良くなるような材料は見当たらない。
		商店街(代表者)	・客の様子を見ると販売単価の高い商品には目が向かない。来客数は減っていないので、潜在的な購買意欲はあるように感じる。
		商店街(代表者)	・周囲では給料が上がったという話は皆無で、ギリギリの生活をする人が多い。金の流れが一部で止まり、循環していないように感じる。これ以上悪くなると大変だが、少なくとも良くなることはならないと思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・相変わらず、必要な商品以外は買わない状況が続く。季節商材があまり売れず、定番商品のみ売れる状況である。
		一般小売店〔薬局〕 （経営者）	・地方は相変わらず不景気が続き、3か月で急に回復するとはとても思えない。食料は必需品なので、スーパーには客が入るが、その他の物は急いで買う必要がない。預金をして株式を買っても金は減るばかりで、金融市場の先行きも見通せない。
		一般小売店〔果物〕 （店員）	・3か月ほどでは販売量の動きは変わらないと思われる。
		一般小売店〔和菓子〕 （企画担当）	・株価、原油価格の動きや中国経済の動き等、本当に先行きが読みづらく、どうなるかわからないのが実情である。
		百貨店（売場主任）	・相変わらず客の財布のひもは固く、必要以上の物は買わない。
		百貨店（売場主任）	・若年層の客は、ネット購入する下見での来店が多い。出張のついでに買物をする客には、高額品を購入する人もいる。プレゼントを購入する女性客も増えており、平日でも来客数は多い。にぎわいは感じるが、良い時と悪い時の差があるので、景気が良いか悪いかはわからない。
		百貨店（企画担当）	・年明けから経済的に様々な不安要素があり、個人消費にマイナスの影響を与えている。富裕層が対象となる高額商品の動きは悪くないものの、百貨店の売上で高いシェアを占める中間層には、購買意欲の落ち込みを強く感じている。この傾向は、まだ数か月は続く。
		百貨店（販売担当）	・セール時の動きは悪くなかったが、平日の売上は前年同期を下回っている。お買得にならないと消費にも勢いが出ない状況が続いている。
		百貨店（販売担当）	・暖冬の反動で春先の気温が低くなるとの予報もあり、当面は衣料品の苦戦が続く。景気を刺激する要因に乏しく、消費税増税前の駆け込み需要が始まる秋口までは、現在と変わらない状況が続く。
		スーパー（経営者）	・5月ごろには新興国の経済成長も鈍化し、我が国からの輸出も冷え込みが続く。中国経済は相変わらず減速が続き、世界経済が伸び悩むため、各国とも為替操作で輸出を伸ばそうとしているが、なかなか伸びない。そのため賃上げもあまり実施されず、経済はあまり良くない状況が続く。
		スーパー（店長）	・来客数は大きく変わらない状況で推移しており、この先も安定的に売れると見込まれる。
		スーパー（店長）	・好転する要素は、ほとんど見受けられない。今後大きな動きがあるとしても、今より良くなることはない。
		スーパー（店員）	・ガソリン価格低下のためか、遠方からの客が増えているように感じる。野菜や果物の価格は安定しているため、先行きも不安要素は見当たらない。
		スーパー（店員）	・客単価は低く、客の流れも限られている。景気は上向きとはなっていない。
		スーパー（販売促進担当）	・売上は、過去のマイナス分をまだ取り戻せない。
		スーパー（人事担当）	・春に賃上げがあっても、景気にすぐには反映されない。
		スーパー（営業企画）	・消費税の税率見直しも不透明で、金利引下げ政策の影響も読みにくいなかで、消費についてもしばらくは小康状態が続くと見込まれる。
		スーパー（商品開発担当）	・来客数が回復する要因が見当たらず苦戦が続いているため、回復要因を見付けるまでは、厳しい状況が続くと考える。
		スーパー（企画・経営担当）	・景気の変化するような要素が見当たらない。
		コンビニ（企画担当）	・TPP、リニア中央新幹線もあり、東京オリンピックの開催までは、穏やかな景気の回復が続く。ただし、テロ等が起きて日本への人の流れが止まると、話は違ってくる。
		コンビニ（店長）	・特に状況が変わる材料はないが、金利が下がり、貯蓄から消費へと消費者の意識が変わることを期待したい。
		コンビニ（企画担当）	・様々な指標をみても、先行きが良くなる傾向も悪くなる傾向もみられない。
		コンビニ（エリア担当）	・大きなプラス要因は見受けられない。
		コンビニ（エリア担当）	・当面は今月の状況が変わらずに続くと思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・消費税再増税等を控えて、消費に対する客の動きや考え方に大きな変化はない。週末の動きは3か月前と比べて、多少良くなってきているが、全体としては変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・得意先がなくなり、なじみ客も高齢となっている。新規客の来店は、夢のまた夢になりつつあり、現状と変わらない。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・商品の動きが特に変わりそうな要素はない。
		家電量販店（店員）	・状況が一変するような要因があれば別だが、現状からみれば、上向きとはいえない状況が続いていく。
		乗用車販売店（営業担当）	・2～3月の反動で4月の販売台数は落ちるが、ガソリン価格はかなり安くなっているため、販売面ではプラスとなる。
		乗用車販売店（経営者）	・良くなる要素も悪くなる要素も、特段、見受けられない。
		乗用車販売店（経営者）	・車検専門店が増え、車検・点検での競合も激しくなっている。
		乗用車販売店（従業員）	・来客数、販売量共に横ばいで、全く先が読めない。身の回りを含めて、今後の景気は良くなるとも悪くなるともいえない難しい状況である。
		乗用車販売店（従業員）	・相変わらず客の希望する車種には大幅な納車待ちが発生し、短縮の目途は立っていない。4月以後に新型車種の投入が予定されており、客の購買意欲にどう影響するかが気になる。決算期だからという駆け込み需要もなく、購入を勧められれば検討するというほど、財布のひもは緩んでいない。
		乗用車販売店（経理担当）	・購買意欲を刺激するよう商品が出てこない。
		乗用車販売店（販売担当）	・メーカーが販売施策を積極的に行っているため、引き続き前年比での販売台数は増加が続く。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・収入が増加するという具体的な目途もなく、必要に迫られて購入しなければならない物もなく、5月ごろは特別の季節感もないため、現状の販売量と変化はない。
		その他専門店〔貴金属〕（営業担当）	・株価が下がっているため、客の財布のひもは固くなる。金の価格が上昇しているため、金製品を買い求める客が増える可能性はある。
		高級レストラン（役員）	・景気回復に関連するような明るいニュースがない。
		一般レストラン〔パン・カフェ〕（経営者）	・仕入れ業者の声では、業界全体として少しも良い話を聞かない。周辺には自動車関連の事業者が多いため、車がたくさん売れば良くなるが、上向きとなるのはやや厳しい見込みである。
		観光型ホテル（販売担当）	・年度末から新年度にかけての予約状況は、グループや大型団体の一般宴会、宿泊宴会共に、前年同時期比で2けたの落ち込みを示しているため、先行きも良くなるとはいえない。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から横ばいを見込む。
		都市型ホテル（支配人）	・依然として、インバウンドに依存する状況が続く。
		都市型ホテル（経理担当）	・宿泊客数は 前年同期並みと見込まれる。
		旅行代理店（経営者）	・少子高齢化は徐々に進展しており、東京以外では人口減少が消費に大きく影響する。企業数は人口規模に合わせて減っていく。外国人客に対応できるよう新たな市場を開拓しない限り、経済が縮小していくのは明らかである。
		旅行代理店（経営者）	・景気や世界情勢に左右されて先の見通しが立てづらいため、安全な国内旅行を選ぶ様子がみられる。安心できる鉄道の旅も人気で、北海道新幹線開通は目玉の一つである。新幹線で北から南へ旅する商品も期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・若い層の客足があまり良くない。給料やバイト代の状況にも関係すると思われるが、あまり景気が良くなるとは思えない。
		旅行代理店（従業員）	・今年のゴールデンウィークは大型連休を取りやすい日並びで、燃油サーチャージも低下傾向にあり、海外旅行需要に期待したいが、今のところ申込数の目立った増加はみられない。気候や株価の影響なのかわからないが、来客数は伸び悩んでいる。気候とともに客足が伸びることを期待する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・今の状況より更に悪くなったら、転職も考えざるを得ない水準である。伊勢志摩サミットの応援に召集されると、その間に地元の客を失う可能性がある。
		通信会社（サービス担当）	・引っ越しシーズンで転居に伴う光回線の新規申込の増加が見込まれるが、スマートフォンの普及により、固定電話の解約も増加すると思われる。
		ゴルフ場（企画担当）	・日々の入場者予約数の動きは、前年同日を下回っているが、これから暖かくなるにつれて予約数は増えてくる。4～5月は良いシーズンとなるので、入場者数はほぼ順調に確保できる見込みである。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・新設した訪問介護事業の利用者数を増やすには、安定したサービス提供が求められるため、生活支援員の教育を充実させる時間が必要となる。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・福祉用具に対する保険給付を抑制的に見直す動きがある。プラスとなるような話題は聞こえてこない。
		設計事務所（経営者）	・相変わらず小規模で手間のかかる案件が多いため効率が悪く、収入面でも圧迫している。大きな案件がないので、リスクのある面倒な仕事でも断れない。
		住宅販売会社（従業員）	・先行きも大きな変化はないと思われる。
		住宅販売会社（従業員）	・低水準の金利で住宅ローンが組みやすい状況かもしれないが、今の若年層が長期の借入をしても大丈夫なのか、懸念される。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・この先には、消費税増税前の駆け込み需要の増加を望みたい。
		その他住宅〔室内装飾業〕（経営者）	・見積りや問い合わせの件数は多く、年度末に向けては現状と同様の受注状況が続くそうである。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・売上げをけん引する商品があまりない。4kテレビに期待するが、コンテンツが整っていないので、客に強く推奨できない。
		百貨店（経理担当）	・株価はしばらく低迷すると見込まれ、春闘での賃上げも期待できず、個人消費が持ち直すような要素が見当たらない。
		百貨店（販売促進担当）	・世界の経済情勢が悪化しているので、しばらくはその影響が続く。
		百貨店（販売担当）	・大半の中小企業にとって、株価、為替相場、金利等の要件は厳しい状況である。消費税の軽減税率導入に伴う企業負担増加への懸念が心理的にはマイナスとなっており、不況脱却への政府の指針が明確ではない状況では、購買意欲がますます低下していく。
		スーパー（経営者）	・中小小売店では、足元での全く売れない状況が先行きも続くのではないかと心配している。
		コンビニ（エリア担当）	・主力商品のたばこの値上げを控えており、それ以外の弁当やドリンク等に使う金が減ってくる。工場の近くの店では、工場の稼働状況が良くないためか、売上の厳しい状況が続いている。
		コンビニ（店長）	・同業者だけでなく異業種店との競争が激しくなり、厳しい状況は変わらない。
		コンビニ（商品開発担当）	・景気の後退感否めず、来客数と購入点数は落ち込む。この環境は当面は変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・決算月の3月までは動きはあるが、それ以降は動きがかなり悪くなる見込みである。
		乗用車販売店（従業員）	・足元の円高、株安傾向を踏まえると、先行きにはプラスよりもマイナスの影響が大きい。
		乗用車販売店（従業員）	・ほとんどの車種が4月以降の納車となるため、決算期に入っても販売実績は低調で、売行きが鈍ってきている。明るい材料がない。
		乗用車販売店（従業員）	・2月末の時点で3月末までに納車できない車種が多数あり、決算に間に合わないため、客の購入意欲も減退してきている。
		乗用車販売店（従業員）	・1～3月が良い分、その先は悪くなる。足元が例年以上に良い反動で、今後は悪化することを心配する。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・中国経済の減速とともに、円高、株安が消費マインドの減退に影響する。
一般レストラン（経営者）	・先行きに良くなる要素がない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（スタッフ）	・例年よりも雪の影響はなかったが、客足はそれほど良くない。したがって、先行きはまだまだ厳しい状況が続くと見込んでいる。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・政治、経済共に確実に明るい材料が見当たらないため、当面、悪くなっていく。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・ここにきて物価上昇と消費税増税の負担感が強まっている。
		観光型ホテル（経営者）	・2～3か月先の予約は、前年同期比で10%くらいペースが遅く、閉塞感を感じる。明るいニュースや需要が伸びるような政策に期待をしている。
		都市型ホテル（経営者）	・個人客の購買意欲の低下が気になる。
		旅行代理店（経営者）	・客足が良くなる要因が見当たらず、このまま悪化の状況で推移するのではないかと思われる。
		通信会社（企画担当）	・ガソリン価格の下落は良いが、製造業の多い当地域では、マイナス金利等でデフレ傾向が更に進むのではないかと、先行きへの不安が高まっている。
		テーマパーク（職員）	・円高でインバウンドの来客数も減少傾向にある。
		観光名所（案内係）	・段々と高齢者が外に出て金を使う機会が減っている。春闘も期待できそうにない。若者もこれから徐々に減っていく。
		パチンコ店（経営者）	・業界全体で、低単価による薄利多売の傾向となっている。
		理美容室（経営者）	・客の話では、あまり景気も良くならないので、なるべく金を使わないようにしている。
		美容室（経営者）	・街からは大学を卒業した女性がどんどん転出している。若い女性相手の業界なので、客層の流出は仕事に影響する。この先は、消費税増税の影響も出てくる。
		設計事務所（職員）	・今の政策や金利の話からは、これから景気が良くなるような要因は見当たらない。
		設計事務所（職員）	・景気が上向きには2～3か月という期間は短い。今年は参議院選挙もあり、政治が安定して経済も安定する。世界的にみても政治不安が大きな要因となっている。
		悪くなる	一般小売店〔酒類〕（経営者）
理容室（経営者）	・これからも、景気が良くなるとは思えない。		
住宅販売会社（経営者）	・先行き不安で、住宅購入にまで金がまわらない人が多い。今後どうなるかが不安という声が聞こえ、私自身もそう感じている。		
企業動向関連 (東海)	良くなる やや良くなる	食料品製造業（経営企画担当）	・伊勢志摩サミット開催まで90日を切り、様々な場面で盛り上がりを見せている。4～5月にかけては、地域経済活性の期待が更に高まる。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・今年はスマートフォンの新製品発売が予定されており、新製品向けの設備投資が期待できる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先では、新年度の予算で業務用チェアへの設備投資が決まり、当社製品の販売増加が期待できる。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・今後も人員が増える計画があり、このまましばらくは増加が続く。
		金融業（従業員）	・客先では、足元の景気はあまり良くないが、しばらくすれば景気は回復してくるという声を聞く。
		行政書士	・年度が替わり、荷物の動きが出てくる。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・我が国全体の経済は、悪い状況ではないと感じる。為替相場の方向が先行きどうなるかを注視している。
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・景気が良くなると感じられる情報はなく、現状のままでしばらくは推移する。
		化学工業（総務秘書）	・株価や為替相場の動きをみていると、多少の上下動はあっても一定の幅で収束に向かっているように感じる。世界的には日本経済は安定しており、不安や希望で上下を繰り返しつつ、安定を維持するのではないかと見込まれる。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・多く製品がほぼ手作りであるため、現在でもフル操業でこれ以上の増産は難しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注量、販売量共に、横ばいが見込まれる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・売上は一進一退の動きで方向性がみえない。この先も急減する可能性は低く、大きく伸びる理由も見当たらないため、しばらくは現状維持が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・為替相場が非常に不安定で、輸出量も安定的に確保できない状況が続いている。国内消費が非常に少なく海外向けが主となっており、円安時の受注残がどのように影響するのを含めて、今後の見通しが非常に難しい。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・自動車関連の製造業は好調のようだが、当社のように海外部品の調達による国内生産、あるいは海外子会社で生産して国内販売を行う企業では、円安の影響や国内需要の頭打ち等、先行きに明るくなる材料が見出せない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・来年度の初めには、大きな変動要因は見当たらない。販売量、利益共に今月並みでの推移が見込まれる。
		輸送用機械器具製造業（デザイン担当）	・国内売上は思った以上に良い反面、海外売上が減少している。開発環境としては、コストの引下げを強く迫られる状況ではない。総合的にみて、良くなる感じもなく変化はないと思われる。
		建設業（営業担当）	・現状はあまり例年と変わらないが、会社としては、今までの方針とは異なる分野にも、目を向けていくことを考え始めている。
		輸送業（経営者）	・景気の不透明感が高まっているが、実需への影響はみられないため、横ばいと見込まれる。
		輸送業（従業員）	・荷動きは低調であるが、原油価格が安定し燃料費を抑えているため、何とかバランスがとれている。燃料価格下落の動きが止まってからが問題である。
		輸送業（エリア担当）	・荷物量は増加しているが、平均単価の下落により収支の悪化が続く。
		輸送業（エリア担当）	・燃料の軽油単価が、前年比で12円26銭下がっており非常に助かるが、貨物の荷動きは今一つ緩慢である。
		通信会社（法人営業担当）	・新年度の需要を期待したが、2月になっても動きが少ないため、年度が替わっても新たに何かを提案できる機会は少ないと思われる。
		通信会社（法人営業担当）	・不透明な国内外の経済情勢に加えて、日銀のマイナス金利の影響もわからない。企業優遇税制は、裾野まで広がっていない状況からも、先行きは見通しづらい。
		金融業（法人営業担当）	・足元の利益は改善が見込まれるが、株安・円高に加え、世界経済の先行きへの不安から、取引先企業のマインドは低下しており、設備投資にも慎重な姿勢が見受けられる。
		金融業（企画担当）	・運用資産を保有する持つ個人は、資産効果が表れないと動きづらい。運用資産を持っていない層では、賃上げがないと消費は拡大しない。したがって当面は現状のままの景気が続くと思われる。
		不動産業（経営者）	・マイナス金利の効果がどうなるのか、しばらくは様子見となる。
		不動産業（用地仕入）	・中国経済の減速や株安等の不安材料はあるが、2～3か月程度では、景気に大きな変化はないと思われる。
		企業広告制作業（経営者）	・現状から横ばいであるが、中国経済の低迷等、マイナス材料の懸念もある。
		広告代理店（制作担当）	・具体的にこれといった新しい動きはなく、受注量にも変化がみられない。
		会計事務所（職員）	・消費税増税までにはまだ時間があり、目立った動きは表れない。消費の面では、食品等の商品では、容量を減らして価格を据え置く等の対応がとられ、実質的に価格上昇となる。
		会計事務所（社会保険労務士）	・マイナス金利の影響がどのように出るかが不透明である。生命保険会社からは、3月末で貯蓄性の高い商品は販売をいったん停止するという案内がきている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・3月で契約終了となるシステムエンジニアを確保できるかによるが、当地域ではそもそも上級技術者が育っていないため、若手や経験の浅い技術者しか確保できない。
	やや悪くなる	化学工業（営業）	・客からの値下げ要請が強く、今後の販売単価は低下が見込まれる。
		化学工業（人事担当）	・原油価格の動向、中国経済の減速や円高等、外部要因には企業業績や株価への悪材料が多い。景気はしばらく低迷すると思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		鉄鋼業（経営者）	・鋼材流通は、少ない発注量に対する業者間競争が激化し、単価がじりじりと下がっている。	
		金属製品製造業（従業員）	・足元でも原材料の動きが鈍くなっており、春先から仕事が少なくなると感じる業者が周りには多い。	
		電気機械器具製造業（営業担当）	・為替相場の動きから、先行きは悪影響が懸念される。	
		輸送用機械器具製造業（研修担当）	・円高が進んでおり、マイナス金利が大きな効果を生むとは思えない。米国大統領選で為替介入が批判される等、我が国の景気は、次期大統領次第で大きく左右される。	
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・円高が進んでいるので、輸出向け部品の売上が減少していく。	
		建設業（経営者）	・マイナス金利が消費者マインドにも暗い影を落とし、容易には払しょくできない。この影響はしばらく続くと思われる。	
		建設業（経営者）	・現状を考えると、政治や政治家にも問題がある。アベノミクスは実効性が乏しく、良くなる材料が全く見当たらない。	
		輸送業（エリア担当）	・中国経済の減速を背景に、中国向けの輸出が減る可能性がある。	
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・企業での経費削減や見直しの動きが、今後も一層強くなると思われる。	
		公認会計士	・最近はやや円高ではあるが、円安による原材料費の高騰が中小企業の収益性を低下させている。マイナス金利政策による運用利回りの低下が、地域金融機関の収益を圧迫し、メインバンクとして中小企業の資産査定が厳格化し、資金供給が円滑に進まなくなる恐れがある。	
		悪くなる	食料品製造業（営業担当）	・輸出型の企業では円安の影響で製品の販売が困難となっている。国内販売への転換も、市場にはあまり余地がないとのことである。
			出版・印刷・同関連産業（代表）	・消費者の懐具合が良ならない限り、景気はどんどん悪くなる。消費税増税の話題が出るたびに、広告出稿量は目に見えて減っていくように感じる。
			金属製品製造業（経営者）	・年度末を控えて、引き合い件数が減少している。
雇用 関連 (東海)	良くなる やや良くなる	-	-	
		人材派遣会社（社員）	・歓送迎会の時期なので業況は良くなる。例年よりも予約状況は少し良い。	
	人材派遣会社（支店長）	・求人数が引き続き堅調なことに加えて、契約更新が集中する年度末となることから、先行きも拡大傾向は続くものと考えられる。		
	職業安定所（職員）	・前年同月比でみると、新規求職者並びに有効求職者数は、10か月連続で減少している。新規求人数は8か月連続、有効求人数も6か月連続で増加するなかで、充足数は2か月連続して減少しており、景気回復と共に注視が必要となってくる。		
	民間職業紹介機関（営業担当）	・新年度の各種補助金の効果も期待でき、若干の景気上昇を見込む。		
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・大学生の就職活動は来月の解禁を待たず、実質的な会社説明会は開催されており、企業の採用意欲が前年以上に高いことがうかがえる。		
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・正社員採用の求人は引き続き好調である。求人案件はあるものの、要件にマッチする人材の不足が採用決定の伸びを抑える不安がある。	
		人材派遣会社（営業担当）	・製造業の人員状況からみると、まだまだ人手不足の状態であり、各社で取り組める余地は多いが、中国経済への不安や円高等もあり、景気が上向きになるといった感覚はない。	
		人材派遣会社（営業担当）	・直近ではプラスと感じる要素が見当たらない。	
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・国内の新車販売台数が伸び悩み、為替の影響や世界情勢への不安から海外輸出も増えず、先行きは横ばいと見込まれる。	
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・消費税増税前の駆け込み需要以外に、良くなる要因が見当たらない。	
		職業安定所（所長）	・業種間で雇用や景気の動向には差があるが、管内の状況としては、充足数が前年同月比15.6%増加しており、人手不足は変わらず、企業の採用意欲は高い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・中国経済の減速、原油安や為替相場の急激な変動等、先の見通せない要素が存在しているため、企業も今後の採用については慎重になっている。
		職業安定所（職員）	・求人数は前年同期比で減少しているが、前月比では増加している。求職者数も前年同期比で減少しているため、景気の動向ははっきりしない。
		職業安定所（職員）	・急速に円高が進んでおり、輸出関連企業には打撃を与える、管内には輸出関連企業が少ないため、地域への影響は少ないと思われる。
		職業安定所（職員）	・大手企業を中心に業績は好調で、引き続き販売業を中心にパートを主体とした求人も多い。中国経済の減速に伴う影響は今のところ出ていないが、今後は出る可能性もある。求人は増加傾向にあるものの、相変わらずパートでの募集が目立つ点は、マイナス要因である。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・新卒採用の説明会等で企業の人事担当者が業務繁忙となり、中途人材の採用活動は、いったんスローダウンする可能性がある。
		その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	・以前は期待感を持ち、景気は良くなり、いろいろな変化も良くなる兆しであると考えていたが、最近そのようには思えなくなってきている。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・採用活動は一段落し、落ち着く時期と思われる。求職者も、求人市場をみながらの就職活動になるため、人材の動きは現在と比べるとやや鈍くなる。
		職業安定所（職員）	・求人数は増加しているが、充足されない可能性が高まっている。特に、応募者が1人もいない求人案件が、幅広い産業で多数出てくることが懸念される。
		民間職業紹介機関（支社長）	・円高が進むと、自動車業界では各社の業績に影響が出てくる。株価の動きよりも、為替相場が気掛かりである。
	悪くなる	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・マイナス金利の影響は、ローン金利の見直し等良い面もあるが、貯蓄への不安感が先立ち、消費は停滞する。各業種でプラスの面があることのアピールが必要と思われる。

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・春休みや観光シーズンに入り、観光客は増加する。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・新学期に向け、各メーカーの新製品発売も控えており、期待できる。
		百貨店（営業担当）	・3月以降、北陸新幹線開業1周年のイベントなどが各地の商業施設などで予定されており、観光客、地元客の集客につながると思われるので、景気が良くなると思われる。
		家電量販店（店長）	・新築需要で、4月や5月の話が多い。
		乗用車販売店（従業員）	・業界自体が繁忙期になるため、売上の伸びに期待している。
		住関連専門店（役員）	・消費低迷の動きは相変わらず継続しているが、その中でも必要なものをふるいにかけ、良いもの志向で価値を求める傾向にある。その全体ボリュームが増加しつつあるため、期待は持てる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ガソリン安、賃金上昇などで、一般消費が上向く期待は持てる。春物衣料の立ち上がりや新生活準備などの売上が今後の試金石になる。
		高級レストラン（スタッフ）	・昨年3月中旬に北陸新幹線が開業したので、3月以降は前年を越える集客は難しくなることが予測される。
		タクシー運転手	・これから春先にかけて、観光客も増えてくることから、良くなると思う。
		タクシー運転手	・3月になれば、また観光客が増加してくると思う。
		通信会社（営業担当）	・卒業シーズンと重なり、販売量の動きに期待したい。
		住宅販売会社（従業員）	・常設展示場の来場者数は底堅い動きを示している。情報量も126%増となり、今後の商談件数の増加に期待したい。
		住宅販売会社（従業員）	・来年4月に消費税増税が予定されているので、客の動きに活気が出ると思う。
変わらない	商店街（代表者）	・今後は良くなる材料もなく、特別に悪くなる材料もない。今後3か月間は、例年並みに推移すると思う。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔精肉〕 (店長)	・今後、インバウンド客や観光客などが確実に増えていくことを楽観視はできず、不確定要素が多い。
		スーパー(店長)	・昨年は消費税増税後の落ち込みに対する持ち直しという状況があったが、今年は若干その反動が出てくると思う。今後モさもよくなるとは考えづらい状況である。
		スーパー(総務担当)	・パート、アルバイトの新規採用は、地区により厳しい状況が続いているものの、景気全体としては横ばい状況と思っている。
		スーパー(店舗管理)	・現状では良くなる要因もなく、値上げによる1品単価増の反動で、今後は客単価の低下が顕在化すると思われる。
		コンビニ(経営者)	・明るい材料は何もないが、冷凍食品など好調な商材もある。店内のレイアウト変更によって売上が増加してくることを祈っているが、現実としては難しい状況だと思われる。
		コンビニ(経営者)	・季節柄や気象条件による売上上昇は見込めると思うが、前年比が良くなる要素は見当たらない状況である。
		コンビニ(店舗管理)	・パート、アルバイト賃金は大きく上昇しているが、企業側からすれば正規社員の賃金を抑えるだけである。世帯全体の収入増は難しい。マイナス金利政策も末端にまで届くのかは疑わしい。
		乗用車販売店(経営者)	・商談の量が早くから減ってきているので、良くはならないと思う。
		乗用車販売店(役員)	・特に新型車もないので、3月の決算月をまたいで、2~3月の遅れが次年度にも持ち越されて推移するような状況になると考えている。
		自動車備品販売店(役員)	・低価格志向は変わっておらず、明るい兆しも見えない状況であり、今後も変化はないと判断される。
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・ただ単に、これ以上悪くなってほしくないという思いから、変わらないという回答にした。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	・入園入学スーツ、お祝いメニューといった春需要に大いに期待したいところである。新企画、イベントをいろいろ思案中である。
		都市型ホテル(スタッフ)	・宿泊や宴会の受注状況は、足元では前年並みに推移しているが、北海道新幹線開業の影響がみえない。レストランは低価格やお得感を出さないと来客数が伸びず、楽観は出来ない。
		旅行代理店(支店長)	・3か月先の様子はわからない。
		通信会社(職員)	・ファストフードは高級志向で売上も回復、増加傾向と聞かすが、新サービスへの客先動向は、予想以上に質より価格を求める傾向が強く、日常サービスはまだ節約傾向がみられる。
		通信会社(役員)	・契約獲得数は全体としては減少傾向にあるが、一方で一部商品に回復傾向もみられ、総じて当面は現状維持で推移するとみている。
		通信会社(営業担当)	・機種変更などの台数は増えてくるかもしれないが、値引きも多いため、売上増にはつながらないと思われる。
		通信会社(店舗統括)	・3月は業界的に繁忙期ではあるが、売上が大きく見込める要素は少ない。
		通信会社(役員)	・引き続き光サービス(F T T H)の販売が好調に続くともみている。
		その他レジャー施設 (総支配人)	・雪のない状態で、春のセールへつなげられればと思うが、景気の良さが感じられず不安である。
		美容室(経営者)	・景気が良くなるような前向きなニュースがなく、このままの傾向が続く。
		住宅販売会社(従業員)	・例年イベント来場者が増える時期だが、今年はその雰囲気を感じられない。割安な物件への反応もあまり良くない。購入時の価格の値引き交渉も強く、なかなかスムーズに交渉がまとまらない。
		住宅販売会社(従業員)	・消費税率アップとマイナス金利政策によるローン金利低下の影響で客は動いているが、好不調の波が激しく受注量が安定しない。
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・数年を費やした駅広場の整備が3月に完成するが、電車の本数も減り車での利便性は悪くなり、人出が増えるどころか減少につながりそうだ。
		一般小売店〔事務用品〕 (店員)	・商品の価格改定及び競争、個人消費の鈍化により、薄利の状態が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・現在、日銀が追加緩和策「マイナス金利」を導入したが功を奏しておらず、さらに株安、円高が進み、実体経済は低迷している。しかし、反面で「友の会」の口数および件数については増やす客が多いという状況である。とはいっても「友の会」の満期は1年後であり、すぐに業績に直結するわけではない。
		百貨店（営業担当）	・しばらくは中国の問題であれアメリカの問題であれ、株価がまだ1～2か月は不透明な状態が続くと思われることから、春物のトレンドのファッションなどについては、客の購買はまだまだ慎重になり、買い控えをするという声は非常に多い。
		スーパー（総務担当）	・景気低迷の動きが出てきているため、消費者は出費を減らそうとするのでないかと思われる。
		コンビニ（店長）	・3～4月は季節的にも上向いてほしい時期だが、12～1月から現在の状況をみると、上がる要因があまり見当たらない。10キロほど離れたところにある競合店の改装があるようで、距離が離れているためそこまで大きくはないが、少なからず影響があると考えている。
		衣料品専門店（経営者）	・衣料品の売上においては改善の兆しを感じられず、先行き真っ暗なように感じる。
		衣料品専門店（経営者）	・明るい材料はあるような気がするのだが、これだけ低調が続くことは今までにない。いつまで続くのか、大変不安である。不安のうちは良いのだが、不満につながるのではないだろうか。
		家電量販店（店長）	・季節要因もあるが、来客数が減少していて客単価で補うことが難しい。また、携帯電話のMNPに対しての施策も終了したこともあり、携帯電話の実績が大きく落ちている。
		一般レストラン（統括）	・人手不足は製造、販売の現場で深刻な状況である。材料があっても作れない、売れない状況が原因で、売上が上がらない現象がこれからますます増える。
		スナック（経営者）	・やはり、予想通り株などももろもろの外部要因が心理的に悪い影響を及ぼしているため、先々も落ち着いた状態と思われる。
		観光型旅館（経営者）	・北陸新幹線効果も薄れてきており、4月以降の集客が不安である。
		観光型旅館（スタッフ）	・前年は北陸新幹線開業以降の期間の先行予約が多数みられ、新規予約が取りにくい状況であったが、今年の予約保有は2月以降110%と、予約の仕入れは落ち着いた形になってきている。
		旅行代理店（所長）	・北陸新幹線開業1年を迎えるにあたり、特需的動きは団体、個人共に昨年と異なり低調である。
		テーマパーク（役員）	・先行きの国内団体旅行は、前年同期比で受注が弱くなっている。特に企業がらみの団体が鈍くなっているように感じる。また個人客も、ふるさと旅行券などの利用喚起の政策も一服することから、旅行需要がやや減少するのではないかと考えている。海外からの客も、円高の影響がやや出てくるのではないかと考える。これらのことから、やや悪い方向に動くのではないかと考えている。
	悪くなる	-	-
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（役員）	・春からの値上げの動き、新規投資による新商品の投入や生産性の向上が顕在化し、会社の業績は向上していくものと考えている。
		化学工業（総務担当）	・受注量が増加の予定である。
		不動産業（経営者）	・個人であれ法人であれ、数か月先に計画しているということで、物件関係の内容の問い合わせが来ている。
		税理士（所長）	・製造業についていえば、中国の問題がだいぶ落ち着いてきている。チャイナプラスアルファというか、今はインドネシアやタイ、北米関係の出荷量が徐々に回復している状態である。消費税増税が1年後に予定されており、住宅関係やリフォーム関係あるいは個人的な買物も、消費税増税によって前倒しされる影響が徐々に出てくるかと思う。逆に消費税増税を先延ばしにすると、かえってマイナスになる可能性も大きいと思われる、それが心配である。
	変わらない	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の分の受注状況をみて、そのように回答した。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般機械器具製造業（経理担当）	・利下げ、株価、為替の今後の動向に大きく左右されることから、実感として非常に不透明である。特にマイナス金利の影響として、企業の立場からするといくら金利が低くても設備投資などの実需がなければ借入はしないし、個人の立場からも住宅ローン金利が低くなくても、個人所得の増加傾向が期待できない限り、将来の返済見込みが立たず、借入はしないと考える。
		精密機械器具製造業（役員）	・今後数か月の生産計画は比較的安定した状況であるが、特に為替の不安定さもあり、楽観視はなかなかできない状態である。
		金融業（融資担当）	・春になり北陸新幹線1周年の行事も多く、ホテルの予約も好調である。現在の景気は何とか踏みとどまると思う。
		司法書士	・不動産登記において、投資型マンションの移転、設定登記が増えているが、景気上昇に結びつくかは疑問である。
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・国内市場がいまいち元気がないうえに、為替が円高に振れていることもあり、輸出における悪影響が懸念される。
		繊維工業（経営者）	・2017年の春夏用商材は今開発中であるし、2016年の秋冬については期待をしているところである。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・軸足を置く住宅市場は、新設住宅着工数において春以降順調に伸びてきていたが、10～12月は前年割れとなっており、さらに着工面積の減少は戸数以上に大きい。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・どの市場も今後の景気動向に明るさがみえず、設備投資意欲が伸びないと予測している。
		建設業（経営者）	・公共事業の切れ目のない発注が期待されているが、新年度の4月からすぐに実行されそうになく、建設業者は少ない手持ち工事で食いつないでいくことになるであろう。
		建設業（役員）	・地方では工事発注量の減少見込みから、一段と受注価格競争が激化すると思われる、今後受注環境がさらに厳しさを増すと見込まれる。
輸送業（配車担当）		・燃料費のコスト削減も一巡した。現状は売上が落ち、物量も前年比約10%落ち込んでいる。	
金融業（融資担当）		・製造業の受注の先行き減少と小売業の北陸新幹線効果一巡から、前年比でみるマイナストレンド入りとそれに伴うマイナストレンド低下が懸念される。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・去年の2月の折込広告売上は15%近く下がったにも関わらず、今年2月もまた前年を下回った。特に自動車関連の折込広告の衰退が目立った。パチンコ業界に続き業種間の折込広告の衰退は手痛い。	
	悪くなる	-	-
雇用 関連 (北陸)	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人の数は、今年度後半から前年比で大きく落ちている。一昨年と比較した場合それに近い水準なので、全体のトレンドから見ると一時的に上がっていたものが例年レベルに落ち着いたといえ、大きな経済的トピックスがない限り、堅調に進むのではないかと思われる。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は、1月においても1.6倍と非常に高い数字で推移している。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・紹介予定派遣の希望者は増えているが、レベルや職務などでマッチング率が悪い。
		人材派遣会社（社員）	・そろそろ更新確認時期なので、仕事量などを含めて、時給アップ交渉についての相談が、今後増えてきそうである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用を生む計画が出てこない。
		職業安定所（職員）	・業績が伸びている事業所がある一方で、円高の影響が輸出量が徐々に減少している業界もあり、先行きを不安視している事業所もある。
		民間職業紹介機関（経営者）	・転職希望の求職者はやや増えているが、全体として求職者が少ない状況が続いているようだ。
		学校〔大学〕（就職担当）	・直接求人依頼に来る人事担当者と情報交換をしても、人手不足で受注や設備投資に対応できない状況が続いていることがうかがえた。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・有効求人倍率についてはさほど変化は見られないと思われるが、製造業などの求人数が減少傾向にあり、実態の労働市場の中で求職者ニーズとのかい離が進むことが危惧される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	-	-

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	良くなる	その他レジャー施設 [球場]（経理担当）	・プロ野球が開幕し、公式戦が行われるほか、多くのコンサートが開催されるので、多数の来場者を予想している。
	やや良くなる	一般小売店[花]（店長） 一般小売店[花]（店員） 百貨店（売場主任） 百貨店（外商担当） スーパー（店長） スーパー（社員） スーパー（企画） コンビニ（経営者） コンビニ（店長） コンビニ（店員） コンビニ（店員） 衣料品専門店（営業・販売担当） 高級レストラン（スタッフ） 一般レストラン（店員） その他飲食[ファーストフード]（店員） 観光型ホテル（経営者） 観光型旅館（経営者） 都市型ホテル（スタッフ） 都市型ホテル（スタッフ） 都市型ホテル（客室担当） 都市型ホテル（管理担当）	・3～5月は行事が多いので、来客数、販売量共に伸びる。 ・客の節約志向に変化はないが、極端な売上減はない。繁忙期を迎えるので売上増が期待される。 ・耐震工事に伴い、駅ビルに新店舗が導入されるため、集客力が高くなる。百貨店側だけでなく、駅ビル全体が完成するため、魅力の向上による好転を期待している。近隣に大型商業施設がオープンする影響は懸念されるものの、一時の厳しさは改善される。 ・インバウンドは当面好調を続けると予想されるほか、近隣の同業他店が改装で売場面積を大幅に減らしているため、食品を中心に当店へ客が流れ込んでくる。 ・現状は朝一番と夕方以降の来客数の落ち込みが大きく、その分苦戦しているが、気温が上がって春物の需要が高まれば、回復していくと予想される。 ・店頭では、価格を重視して購買する様子に変化はないが、以前のように価格が安くなければ売れないという状況から、質の良い商品で値ごろ感があれば、よく売れる状況に変わってきている。これは、客の購買力が増えてきたためと考えており、当面は堅調な消費が続く。 ・4月にかけては、気候の変化に伴う需要や、卒業や異動、入学、新生活関連などの需要が増える。さらに、マイナス金利の影響で住宅ローンや住宅市場の動きが活況になるほか、来年4月の消費税増税に向けて、消費財の購入増加が見込まれる。 ・ファーストフードと飲料やコーヒー類、デザートなどのセット購入が更に増えそうな予兆があるため、客単価がまだまだ上昇することが期待される。 ・気温が早く春らしくなれば、来客数のベースが上がるので、販売量の増加につながる。総菜関係のキャンペーンも予定されているため、その効果に期待している。 ・春休みに入ると、レジャーやイベントに出かける人が増える。 ・春のキャンペーンの展開などで、パンの販売に力を入れる。 ・春夏物スーツなどのオーダーが早くから入っている。 ・春に向けて、卒業や入学、就職、昇進などを祝う機会が増える。 ・1年前と比べて、この寒い時期でも情報誌に広告を掲載すると来客数が増加した。このまま暖かくなれば、客は更に足を運びやすくなる。 ・来年4月の消費税増税に向けて、来客数や単価が上がってきている。 ・燃料安の影響で、旅行者が増える。 ・特に良い材料はない。 ・宿泊を中心に需要過多であり、宴会、食堂を含めた料金アップを実施したが、客の勢いは衰えていない。 ・インバウンドによる客室収入増が、継続して売上に寄与している。新年度から各種宿泊料金をアップさせるため、どのような影響が出るかは注意が必要となる。宴会や食堂については、前年並みの見込みである。 ・客室の3～4月の予約は順調に入っており、客室単価も上昇しているため、今月の落ち込みは一時的なものと考えている。 ・光熱費の上昇も落ち着きをみせている。円高の悪い影響が出なければ、このまま若干上向き加減で推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		タクシー運転手	・春休みに入れば、暖かくなって外出も増えるため、多少は動きが増えることを期待している。	
		通信会社（社員）	・消費者に商品を選択する目を持つ人が増えつつあるのではないかと。一時的なキャンペーンに反応する客が、減少傾向にあると感じられる。	
		その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・世間の経済状況は、株価の乱高下によって悲観的な論調が多く見受けられるが、本当にそうなのかと疑問を感じる。先日も、CDの売上が減少している一方、その代わりにコンサートの公演回数が増加し、チケット代が上がってもよく売れているという記事を見たが、このような形に変化していくと感じる。	
		美容室（店員）	・気温が上がり、髪を切る客が増えるため、今後は良くなる。	
		その他サービス [マッサージ] (スタッフ)	・オイルマッサージの仕事のため服を脱ぐので、どうしても寒い時期は来客数が減少する。	
		住宅販売会社（経営者）	・春の移動時期を迎えるので、流通量が多少なりとも増える。	
		住宅販売会社（総務担当）	・集客が増えていることを考えると、良くなる傾向にあると感じる。	
		その他住宅 [展示場] (従業員)	・注文住宅は、消費税増税前の経過措置の9月末までは契約数が伸びると予測するが、消費税増税の実施が不透明になってきたので、今後の動向を注視したい。	
		変わらない	一般小売店 [花] (経営者)	・消費税率の引上げなどが消費を抑え込む傾向にあり、生活必需品ではない商品の売上には期待できない。
			一般小売店 [時計] (経営者)	・近隣の大型商業施設をみていると、大型リニューアルをしてから2～3年もしない間に、店が激しく入替わっている。当店の近くにも貸店舗の看板がよく出ており、にぎやかな場所かどうかは関係なく、店を維持することが難しくなっている。2～3か月先のゴールデンウィークでは、お金は行楽に向かうため、時計を扱う店には回ってこない。
一般小売店 [衣服] (経営者)	・良くなる材料が全くない状態であったが、円高によって海外からの仕入れに少し明るさが出始めた。この状態が続いてほしい。			
一般小売店 [鮮魚] (営業担当)	・今のところは受注の予定がないほか、好転する材料もない。			
一般小売店 [衣服] (経営者)	・客に価格を合わせれば商売にならないため、この先景気が良くなることはない。			
一般小売店 [野菜] (店長)	・アベノミクスの効果はいまだに中途半端である。			
百貨店 (営業担当)	・良い動きになる要因があまり見当たらない。			
百貨店 (サービス担当)	・来月から集客が見込める新規催事などを予定しているほか、新ショップの導入により、前年の実績が引き続き確保できそうである。			
百貨店 (商品担当)	・不安定な株価や原油安による経済の停滞感に加え、マイナス金利が需要喚起に逆効果となっている。年金生活者は特に消費に慎重になっている状態である。			
百貨店 (マネージャー)	・年明けから続く円高、株安は、中国などの新興国経済の減速や米国経済の先行き不透明感、原油安の影響が絡み合っている。企業はその影響を慎重に見極めていく状況であり、この春の賃金交渉も厳しい局面となる。そのため、個人所得はそれほど増えるとは思えず、消費の低迷が続く。また、マイナス金利などで、住宅ローンの借換えを含む、少しでも無駄を省く動きが増える。全体的には様子見の節約傾向が続く。			
百貨店 (売場マネージャー)	・株価下落の影響もあるが、消費意欲を高めるような対策はなかなか難しい。消費者の物を見る目が変化し、低価格志向が定着しているため、ボリューム層の回復にはまだ時間がかかる。			
百貨店 (営業企画)	・中国の景気減速リスクが継続するほか、株価も不安定な動きが続く。マイナス金利政策の副作用を含めた効果も不透明であるなど、外的環境が悪く、マインドの改善が望めない。			
百貨店 (マネージャー)	・インバウンド需要は前年を維持するのが困難な状況であり、株価の先行きも不透明である。			
百貨店 (商品担当)	・まだまだインバウンドは強く、特に中国人観光客の数は増えていくと思われる。国内客の売上についても、高額品の動きに株安の影響は出るものの、ボリューム商品のファッション関連は堅調な推移となる。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（服飾品担当）	・秋冬のバーゲン商戦に関しては、客が秋冬物の値下げ商品を買うというよりも、通年で使える汎用性の高い商材に人気があった。春物にも活用できる商品など、やや保守的な買い方をするケースが目立つ。このような動きから、春商戦も買い控えの傾向が予測される。大きなファッションの流行が生まれ、景気の回復感が広がらない限り、現状の曇りがかった消費の傾向は続く。
		百貨店（売場マネージャー）	・地元人口の減少や高齢化、ショッピングセンターとの競合などにより、季節の始めにファッションとして購入するような感度の高い客は、少なくなりつつある。実需期に購入する客についても、必要な物を必要な時に買うという意識が強くなっているようで、ますます気候などの影響を受けやすくなっている。
		百貨店（マネージャー）	・年初と比較して株価は落ち着いてきたものの、上昇の動きは小幅にとどまっている。また、マイナス金利が導入されたことで、住宅ローンの借換え申込が増えているようである。借換えの恩恵は、手続きに一定期間を要することや、諸費用による一定の負担増などを勘案すると、数か月後に出てくると予想される。直近の2～3か月は、小売にとって厳しい状況になることが懸念される。
		スーパー（経営者）	・客の買物から、厳しく慎重な雰囲気を感じられる状況は、当分続きそうである。
		スーパー（経営者）	・景気上昇につながるニュースが少ない。春闘のニュースをみても昨年ほどの熱気はなく、正社員の賃金上昇は限定的と思われる。増えるのはパートが中心であり、当社でもパートタイマーが非常に集まりにくいいため、時給を全体的にアップせざるを得ず、収益面での厳しさが出てきそうである。
		スーパー（店長）	・株価対策やマイナス金利政策の効果がみられない。
		スーパー（店長）	・2年前の消費税増税による影響の裏返して、3月後半は上向き、4月前半は厳しくなる。為替や株価の動きなど、景況感が上向き情報も少なく、春闘の結果が芳しくなければ、商品の動きが良くなることはない。
		スーパー（店長）	・先行きは不安要素が多く、政府の施策にも即効性がない。当分の間は現状維持が精一杯である。
		スーパー（店長）	・変わらないと考えるが、変えていく行動が必要である。人の採用も厳しい状態で、来月には契約更改があるが、社会保険の適用拡大に伴う影響で、契約労働時間が削減されることも考えられる。店舗では、よりスキルの高い人にはマルチジョブをお願いし、効率化を図るなど、店舗力を上げていく必要がある。
		スーパー（店長）	・春先は人口の流出が増える一方、流入は少ない。
		スーパー（広報担当）	・確実に良くなるという要素が見当たらない。
		スーパー（開発担当）	・原油価格は下がっているが、中小企業の賃金は上がり、横ばいのみである。この春の組合交渉でどれだけの賃上げが見込まれるのか、それ次第でこれからの景気が左右される。
		コンビニ（店員）	・来客数が回復する見込みは薄く、大きな変化はない。
		コンビニ（広告担当）	・一般の中小企業の賃金が増えなければ、多くの消費者の購買意欲は変わらない。各小売業者で企業努力をしても、今後2～3か月で大きく変わるとは思えない。
		衣料品専門店（経営者）	・マイナス金利の経済効果は乏しく、景気の回復策が手詰まりになっているように感じる。
		衣料品専門店（販売担当）	・シーズンが変わってもクールビズが始まるため、景気は変わらない。
		家電量販店（経営者）	・客の財布のひもが緩む要素がない。収入の増加のほか、将来不安が払しょくできるような要素や景気対策が出てくることに期待する。
		乗用車販売店（経営者）	・例年に比べて、車検の予約台数、新車の販売台数のすべてにおいて、あまり変化がない。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型車の受注は依然として限定的であるが、既販車の落ち込みはないため、乗り切れそうである。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・株価の暴落が当面は続くと思われるため、客の購買意欲は上がらない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・円高の兆しがみられるものの、早くは進まないと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・カタログの発刊時期でもないため、受電数は変わらない。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・景気の回復につながるような、明るい材料が見当たらない。当面は一進一退の動きが続く。
		高級レストラン（企画）	・宿泊や婚礼、宴会の受注は好調であるものの、特に低価格帯の店舗では、料飲客数の動きが不安定である。
		一般レストラン（経営者）	・今年のゴールデンウィークは、為替相場の影響もあり、旅行業界では大きな動きが予想される。一方、飲食業界は花見シーズンのケータリングのほか、繁華街に動きが集中する形になる。
		一般レストラン（企画）	・昨年末からは改善傾向がみられたが、今月の来客数をみると、現状維持の動きとなる。ここへきて客単価の伸びも鈍化しており、景気を反映したものとなっている。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・消費税増税の軽減税率に関する議論の推移には興味があるが、煩雑で混乱をきたすような実務対応が必要になる不安はある。景気が良くなるための施策を期待したいが、今の議論は消費税の回収方法ばかりであり、本末転倒ではないかと疑問を感じる。
		観光型ホテル（経営者）	・世界的な傾向であるが、原油安や株安など明るい話題がみえてこないため、現状維持が精一杯である。
		観光型ホテル（経営者）	・国内外の客による需要は活発であるが、接客スタッフが人手不足のため、予約の制限が必要になりそうである。
		観光型旅館（経営者）	・かなりガソリン価格が安くなっているが、利用客がなかなか増えず、客単価も横ばいであるため、先行きにはあまり期待できない。
		観光型旅館（経営者）	・人件費や物価の上昇のため、値段を上げる予定であるが、自信を持てるような状態ではない。
		観光型旅館（団体役員）	・宿泊の予約状況は、外国人客を含めて現状維持もしくはプラスとなっているが、選挙が始まると観光業界は停滞するため、先行きには懸念を持っている。
		都市型ホテル（総務担当）	・海外からの予約状況は、相変わらず好調である。
		旅行代理店（経営者）	・フランスを避ける形で、欧州方面に少し動きが出てきた感がある。燃油サーチャージや円高傾向も若干のプラス材料である。ただし、株価の動きも読みにくいので、力強さは全く感じない。
		旅行代理店（店長）	・国内旅行が回復しつつある一方、海外旅行が激減しているため、景気が回復するとはいえない。
		旅行代理店（営業担当）	・今のところは変わらないが、これ以上、円高や株安が続けば、厳しくなる可能性はある。
		タクシー運転手	・年末年始の繁忙期以降の落ち込みを懸念していたが、大きな変化もなく推移している。
		タクシー運転手	・業績が向上している得意先が見当たらない。
		通信会社（経営者）	・消費マインドの変化の兆しがみられない。
		通信会社（企画担当）	・海外景気の悪化によって、国内の経済指標が伸び悩んでおり、实体经济への影響が懸念される。
		テーマパーク（職員）	・プラスであれマイナスであれ、経済に大きな効果を与えるのは特殊なイベントではなく、日常的な経済政策や金融政策である。当面、参議院選挙までは経済政策に大きな変更がなさそうであり、しばらくは今の流れでの推移となる。
		観光名所（経理担当）	・前月に続いて比較的暖かい日が続き、月前半は良い数字となっていたが、寒さが戻ると、来客数、売上共に減少している。当地域で以前から続いている、かなり大きな催事も、来客数があまり伸びずに苦戦している。全体的には前年比で5～6%の来客数、売上の増加となりそうである。うるう年で1日増えたとはいえ、景況感が良い感覚はなく、景気の判断がつかない。
		観光名所（企画担当）	・来場者数は前年比で10%増が続いている。インバウンドによる一定の来場もあり、当面はこの傾向が続くと考えている。
		遊園地（経営者）	・マイナス金利政策の影響や世界経済の不安定さで、景気の先行きが読めないが、それらの外部要因に左右されないような営業施策を確実に実行し、現状維持に努めたい。
		ゴルフ場（支配人）	・良くも悪くも動いていない。
		競輪場（職員）	・例年の傾向から、全体的には変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競艇場（職員）	・全国の業界内の売上状況をみても、ほぼ横ばいであり、目立った動きはみられない。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・ここまで消費意欲が下がると、企業の業績が好転するとは考えにくい。大企業は先行き不安から投資を控えるほか、中小企業は警戒感が強まり、会社の存続に精一杯となる。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・アイテムの変更や追加をはじめとする改装を推進し、集客と売上のアップを目指したい。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・客の買物に対する意欲があまり感じられない。今後はインバウンド需要も弱まりそうである。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・肉の相場は高止まりしているが、売行きが悪いために値上げはできず、負のスパイラルに巻き込まれている。これから春のお祝い関連の動きが出てくるが、不安な要素が多過ぎる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・物価が上がっても、給料が上がらないので苦しいという消費者の声を聞くと、数か月先の景気が良くなるとは到底思えない。
		一般小売店〔酒〕（社員）	・ユーロ安による円高還元セールを期待する声が増えており、事前の買い控えが想定される。
		百貨店（売場主任）	・マイナス金利政策に対する様子見もあり、積極的な消費は控えられている。
		百貨店（売場主任）	・株安などの影響が大きくなり、購買意欲は低下すると予想される。
		百貨店（売場主任）	・中国を中心とする世界経済の動きが不安定になり、日本でも株安や円高への不安が高まる。また、中国経済の減速により、今まで売上を支えていたインバウンド需要にも陰りが出てきている。国内の大多数の人は、収入の大幅増が見込めないなか、景気の改善要素が見当たらない状況である。
		百貨店（企画担当）	・これまで売上をかさ上げしていた訪日外国人の購買に陰りがみられる。特に、春節の訪日外国人売上が予想外に低迷しており、この傾向が続くと売上全体に大きな影響が出る。
		百貨店（企画担当）	・ボリュウム層の購買状況が好転する要素は少ない。堅調な富裕層の動きも、株価の下落が続けば悪化に転じる不安がある。何よりも、昨年4～6月にインバウンド売上が急増したが、直近の動向から推測する限り、今年は前年割れとなる見通しである。これらを勘案すると、今後数か月の景況は極めて厳しいと認識している。
		百貨店（営業担当）	・株価が低迷し、為替も不安定な状況であれば、一部を除く富裕層の優良顧客の間でも、高級ブランド品や宝飾品、美術品などの買上が伸び悩む。
		百貨店（販促担当）	・衣料品の不振を補ってきた高額品の販売については、株価の低下が懸念材料である。富裕層の心理が冷え込むと、もともと多く売れる物ではないため、落ち込みが心配される。衣料品の不振に打開策はなく、メーカーも厳しい環境である。イベント需要などの取り込みを確実にしていくことで、落ち込みを最小限に抑えていく。
		スーパー（企画担当）	・閉店中の近隣のドラッグストアが新装オープンする。
		スーパー（経理担当）	・景気の不透明感が強く、株安による年金不安をあおるような報道のほか、一部では賃上げの見送りムードもあり、節約志向が高まりつつある。将来の安心感が提供できなければ、今後消費は厳しくなる恐れがある。
		スーパー（管理担当）	・来年度の賃金交渉も状況は厳しい。健康保険の適用拡大に伴う経費の増加はかなりの規模になるため、ベアに対する期待は薄い。また、マイナス金利についても、恩恵よりもマイナス面の方が目立つ。
		コンビニ（経営者）	・競合店ができたことで、客が分散している。これから季節が良くなるため、デザートの実を塗りつつ、購入しやすいプラスワンの商材をそろえていく。
		家電量販店（企画担当）	・マイナス金利政策による景気の先行き不安から、消費の冷え込みにつながる可能性がある。
		乗用車販売店（経営者）	・予想外のマイナス金利まで導入されたが、むしろ効果は逆に出ているように感じる。
		乗用車販売店（経営者）	・原油安や株安、円高、中国経済の減速などの影響で、世界経済だけでなく、日本経済の先行きも怪しくなっている。先行きが不透明なため、客も消費を手控える傾向があり、今後よほどの好材料が出てこなければ景気は上向かない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住関連専門店（店長）	・これまでの傾向から考えると、かつて経験したことのないマイナス金利についても、ある程度の効果がみえない間は、顧客は慎重になる。売上はとにかく世間の情勢や風潮に左右される。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・価格競争は更に激化すると考えられるため、サービスによる差別化を心掛けたい。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・年度末に向けて、外食業界では少し景気が落ちていくと予想される。
		一般レストラン（経営者）	・春には桜通りの花見で人出は増えるが、様々な税金の納付時期であり、財布のひもが固くなる。
		一般レストラン（経理担当）	・現在の経済環境の厳しさから、賃上げは考えにくいいため、景気は横ばいか減速に向かう。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・銀行は当てにならないほか、国の景気底上げ策も裏目に出ているように見える。
		都市型ホテル（支配人）	・インバウンド景気にも少し陰りが出てきたと思われる。客単価が数月前よりも下がっており、今後も良くなる材料は見当たらない。一方、マイナス金利の影響はまだ判断できる段階ではない。
		旅行代理店（広報担当）	・ゴールデンウィークの日並びは、真ん中の2日間を休めば10連休と、決して悪くないにもかかわらず、需要が伸びてこない。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・消費税増税に対する不安がある。
		住宅販売会社（経営者）	・年度末までは仕事の見通しがつくものの、次年度は計画道路の実行に関する予算が3割カットとなるため、勢いが落ちる。
		住宅販売会社（従業員）	・一般向けのファミリーマンションは販売価格が上昇しており、売行きが悪化していく。また、これまで富裕層が購入していた高額マンションも、株価の低迷が続けば、売行きの悪化が加速すると予想される。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・マイナス金利の影響で、住宅ローン金利の低下は更に進んでいるが、経済環境の先行きに対する不安感が高まっている。そのため、モデルルームへの来場者数が減少し、購入決定に移行する割合も低下している。
		悪くなる	
一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・消費税率のアップに身構えて、節約志向が強まる。		
スーパー（経営者）	・アベノミクスやマイナス金利政策などの失敗が、よく報道で目にされるようになった。実際に、身の回りの景気回復は一向に感じられない。客の様子も、デフレが騒がれていた時期と変わっていない。		
衣料品専門店（経営者）	・客が買い控えをしており、おしゃれをして外出しようという客は、以前に比べて減少している。		
乗用車販売店（経営者）	・例年1～2月は販売が落ち込む時期であるが、ここまでひどいとは想像しなかった。円高、株安による直接の影響はないと考えていたが、ひどい有様である。今後の好転など見通せるはずもない。		
企業動向関連 (近畿)	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・受注量、受注金額共に増加し、利益も増える。
	やや良くなる	食料品製造業（営業担当）	・春夏商戦に向けて、イベントなどで各社の新商品の販売が伸びる時期なので、売上は伸びてくる。
		食料品製造業（経理担当）	・売上が前年を3%ほど上回る状態が続いている。取引先が商品に興味を示すことが多くなっている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・顧客によって波はあるが、全体的に受注量は増えてきているように思う。先の受注見込みも、昨年の受注量よりも増えているように感じる。
		化学工業（経営者）	・不安材料は多いが、大口案件が少しずつ決まっているため、今後は多少良くなる。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・建築関係の案件がここしばらくは続く。現時点で5月末までの注文が入っており、その先についても内示がある。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・8月のオリンピックに向け、5月後半ごろからテレビやブルーレイレコーダーの需要増が期待できる。
		建設業（経営者）	・4月中旬ごろまでは、現状の伸びが続くと予想される。3月末の決算に伴う案件の増加も予想されるが、大きな伸びにはならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		建設業（経営者）	・マイナス金利政策に伴う住宅ローンの金利引下げや、消費税増税に向けての駆け込み需要に期待する。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・中国経済の動向次第という不透明感も残るが、今の地政学的な要因による株価の下落が、徐々に回復するのは確実である。
		広告代理店（営業担当）	・3月以降、気温が上がれば春物に動きが出てくる。
		食料品製造業（従業員）	・季節の変わり目には商品構成が変わるが、当社は通年商品が多いため、あまり大きな変動はない。商品構成上、インバウンドの影響もほとんど受けない。輸出にも大きく依存していないため、中国の景気変動による直接的な影響もない。
		繊維工業（団体職員）	・特段の変化はなさそうである。
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・何も変化がない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・先行きを予想するのはかなり難しい。
		化学工業（企画担当）	・販売価格、販売量共に大きな変化は感じられず、今後好転する材料も見当たらない。
		金属製品製造業（経営者）	・年度末を控えて、景気が良くなることを期待している。
		金属製品製造業（営業担当）	・特に、これといった前向きな話は聞かれない。
		金属製品製造業（管理担当）	・短納期の受注が増えているため、収益が上がらない。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・良くなる要因が見当たらない。逆に悪くなる要因はあるが、それなりに現状維持は可能である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・世界情勢の変化は大きいですが、海外と国内の工場のバランスを取りながら、慎重に日常業務を進めていく。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・海外取引は商社を通じて円建てで受注しており、為替の変動には左右されないが、海外からの引き合いが受注に結び付いていない。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・年明けから株価が乱高下しており、景気動向が判断しにくい状態が続いている。マイナス金利の効果がどう出てくるかを注視したい。
		その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	・新学期が始まるころであるが、受注量に変化はないため、売上にも期待できない。
		建設業（経営者）	・今年度は好調であっても、4月以降の企業業績が好調かどうかは不透明である。一方、技能労働者、監理技術者不足は慢性化しつつある。
		輸送業（営業所長）	・運転手不足により、運転手を他社から借り受ける庸車を行っているため、経費も高くなっている。
		輸送業（営業担当）	・販売件数が伸びる要素がない。
		通信業（管理担当）	・変化する要素がない。
		金融業（営業担当）	・GDP成長率の予想が低迷気味であり、先行きが不安である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・2月はやや良いが、若干であるため、まだ景気が良くなるとは思えない。
		司法書士	・事件数や案件は相変わらず少なく、大きな変化が起きる要因も見当たらないため、変わらない。
		コピーサービス業（店長）	・新規の問い合わせなどの件数が多いため、比較的好調に推移する。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・受注が3か月で大きく変わることはなく、今後は何か対策を考えなければならない。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・今年のゴールデンウィークは、真ん中の2日間を休日にするれば最大で10連休になることから、旅行会社をはじめとする様々な業界で、顧客の獲得に躍起となっている。駅ナカでも各種イベントが盛りだくさんである。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・輸入物価については、中期的な円安の影響で上昇傾向がはっきりしている。消費者の間では可処分所得の増加が実感されないなかで、財布のひもは締めこそすれ、購買意欲に火がつくという状況には程遠い。
その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・再度、省エネ関連の補助金が下りることになっており、これによって問い合わせが増えると思われる。製品自体が動き出すのは5月の連休か、あるいは夏休みごろになる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	繊維工業（総務担当）	・自社製品をユーザーに直接販売することは、マージンを取っている得意先の役割を否定することにつながり、なかなか難しい。催事で商品を説明するためには出張も大切であるが、人手の問題もあり、販売増が難しい状態である。
		繊維工業（総務担当）	・靴下に関しては、主力取引先への販売が、今までに経験したことがないほど減少している。利益の改善に努力してきたが、販売量の減少で更に悪化している。
		化学工業（管理担当）	・円高及び株安の動きが続く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・通常の商談だけに注目すると、これからは当社を取り巻く状況は悪くなる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・世界情勢が不安定であり、特にこれからは中国経済の落ち込みが不安である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・年度末までの受注状況は良いが、その後が続かない。
		輸送業（商品管理担当）	・今は4月に向けた新生活や新学期に関する買物があるため、良くなっているが、それが過ぎると落ち着く。
		輸送業（営業担当）	・今月は大口取引先2社による電子部品の生産がストップするなど、厳しい。
		不動産業（営業担当）	・神戸の不動産事情はまだ模様となっており、売買は引き続きマイナス金利のおかげで買い手が増え、活発になっている。地価は上がると思われるが、実体経済は良くないため、賃料の上昇や空室率の低下にはつながらない。
		広告代理店（営業担当）	・クライアントからの発注が、昨年12月から連続で前年を下回っている。
		広告代理店（営業担当）	・例年と同様に、期初は広告出稿が抑えられる。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・昨年よりも受注量や見積依頼が減っているため、悪くなる。
		悪くなる	経営コンサルタント
その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・日本銀行による金融緩和策の効果が不透明で、様々な混乱を招いている。		
雇用 関連 (近畿)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・今の状況が続くそうである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・期末だけでなく4～5月にかけても、百貨店や大学、製薬メーカーといった関西が強い産業で、新聞広告への出稿が多く見込まれる。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・株価の動きとは関係なく、右下がりの傾向が続いている。労働者派遣法の改正を受けて、派遣スタッフが正社員を目指す動きが顕著になっており、当分はこの傾向が続く。正社員指向が強いことで、派遣スタッフを集めきれない状況が続くそうである。
		人材派遣会社（営業担当）	・景気の底上げとなるような、将来的に有効な政策が特にない。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・求人という視点で見れば安定している。景気が悪化するとすれば、国内要因ではなく、明らかに中国経済の減速や原油価格の低下といった海外要因である。株価もこうした海外要因に振り回されており、3か月先の景気が下向きか上向きかを判断することは極めて難しい。したがって、方向性は判断できず、変わらないというほかない。
		職業安定所（職員）	・このところは求人の微増傾向、求職者の減少傾向が続いている。ただし、円高、株安の動きを警戒し、求人の動きが少なくなっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・円高の進行や株価下落と、環境が良くない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（役員）	・今月は、求職者の数が昨年に比べて増加傾向にある。派遣先から終了を言い渡されたケースや、4月を目前に正社員採用を前提とした紹介予定派遣に応募するケースなど、様々なケースが考えられる。ここ3か月、次の派遣先を求めて登録にくる状況をみていると、業績不振企業の増加も考えられる。
		アウトソーシング企業（管理担当）	・月末になって依頼がなくなってきているので、やや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新規求人は、人手不足である宿泊、飲食サービス業、医療、福祉業で充足が進んでおらず、当面はこのような状況が続くと思われる。なお、長年にわたって地域経済に貢献してきた複合型テナントビルが、駅前商業施設の開業により1月末に閉鎖したため、周辺の商店街への影響が懸念される。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設資材や人材の関東シフトにより、関西では工事の着工量が制約され、日雇い求人も出にくいという声が下請業者から聞かれる。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・3月の決算時期に向けて、人事・労務事務や経理補助業務の需要が増え、受注が増加する傾向にあるが、今後2～3か月は新入社員の補充により、受注が減る傾向となる。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・世界経済の景気後退のため、売上や利益が減少すると同時に、経済活動も縮小に向かう。結果として、採用活動も伸び悩むのではないかと予想される。
		学校〔大学〕（就職担当）	・景気が頭打ちとなってきた際には、まず求人数の動きに出てくる。
	悪くなる	-	-

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (中国)	良くなる	観光型ホテル（営業担当）	・気候も良くなり観光シーズン到来なので期待が持てる。
		都市型ホテル（企画担当）	・春先に向けての先行受注は好調で、団体、個人の予約ともに前年を上回っている。宿泊ではインバウンド団体の受注が前年を大きく上回っており、大型観光キャンペーンの開催に伴っての個人需要の増加も期待できる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・以前と比較して夕方の時間帯でもそこそこの来客数を確保しており、客の表情や話題が明るくなってきている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・春の決算時期や卒業、入社などに伴う注文が前倒しで増えている。3～5月も期待が持てる。
		スーパー（店長）	・競合店が閉店した好影響が継続している。跡地に他の店が出店するまでは、来客数は好調に推移する。
		スーパー（店長）	・季節の変化が早く来れば客に購買意欲が出てくる。
		スーパー（販売担当）	・4月に閉店予定の近隣スーパーが閉店セールを開催するときに売上は減少する見込みだが、その後は来客数、売上ともに伸びる。
		コンビニ（エリア担当）	・客単価上昇の傾向は続く見込みであり、気温上昇に伴い来客数も増えて売上もやや良くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・暖かくなれば来客数が増え、買上点数も増える。
		家電量販店（販売担当）	・シングル世帯の需要によって少しは良くなるが、前年ほどの伸びは見込めない。
		乗用車販売店（営業担当）	・マイナス金利の好影響が自動車に出ていると考える客が多く、銀行のマイカーローンの金利が下がれば自動車業界も少しは上向く。
		タクシー運転手	・景気回復での期待はないが、季節的な要因が利用数に反映されれば良いという期待がある。
		通信会社（営業担当）	・消費税率引上げ前の駆け込み需要が見込める。
		通信会社（工事担当）	・客の様子から景気はややよくなる。
		通信会社（総務担当）	・年度替わりで人の動きがあり、新規契約獲得が期待できる。
		テーマパーク（業務担当）	・大型連休が始まり、来客数の増加が見込める季節になる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税率引上げ前の駆け込み需要が本格化してくるので良くなる。
		住宅販売会社（営業担当）	・客からの問い合わせで新築物件の早期建築を要望するケースが増加している。その理由としては、マイナス金利施策による金融機関の金利優遇や消費税率引上げを見越した早期契約を要望している客が増加しているためである。
		住宅販売会社（営業所長）	・消費税率引上げ前の住宅購入の動きが徐々に始まっている。
		変わらない	商店街（理事）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・商店街周辺に単身者向けマンションが建ち、居住人口が増えるので、人の流れが少しできることを期待しているものの、すぐに購買にはつながらない。
		商店街（代表者）	・地方では収入が増加しないのに、食品の値上げなどで客の買い控えが目立つ。灯油やガソリンが安くなっているため、少しは緩和されている。
		商店街（代表者）	・マイナス金利政策に伴う一般消費者へのメリットの周知や株価の安定等がない限り、売上確保が厳しい景気動向となる。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・商品の値上がりが続く、客は現金を守る傾向が強くなっている。様々な業種でも原材料費が上昇して経営が大変だと聞く。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・現在の調子でいけば国内消費の減少を海外への販売量の好調さがカバーすることになる。国内消費が不安定で心配している。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・消費を喚起する要素が見当たらない。
		百貨店（経理担当）	・マイナス金利の影響なのか、友の会への入会が増えているので、将来的に売上増につながる可能性がある。食事会、喫茶会などのおもてなしをしながら、春物の売上につなげたい。新しい催事を企画しているので売上に期待している。
		百貨店（営業担当）	・当館の空き区画の解消が進まない限り、売上の改善は望めない。
		百貨店（営業担当）	・現状より景気が向上する材料が出ない限り、客の購買意欲は高まらない。特に株価上昇は景気回復に必要な絶対条件である。
		百貨店（営業担当）	・催事の日数や時間数などのかさ上げ策を行い、前年をクリアするのがやっとなのである。
		百貨店（営業担当）	・景気が良くなる要因が見当たらない。
		百貨店（販売促進担当）	・卒業・入学、新生活と春から初夏の商戦がスタートしてくるが、主力の婦人服低迷が続くなか、大きな景気回復は期待できない。衣食住すべての分野で新しい提案を付加していくことが、客の財布のひもを緩める大きなポイントである。
		百貨店（営業推進担当）	・報道などでは景気に悲観的見解が多く、年配客が多いので、心理的に盛り上がりせず、目的の物は買うがそれ以外に波及してこない。
		百貨店（購買担当）	・ここ数か月客の購入頻度が低下しており、今後も現状が続く。社として来年を見据えた動きがあるが、今年は我慢する傾向にあるので、景気が良くなる見込みはない。
		百貨店（売場担当）	・売手側が買いまわりを期待しての営業戦略を行っても、客は相変わらず冷静な判断で衝動買いはしない傾向が続く。
		百貨店（売場担当）	・季節衣料品のセール不振から、メーカーの春物の商品投入が遅れ、納品数も絞られている状況である。主力取引先も合理化が始まっている。
		スーパー（店長）	・景気を判断する材料はない。
		スーパー（店長）	・ここ1年ほどは来客数が前年を切る月がなく、103～106%で推移している。2月は急激に来客数が増加し、この状態がしばらく続く。
		スーパー（総務担当）	・売上は前年より上向きで、安定して推移している。
		スーパー（販売担当）	・客単価に回復の兆しも見られるが、来客数や来店頻度には下落傾向が続いており、まだまだ景気の上昇は感じられず、むしろ格差が大きくなっている。
		スーパー（管理担当）	・ディスカウント店やコンビニエンスストアの進出により、今以上の売上を期待するのは難しい状況であり、現状維持で推移していく。
		スーパー（販売担当）	・3月の気候次第で春物の動きが良くなる。60年に一度の出雲大社遷宮が3月で終了するので、それまでは観光客数が増加し、気温次第では店に立ち寄る頻度が増加するが、その後は減少する可能性がある。
		スーパー（業務開発担当）	・3月から売上が伸びていく時期なので期待しているものの、客単価に上昇の気配が見えないのが心配である。
		スーパー（営業システム担当）	・原油安などの影響はあまり感じていない。売上は微増しているものの、劇的に増加する要因がない。このまま変わらず推移していく見込みだが、翌年の消費税率引上げがどうなるかで変わっていく。
		コンビニ（支店長）	・来客数が増加している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・景気の動向が見えない。
		衣料品専門店（店長）	・来月まではフレッシュャーズ需要で単価が高い商品の動きが出てきて集客もできるが、それ以降は落ち着いていく。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・マイナス金利政策の影響が出てくる。
		家電量販店（店長）	・家電の場合、販売店よりメーカーの販売促進によって売れる商品などが決まる。しかしメーカーのテレビコマーシャルや駅の大形ポスターなどは激減しており、客の購買意欲を掻き立てることができなくなっている。壊れたら買い直す、しかも最低限の機能があれば良いといった買い方が増えている。
		家電量販店（企画担当）	・特に良くなる理由がない。
		乗用車販売店（営業担当）	・売上が伸びないので景気に変化はない。
		乗用車販売店（統括）	・今年度は新型車がなく厳しい状況に変化はない。
		乗用車販売店（総務担当）	・ユーザーへ買換え促進をしても感触が良くない。マイナス金利等、メディアの情報が更に客の財布のひもを固くしている。
		乗用車販売店（店長）	・来客数が安定している。競争相手の動きもよく、客が以前にも増して買いまわっている。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・地方は人口減少が不景気の最大の要因で、交流人口、定住人口が増えないと景気は上向かない。このままでは数年先はもっと不景気になる。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・景気が変動する要素がない。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	・観光バスの事故があったり、今年は大きなイベントもないので観光に関しては上向きの要素がない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（所長）	・景気が回復する要素はなく、株価低迷や中国経済の減速など悪化要因ばかりがクローズアップされ、消費意欲もこのまま減退する。
		高級レストラン（宴会サービス担当）	・今後の予約状況は前年並みであり、良くも悪くもない。
		一般レストラン（経営者）	・客の動きが良くなっており、このままの状態が続く。
		一般レストラン（外食事業担当）	・3～5月は外食産業にとって景気が良くなる時期であるが、例年と同水準を見込んでいる。
		スナック（経営者）	・当業界は今後も良くなる要素が見当たらない。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（店長）	・サービスエリア沿いの交通量は前年と変わらないので、特に変化はない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・歓送迎会の時期に入り、売上等期待しているが、株安、円高が懸念材料である。
		都市型ホテル（企画担当）	・現状から良くなる要因も悪くなる要因も見当たらないので、今の状態が続く。
		都市型ホテル（総支配人）	・自治体のインバウンド誘致施策による来客数の増加が見込まれる反面、他地域でのテーマパーク開業周年記念や北海道新幹線開通などのイベントが控えており、見通しが不透明である。
		旅行代理店（経営者）	・今後も中国や米国の動きに惑わされず進んでいく。
		旅行代理店（営業担当）	・ゴールデンウィーク期間の受注増を期待する。
		タクシー運転手	・値上げ分だけ売上は伸びる。
		タクシー運転手	・1月に続き2月も客が少ない。3月は人が動く月であるが、期待できない。
		通信会社（社員）	・販売量の増加につながる問い合わせがない。
		通信会社（企画担当）	・モバイル系、SIMサービスには関心が高まりつつある。そのなかで新年度になって以降しばらくは切替え時期であり、需要が高まることが見込まれる。
		通信会社（総務担当）	・販売数は横ばいであり、購買意欲の高まりがない。
		テーマパーク（管理担当）	・地方では景気の変動が鈍く、景気に連動した変化も起こりにくいいため現状のまま推移する。
		ゴルフ場（営業担当）	・外国人客の動きは変わらず好調で、国内の客が少ない。
		美容室（経営者）	・アベノミクスの影響で中小企業の経営状態は厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・客の懐具合が良くなる要素はないので、現状維持が続く。もし給与が上がっても、物価も上昇しているため、客が当店で使う金額に変化はない。
		美容室（経営者）	・駅前に移転した方が集客は見込めるが、現在悩んでいるところである。
		設計事務所（経営者）	・地方においては人口の減少や高齢化とますます疲弊が進んできている。地方活性は永田町内での空論に過ぎない。
		設計事務所（経営者）	・住宅ローン金利は下がる傾向にあるが、それよりも景気の先行き不安から、建築などの大きな投資は慎重になっている。
		設計事務所（経営者） 設計事務所（経営者）	・客の購入意欲はあまり向上かない。 ・現状の動きから見て、年度内に景気が良くなることはなく、新年度になって動きが出てくることを期待するばかりである。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・世界経済の先行きが不透明で、客は生活防衛を考え、来年の消費税率引上げに対する不安もかなりある。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	・人の動きは悪くなる。
		スーパー（店長）	・生鮮食品の値上げが多く、また春に向けて経済的に回復する条件が見当たらない。
		スーパー（店長）	・客の買物点数が伸びない。必要な品だけを購入する動きが続く。
		スーパー（財務担当）	・新入学シーズンを迎え、臨時の出費が増えるため、客は通常の生活で節約するようになる。
		コンビニ（エリア担当）	・今年に入ってから工事関係の客が減少している。店周辺の工事が落ち着いてきており、3～4月に工事関係の需要がなければ、来客数に大きな伸びはない。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・客などの話から基本給は維持されるが、ボーナスは引き下げられそうである。
		衣料品専門店（経営者）	・買いまわり品の値段の上昇などで客は買い控え気味である。
		乗用車販売店（業務担当）	・年間の最大需要期を過ぎ、徐々に下降する。
		住関連専門店（営業担当）	・来客数が少なく情報が取れないので、見込客数が読めない。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・地方創生など国は努力しているようであるが、地方にまちづくりができる人材が少ない。コンサルタントに金をかけても本当の地方創生は不可能である。もっと地方公務員に危機感を持って欲しい。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（運営担当）	・最近の株価下落や為替の不安定さなどから、景気が良くなることに期待が持てない。
		一般レストラン（経営者）	・地方の給与水準は上がっておらず、今後の上昇も望み薄の感がある。客の消費や外食等への出費は今後も抑制傾向にある。
		一般レストラン（店長）	・客の来店頻度が低下してきている。当店のみならずチェーン店全体で減少傾向にあり、2～3か月は続く見込みである。
		観光型ホテル（宿泊担当）	・最近の客の会話ではマイナス金利の話が多い。
通信会社（広報担当）	・すでに商戦期に差し掛かっているが、全く販売数も伸びず、客は商品の価値より値段のことだけを気にしているため、景気回復には結び付かない。		
競艇場（職員）	・3か月後にG1と同等の売上が見込めるレースはない。		
住宅販売会社（営業担当）	・3月完了の工事が多く、4～5月の工事は少ない傾向にある。		
悪くなる	商店街（代表者）	・オーバーストア、デフレ、少子化、インターネット販売など取り巻く環境が厳しい。今月の売上げも悪く、客の購買行動は慎重である。	
	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・納税時期と重なり、消費はさらに悪化する。	
	自動車備品販売店（経営者）	・今のままの大企業中心の政治では景気が良くなることはない。メーカーはマイナスを下に押し付けて、史上空前の利益を出している、こんな商業構造ではどこまでいっても景気は良くならない。	
企業動向	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・地元の自動車メーカーの生産が好調で、それに伴って繁忙である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (中国)	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・1月は各魚種とも水揚げが前年より減少しているが、唯一伸びているのは大中型巻網漁である。大雪で時化が多かったが、風を見計らったの出漁で、アジとサバが好調であった。
	変わらない	金融業（貸付担当）	・マイナス金利の影響で住宅ローンの金利などが引下げられている。消費税率引上げ前の駆け込み需要も見込まれており、景気は今後良くなる。春闘ではベア見送りなどの報道も出てきており、個人消費に悪影響が出るようであれば、今しばらく現状維持が続くことも考えられる。
広告代理店（営業担当）		・4月から新年度を迎えるなかで、客情報および受注問い合わせ等の流れから、販売は上向きに推移する方向である。	
食料品製造業（総務担当）		・現状、良い情報、悪い情報とも見受けられない。	
繊維工業（経営管理担当）		・前年と比べて受注量は増えているが、向う数か月ではあまり変化がない見通しである。	
木材木製品製造業（経理担当）		・株安、円高等で景気の先行きが全く不透明となり、個人消費の予測が難しい。	
化学工業（総務担当）		・景気が好転するような要素が見当たらない。	
窯業・土石製品製造業（総務経理担当）		・鉄鋼業向けの受注残水準が低く、引き合いも今一步の状態である。建設案件は工期が長く、現在の多忙な状況が継続する。	
鉄鋼業（総務担当）		・中国の過剰生産や市況低迷は短期間での調整が難しい。上期と下期の活動水準の差もあり、当面は低調なレベルで継続する。	
非鉄金属製造業（業務担当）		・事業分野でのばらつきはあるものの、金属相場の下げ止まり感があるので、総じて横ばいとなる。	
金属製品製造業（総務担当）		・現状を好転させる情報はまだなく、このまま推移する見込みである。	
一般機械器具製造業（総務担当）		・受注量や販売量の動きから見て変化がない。	
電気機械器具製造業（総務担当）		・地元の中小企業には好景気の実感はない。それよりも株安や中国経済の失速など不安定要素が多く、自力での克服には限界がある。	
輸送用機械器具製造業（経営企画担当）		・期末に向け主要客には若干の生産調整が予定されているが、影響は軽微である。	
建設業（総務担当）		・手持ち、予定物件に大きな変化はない。	
通信業（営業担当）		・当面金利政策はマイナス金利等で消費も伸びない状況が続き、プラスになることが見込めない。	
通信業（営業企画担当）		・取引先企業でセキュリティの脅威に関心が高いものの、具体的なシステム導入の商談が少ない。	
金融業（融資企画担当）		・為替が円高になり、自動車メーカーの輸出採算は悪化するが、新型SUVの販売台数は堅調を維持すると期待されるため、自動車部品メーカーの受注は高水準で持続する。	
会計事務所（職員）		・全体的に景況が良いとは言えない状況であるが、それでも建設業は忙しく、製造業もそこそこ受注はある。景気の減速感はあるが、心理的要素も多分にある。	
やや悪くなる		食料品製造業（総務担当）	・3月以降は春物商品が出るが、在庫整理で売上が伸びていないことが懸念事項である。
	化学工業（経営者）	・大幅な円高基調による輸出の減少、原油安による販売単価の引き下げ要請により利益率が低下基調にある。	
	鉄鋼業（総務担当）	・年初からの受注は予算未達であり、4～6月の生産は今期予算の10%減のレベルである。世界経済が不安定で、マイナス金利の心理的影響も加わり、この先の不透明感が増している。米国の大手金融機関の破たん時のような雇用調整は考えにくいだが、限られた仕事量のなかで、いかに約束した収益を確保していくかが経営課題である。	
	電気機械器具製造業（総務担当）	・発注計画値に伸びがない。	
	輸送用機械器具製造業（財務担当）	・為替や原材料市場など不安定な要素が多く、その不透明感から先行きはやや悪くなる。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・中国経済の落ち込みから世界経済が低迷している上、国内の消費動向もあまり良くない。低金利政策に対する反応は鈍感で、他の政策もお手上げ状態となっている。	
	建設業（総務担当）	・海外動向から見れば日本経済も減速気味である。	
	輸送業（経理担当）	・今後の荷動きはアジア向け輸出数量の減少が見込まれており、国内も増加しない見通しであるため、全体としてはやや悪くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		不動産業（総務担当）	・4月中旬ごろまでが賃貸物件の需要時期となり、それ以降は徐々に来客数と成約件数が減少する。
	悪くなる	-	-
雇用 関連 (中国)	良くなる やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・2月に続き3月も企業の採用意欲は高い見込みである。求職者も4月入社に向けての動きが増え、マッチングしてくる。
		職業安定所（産業雇用情報担当）	・新規求職者数、有効求職者数ともに減少しており、求人を出しても応募が少なく、採用がしにくい状況となっている。企業のなかにはハローワークのほかにも人材派遣会社にも依頼しているところもある。
		民間職業紹介機関（職員）	・年度末や新年度に向けた人の移動が出てきて、暖かい気候が続くなかで3月の三連休を迎えることができれば、個人消費は伸びる。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・10月の社会保険の改定のような、女性の社会進出を後押しする施策次第である。
	変わらない	人材派遣会社（経営企画担当）	・労働者派遣法改正に伴う教育訓練などの経費が発生するため、今以上に経営管理をしていく必要がある。コンプライアンスに対する意識も高まっており、会社としての信頼構築に向けた対応が必要になる。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・新卒採用のための広報活動開始は前年と同じ3月1日であるが、選考解禁は前年より2か月早い6月へ前倒しとなる。そうした採用活動の短期化がインターンを幅広く受け入れる企業を増やしている。今年は例年と異なり2月がインターン実施のピークとなり、数年振りにインターンを再開させたり、受け入れ人数を増やす企業も目立っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・特に景気が変わる要因がない。
		職業安定所（所長）	・医療福祉や建設業で慢性的に人手不足が続いているが、製造業やサービス業、卸小売業など幅広い業種でも人手不足感が広がっている。
		職業安定所（産業雇用情報担当）	・管内駅前商店街のスーパー撤退の話があり、求人数が増えている割には景気が良くなる気配が感じられない。
		職業安定所（雇用開発担当）	・求人が大きく減少する要素がないことから、業種により差はあるものの、人手不足の状況が継続する。
学校〔大学〕（就職担当）		・消費税率引上げ行われる状況が雇用状況にも影響を及ぼす。	
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・世界経済の状況が好転しないなか、日本の雇用状況は引き締めにきている。今後の株価と世界経済が現状のままだと、雇用の改善状況は鈍化する。	
	人材派遣会社（支店長）	・チャイナリスクや円高など、企業の採用意欲を減退させる事柄が増えており、製造業を中心として採用に慎重になる企業が出始めてくる。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・当県では建設業、卸小売業、サービス業などの業種で高水準な求人倍率が続いているものの、各種経済指標は軒並み伸びが鈍化、あるいは下落傾向にあり、先行きが不透明である。	
	学校〔短期大学〕（学生支援担当）	・経済情勢が回復する兆しがない。	
	悪くなる	-	-

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)	良くなる	タクシー運転手	・3月にはお遍路シーズンを迎え、2～3か月後にピークを迎える。うるう年の今年は逆打ちする人も多く、売上、水揚げはかなり良くなる。
		コンビニ（店長）	・特殊事情がない中で客単価が2%増加している。
	やや良くなる	衣料品専門店（経営者）	・例年2月は売上、来客数ともに、最悪の時期であるが、向こう3か月は現状よりは良くなる。また、ある程度暖かくなってくれば、春物の動きが出てくると期待している。
		衣料品専門店（経営者）	・春めいてくるのが早いとの予報を受け、これからは春物衣料が好調に売れていくと期待している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・春は花見等で酒類が売れるため、少し景気は良くなる。
		タクシー運転手	・4～5月は歓送迎会等で飲食する機会が増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	通信会社（営業担当）	・新商品の発売開始を予定している。
		通信会社（支店長）	・為替、株式市場が混乱していて不透明感は増しているが、マイナス金利などの景気浮揚策が徐々に効いてくる。
		設計事務所（所長）	・9月までは消費税増税前の駆け込み需要が出てくる。
		商店街（代表者）	・来街客は増加傾向にあり、観光客も入ってきている。外国客船も入港予定で明るい雰囲気はあるが、消費マインドがかなり厳しい状況にある。また来年の消費税増税で、消費マインドを押し下げる傾向が続くと予想しており、厳しい状況になる。
		商店街（事務局長）	・人通りも多く、活気はあるが消費には結びついていない。人気を集める業種、業態もあることから、仕掛けづくりや情報発信を工夫すれば伸び代はあるだろう。瀬戸内国際芸術祭開催が起爆剤になればと考えている。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・来客数、販売量共に変化がみられない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・春の送別商品の予約が入り始めている。全体的に購入単価が低くなってきていることは気になるが、平年並みを予想している。
		百貨店（営業担当）	・現状から見て変わらない。
		スーパー（店長）	・3か月先まで特に変わったことが起こるとは思えず、今の状況が続く。
		スーパー（企画担当）	・気温が高めに推移した場合、売上増は見込めない。3月後半に気温が高めに推移すると花見需要が前倒しになる可能性があり、少し期待できる。
		コンビニ（商品担当）	・競争環境の激化が一層深まると予想され、現状維持をすることで精一杯である。
		衣料品専門店（総務担当）	・顧客からは状況が好転するほどの良い話はなく、単品買いが目立っている事からも所得が増えているとは感じられないため、回復は依然として進まないと考えている。
		乗用車販売店（従業員）	・例年どおりの年度末需要は望めるが、それ以上の明るいニュースがない。新型車はグレードによっては、11～12月の納車予定となるため、即売上にはならない。
		乗用車販売店（従業員）	・金利が更に低い状況となっているが、金利が安だけで住宅、自動車等の購入、又は企業の設備投資にはつながらない。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車が好調とは言えず、現状維持が続く。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・賃金上昇の期待が急速に萎み、財布のひもは緩みそうになり。
		一般レストラン（経営者）	・可処分所得が増えれば別だが、外食に大盤振舞うことは無いと思う。ただ、ガソリンが安くなっているのを助かる、という声は聞く。
		観光型旅館（経営者）	・先行きに多少心配はあるが、旅行業界はあまり変わらない。地域によって違いがあるものの、新幹線ブームやその他の全国的な競争の中で、道後温泉もイベント等で割りと盛り上がりしており、現状が当面続くものと思われる。
		旅行代理店（支店長）	・海外旅行需要の増加は望めないが、北海道新幹線の開通等のイベントで国内旅行需要は堅調に推移する。
		通信会社（企画）	・受注が大きく増える状況にない。
		通信会社（営業担当）	・国の政策の影響予測が難しい。
		観光遊園地（職員）	・円高傾向にある。
		ゴルフ場（従業員）	・2～3か月先の予約状況を見ると前年並みで推移しており、あまり変わらない。
		競艇場（職員）	・全体的に本場来場者の増加が売上増につながるのだが、現状では新規の来場客増加は期待できない。
		美容室（経営者）	・消費マインド向上の要素が見受けられない。
		住宅販売会社（従業員）	・問合せ件数からみて例年通りの受注は見込めるが、今以上の受注増につながるような好条件が見当たらない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・中国経済の悪化、株価の低迷、金利の引き下げ等の不安要因が多く、客の買い控えで消費は鈍くなる。	
	商店街（代表者）	・アベノミクスの進展も極めて浸透が薄いうえ、野党の生き残りをかけた戦略が政策推進に大きな足かせとなる。	
	百貨店（販売促進担当）	・海外情勢や株価下落など個人消費に悪影響を及ぼす要素が散見され、決定的ではないものの消費ムードが悪化している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（財務担当）	・株価の下落と、所得、実質賃金の減少が影響して、やや悪くなる。
		コンビニ（総務）	・天候や気温に大きく左右されるが、消費が活発になるような材料は何も見当たらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・2～3月の需要期後は一服感が予想される。
		乗用車販売店（役員）	・3月は良いと予測しているが、4月以降は受注が悪化する。
		住関連専門店（経営者）	・株式の乱高下、どちらかといえば下落気味で推移していることと、マイナス金利を受けて、雰囲気は良くない。
		美容室（経営者）	・スタッフの確保が難しく、回転が上手くいってない。
		悪くなる	一般小売店〔酒〕（販売担当）
		コンビニ（店長）	・来店客数、販売高等から勘案して悪化傾向にある。
企業 動向 関連 (四国)	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・円高の影響で輸入原材料のコストメリットが期待出来る。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・インバウンドによる盛り上がりは、しばらく続くと予想しており、景気は少しずつ上向いていく。
	変わらない	食料品製造業（商品統括）	・加工食品の販売価格の上昇は落ち着きつつあり、上がりすぎたものに対しては販売停滞、減少傾向となっている。しかし、安定的に販売している商品の正規の値上げに対しては、利益幅も確保しつつ販売は回復傾向である。
		繊維工業（経営者）	・全体に景況は厳しいなか、新しいことに積極的に取り組んでいないと現状維持が難しい。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注に若干の変動があるため、今後の動向を注視する必要がある。
		電気機械器具製造業（経理）	・得意先からの受注量は微増を見込んでいるものの、年度末等の季節要因を考慮すると大きな変化は無い。
		建設会社（経理担当）	・民間工事量は増える見込みだが、今後は仕事量の減少や競争のなかでどれだけ耐えられるかが焦点となる。当面、景気は変わらない。
		輸送業（経営者）	・やはり不安要素がぬぐえない。
		不動産業（経営者）	・経済状況が非常に不安定な状況になっており、客も特に不動産のような大きな買い物には、非常に慎重になっている。今後の景気動向やマイナス金利などを踏まえて、先行きについては今のところ見えない。
		広告代理店（経営者）	・インバウンド増に伴う交流人口増によりホテル等観光関連の得意先は好調の見込みであるが、多くの得意先は依然として消費低迷が続いており、販促費等もあまり変わらない見込みである。
	やや悪くなる	木材木製品製造業	・金利は下がっているものの大きな購買意欲の増加につながっていない背景には、今後の見通しに明るさを感じていない消費者が多い証拠と捉えられる。消費税増税前に購入しておこうとする意欲よりも、今後は使えるお金が減るから大きな買い物は控えておこうといった消費者も多いのではないが。
		鉄鋼業（総務部長）	・主力造船向けで受注価格の値下げがあり、今後の売上金額に悪影響となる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注が頭打ちの状況にあり、経営に危機感がある。
		建設業（経営者）	・このまま景気が回復せず、公共事業の発注量も少なければ、期待はできない。
		建設業（経営者）	・全体的に受注量が減少し、手持ちの仕事が例年より少なくなっているため、これからの数か月間はやや悪くなる。
		輸送業（営業）	・青果物は初夏にかけて繁忙期を迎え取扱物量の増大を期待するが天候次第である。一般貨物は受注先企業の大半が新しい事業年度を迎えるが、マイナス金利政策を背景に、各荷主企業とも取扱物量増大の鍵となる販売拡大への具体的施策が見えてこない状況であり、景気の好転についてはあまり期待できそうにもない。
	金融業（副支店長）	・一部業種を除き取引先の資金需要は伸びていない印象を受ける。マイナス金利導入は報道が先行し、地域の実体経済が好転していない中では新たな資金需要の刺激という効果は感じられない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		公認会計士	・将来に不安を持っている経営者が非常に増えている。世界経済の悪化、日銀のマイナス金利の導入、来年の消費税増税等で、経営者が設備投資に消極的になっており、景気は悪化しつつある。
	悪くなる	-	-
雇用 関連 (四国)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社(営業担当)	・新年度になると組織変更や新卒者入社などにより、各社が活況を呈することが見込まれる。
		求人情報誌製作会社(従業員)	・異動時期に入り求人数の増加が見込める。
		職業安定所	・有効求人倍率は1.42倍となり、対前月比で0.05ポイント、対前年同月比で0.23ポイントそれぞれ上昇した。この状況が年度末まで継続するものと思われる。
		民間職業紹介機関(所長)	・業種間格差はあるが、おしなべて業績が好調なため、増員しようと考えている企業が多い。なかでも、飲食、製造業が相変わらずの人手不足感があり、積極的に採用活動を行っている。
	変わらない	求人情報誌(営業)	・求人の高止まりに対して、各企業とも大きな解決策がないため、引き続き人材確保ができず、求人難が続く。
		職業安定所(職員)	・正社員募集でも昇給や賞与は無しなど、採用するために条件を良くする動きは無い。
		学校[大学](就職担当)	・例年よりも多かった求人数は、1月以降は昨年度並みに落ち着いてきている。
	やや悪くなる	人材派遣会社(営業担当)	・企業の新卒採用は毎年増加しており、派遣の求人数減を懸念している。
		新聞社[求人広告](担当者)	・マイナス金利による預貯金利益の逸失や、景気不安の報道が消費者心理を更に冷やしている。来年の消費税増税も控えており、一般人は生活防衛に努めている。
	悪くなる	-	-

10. 九州(地域別調査機関:公益財団法人九州経済調査協会)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	家電量販店(従業員)	・新学期に向けて新生活用の家電購入が増える。
	やや良くなる	商店街(代表者)	・現在よりもより年度末に関する案件が増えてくると予想される。
		一般小売店[生花](経営者)	・花屋の景気は大体春から良くなるので期待したい。
		百貨店(営業担当)	・低金利対策として百貨店の友の会が大きく取り上げられ、1月から募集開始の「春のコース」の新規入会数が増加し1年後の好材料となる。同時に、3月1日の「春のコース」満会とお買物券交換開始で、来店客数と関連大型催事による来店頻度の高まりが期待できる。また、友の会との相互募集強化で自社クレジットカード募集も13か月連続で目標達成している。両会員の増加で友の会・クレジットカード関連催事の底上げとリニューアル効果期待できる。
		百貨店(企画)	・駅ビル開業から一回りし、その反動増が見込まれる。
		百貨店(店舗事業計画部)	・ゴールデンウィークにかけては新生活や母の日などの需要が多く、人の移動も多くなるので来客、売上とも期待できる。
		コンビニ(エリア担当・店長)	・4月のたばこの一部値上げに伴い、客のプラス1品買いが増えたと予想する。
		家電量販店(店員)	・暖冬ということもあって、非常にこの冬は悪かったというのが現状である。悪いときには必ずその反動があるので、3か月後は若干プラスの動きがあると考えている。
		その他専門店[コーヒー豆](経営者)	・2月は寒かった気候の影響もあり、客の入りが若干少なかった。これから春先にかけては、来店頻度が上がるので、売上は増加する傾向にある。また気温が暖かくなると客の購買意欲も上がるので、今後2~3か月先の売上は期待できる。
		その他小売の動向を把握できる者[土産卸売](従業員)	・3~4月の異動シーズン及び春の行楽シーズンへ向けては、1~2月の販売量の良さが引き続き保たれる。
高級レストラン(専務)	・3月に入るとやはり歓送迎会や入学祝い、卒業祝いなどいろんな集まりがあり、気候も暖かくなるので大分良くなるかと期待している。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（支配人）	・歓送迎会の季節となり、ある程度の予約が見込める。
		旅行代理店（企画）	・テロ問題等で海外需要が低迷していたが、徐々に良くなってきている。
		タクシー運転手	・大型イベントも目白押しで、週末のホテル予約が難しい状態が続いており、観光客の増加も重なって、当地においてはある程度の景気の向上は見込める。
		タクシー運転手	・今年は例年と違い、人の動きがそれぞれになっている。
		理容室（経営者）	・2～3か月先は、業種的に卒業、入学など春に向かって多少良くなる可能性がある。当地では豪華客船等による中国からの客も多いが、関係のない業種はあまり良くないので、全体的には冷えてきているようだ。
		美容室（経営者）	・2～3か月先の春先になると人が動く時期で、おしゃれをするシーズンになるのでだんだん景気は上がってくる。
		美容室（店長）	・例年通りであれば結婚式、卒業、入学と出かける機会が多くなるので、客の様子は少し良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前であることと、マイナス金利の影響による住宅ローン金利引き下げ等が住宅計画の後押しをしている。
	変わらない	商店街（代表者）	・なかなか景気に回復の兆しはみられず、低迷している。町内は若干空き店舗が増えて、埋まらない。
		商店街（代表者）	・何とも将来の見通しはつかない。
		商店街（代表者）	・地方では消費を刺激するような背景は全く見当たらない。
		商店街（代表者）	・3～4月は商店街の繁忙期に入るため若干景気が上向くが、大きく期待できない。今のまま若干悪い状況が続く。
		商店街（代表者）	・商店街では、生活必需品を取扱っている店舗はそれなりに売上確保ができる。しかし、ファッション関係の店は苦戦が続いている。
		商店街（代表者）	・季節的に春めいてきたので、幾分良くなると期待している。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・寒さも緩んで野菜、果物の生産量も増えていくが、消費者の購買心を高めるようなプラス材料がないので、横ばいが続く。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・なかなか景気の良い話を聞かない。誰に聞いても売行きが悪いという話ばかりである。ただし、売れる店はその話はしていない。話をするのは売行きの悪い店ばかりである。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・年間を通して一番売上が伸びる月であるが、景気次第でもっと期待できる。
		百貨店（営業担当）	・抜本的な変化はみられない。
		百貨店（経営企画担当）	・消費税増税、例年にない気候変動等の影響により、地方の個人消費は低迷している。上位顧客層の下支えにより若干の回復基調ではあるものの、売上の半数のシェアを占める中間層については、来年の再増税によりますます消費マインドは低下するのではないかと見込んでいる。
		百貨店（営業統括）	・景気回復の材料に乏しく、生活環境を含めて、先行きに対する不安要素が非常に大きい。
		百貨店（売場担当）	・本店では婦人服及び紳士服の全体の売上シェアが高いので、売上が上がってこない状態である。食品、特に菓子は好調であり、その辺がけん引して流れが変わってくると、若干上がってくる。入店客数は1月は前年比95%となったが、それ以外は8月以降100%を超えている。競合店については、新店舗オープンや地下リニューアルでおそらく数字が上がってくる。
		スーパー（経営者）	・日本だけの状況ではなく、世界的な状況などで変わってきているので難しい。
		スーパー（店長）	・大体通常の販売量の動きが目立って良くなっていない。
		スーパー（店長）	・雇用状況は相変わらずあまり良くなく、競合店の出店等もあり、今後価格競争を含めた競争が厳しくなることが予想される。
		スーパー（店長）	・来店客数があまり変わらず、買上点数が少し落ちてきている。
		スーパー（総務担当）	・売上は、前年を上回ってここ数か月推移しているが、伸び率は若干下降気味となっている。
		コンビニ（販売促進担当）	・現在、重点的に販売をすすめている中価格帯の製品が、時間はかかっているが、徐々に市場で受け入れられていて、今後もその流れは続く。
		衣料品専門店（店長）	・入学や就職などのシーズンでもあるが、世の中の動きが落ち着いているようで、あまり景気の動きはない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店(店長)	・間もなく3月を迎えるが相変わらず寒い日が続き、客の出足が悪い。
		衣料品専門店(店員)	・自店だけでなく他の店も衣料は値上がりしている。顧客の収入は変わらないので購入しづらくなっていく。
		衣料品専門店(チーフ)	・来客数の単価、まとめ買いとも落ち着きをみせている。2~3か月後はクールビズも始まるため単価が減少する。
		衣料品専門店(取締役)	・季節が暖かくなり、春物、夏物の商品が動くが、冬物に比べて単価が低いので、その辺の需要がどのぐらい取り込めるかというところである。特に景気が良くなる材料が見当たらず、不透明である。
		家電量販店(総務担当)	・目玉になる商品がなく、需要の掘り起こしに苦労している。
		家電量販店(広報・IR担当)	・大きな変化は期待できない。春商戦で多少の動きはあるだろうが、現状維持を見込む。
		住関連専門店(経営者)	・都市部では売出しは順調であるが、地方では景気の回復感はなく、株価の乱調など先行き不透明である。
		ドラッグストア(部長)	・販売量の状況として、現状は高すぎず低すぎずといった感覚を持っている。目先は円高・株安傾向であるが、影響が出てくるのはもう少し先になると考えている。
		その他専門店[ガソリンスタンド](統括)	・燃料油のうち自動車燃料油については、ここ数年のなかで最安値となっており、春の行楽シーズンに自動車による当地観光の行楽客増加に期待したい。ただ、燃費が向上した自動車が増加しており、販売量の増加はあまり期待できない。洗車等の自動車のカーケア商品の販売増加に期待したい。
		その他専門店[書籍](代表)	・アベノミクス、日本銀行の政策の失敗がメディアでも報道されるようになって、年金への不安、消費税増税への備えなどから内需が良くなる兆しがみえない。
		その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター](支配人)	・良くなると期待していたが、日経平均15000円割れ、中国株下落、原油安、円高等が一般顧客の不安要因になっている。
		その他小売[ショッピングセンター](広報担当)	・好転する要素はあまりなく、良くなるという期待感も薄い。円相場の変動や中国を始めとするアジアの新興国の景況次第によっては影響される業種もあるだろうが、小売に直接的な影響は、すぐには表れない。
		高級レストラン(経営者)	・3月の予約状況を見ると今のところまだ少ない。ちょうどこの時期、3月末から4月にかけては歓送迎会、特に送別会等が多い時期であるが、今のところあまり大きい予約も入っていない。1~2月同様、売上が過去よりも上がるように予約が入ってくることを期待しているが、今のところ良くなるのか悪くなるのか、どちらとも言えない。
		一般レストラン(経営者)	・前年よりは微妙に良いが、一時的なものである。
		一般レストラン(スタッフ)	・いくら頑張っても税金を支払うばかりで良くならない。良い政策がない。
		スナック(経営者)	・年明けから1~2月と不振月が2か月続いた。今までにない傾向で、市場全体が冷え込んでいる。
		観光ホテル(総務)	・3か月収入予測より変わらない。
		都市型ホテル(販売担当)	・3~4月とあまり高い売上は予想していないので、前年とあまり変わらない。
		都市型ホテル(副支配人)	・例年4~6月は1年間を通じて一番売上が少ない時期ではあるが、前年以上に5月までの入込は堅調に伸びている。
		旅行代理店(従業員)	・海外からのインバウンド需要が好調なため、アウトバウンドの航空座席が取りづらくなっている。
		タクシー運転手	・予約状況は大変良いが、地元客の利用が大変少なく、一時的な予約状況である。
		通信会社(企画担当)	・次年度予算の相談が一巡し、想定される事業に現在変更はない。
		通信会社(営業)	・春商戦が終了した後は連休の多い5月に入るため、毎年同時期は販売量が落ち込む。
		ゴルフ場(従業員)	・今頃から大体ゴールデンウィークの予約が動き始めるが、それが鈍っている。当地では雪の被害で農産業が厳しく、また建設業が年度末でもありなかなか地元のコンペが入らない状況である。これからはいろんな策を練らないと前年を上回ることにはできないと少し不安を持っている。
		競輪場(職員)	・前年度比で売上に変化がなく、身の回りの景気は変わらないと見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競馬場（職員）	・傾向が変わるであろう特段の理由が見つからない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・顧客確保に必要な介護人材の確保が進まず、介護報酬マイナス改定の影響を吸収できない状況が継続している。
		設計事務所（所長）	・ほとんど仕事の量としては増えておらず、飛び飛びで仕事がある状態で、今の状態が続いていく。
		設計事務所（代表）	・良い材料が少ない。
		住宅販売会社（従業員）	・市中心部ではマンションの着工もなされており、開発も進んでいるが、景気を底上げするような業種の状況がどうなのか、貸付金の金利の問題もどうなるのか、それにより景気の動向がどう上下するか、わからない。株価の動きが乱高下しているため、その今後の落ち着きで景気が変わってくる。
		住宅販売会社（代表）	・今後、明るい材料はあまりないが、消費税増税に伴う駆け込み需要があるのではないかと考えている。ただ、駆け込み需要がないまま増税してしまうと、落ち込みだけくるのではないかと懸念している。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・当店の客は年金受給者が多い。預貯金は多分持っているが、金利が下がるということで、自分の将来を考えて買物に対する態度は非常に厳しくなる。今月も安くなれば買う、自分が見える範囲であれば買うという状況だったことから、金利が下がればもっと厳しくなる可能性は高い。
		百貨店（総務担当）	・明るい材料が見当たらず、消費マインドの改善が期待できない。
		百貨店（業務担当）	・株価の話をしたり、将来の不安を話す客が多い。春物の新作が入荷してきたので案内をすると、もう少し暖かくなってからでいいとの返答である。必要な時に必要なモノだけ買う客が多い。
		スーパー（店長）	・依然として、衣料品、暮らしの品の消費動向は改善が厳しい。
		スーパー（店長）	・競合店のドラッグストアができたので、酒、また一般食品を中心に影響が出ている。全体的には前年比3%減となっている。衣料品は、暖冬で春物衣料も心配しているが、冬物衣料がやっと消化できる状況であり、夏物に期待している。天候で衣料品はかなり左右されている。全体では前年の98%ぐらいで推移すると予想している。
		スーパー（経理担当）	・現在の好調は天候によるもの、消費税増税後の裏返しによるところが大きく、今後、春以降は、その他の要因は考えられない。
		スーパー（統括者）	・現状では中国の景気や米国の状況から日本への悪影響が懸念され、景気が落ち込むのではないかと考える。
		コンビニ（エリア担当）	・今後、給与が上がっていく傾向は全くみられないこと、客の動きとして必要なものしか買わないことの影響が大きい。
		衣料品専門店（総務担当）	・当地においては賃上げやその他の経済状況の改善がそれほど期待できず、人口も減少している。さらに年が明けてからの株価の低迷も含み、景気が良くなる要素が全く見当たらない。むしろ悪くなる方向になっている。
		家電量販店（店員）	・日本銀行のマイナス金利ということでも消費は全く増えておらず、少し混乱しているようだ。パソコンは海外からの部品が多く、円安の影響で前年より非常に高くなっており、良くない。高額な商品が売れない状況が続いている。ずっとこの状態が続くので、売上が悪くなるのではと心配している。
		乗用車販売店（総務担当）	・4月になると年度末商戦が終わり、一服感が広がる。受注台数は伸びない。
		その他専門店〔書籍〕（副店長）	・駅に新規オープンする商業施設の影響で人の流れが変わる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・景気悪化の影響がこれから先みられるのではないかと不安がある。
		タクシー運転手	・今のところ、株の不安定な動きがあるので、消費者は心理的にかなり悪い状況である。それと政府が補正予算も出さず、何らかの景気対策もするような状況ではないので、景気は悪くなる。
		通信会社（営業担当）	・年度の切替わりで顧客が動く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	美容室（経営者）	・5～6月はイベントも何もなく、パーマをかける必要がないので、売上はやや悪くなる見込みである。
		サービスの動向を把握できる者	・円高、株安、中国の動向、アメリカ大統領選挙による影響がある。
		百貨店（営業担当）	・今の経済状況そのものが、将来的にどう変わるのかわからないことに対する消費者の不安がある。マイナス金利だから物にいくという単純なものではなく、消費については様子見の状況である。今後それが更に強くなり停滞していく。
		コンビニ（店長） 音楽教室（管理担当）	・マイナス金利の影響が悪いほうに出る。 ・学習塾を決めたあとに、習い事を決める傾向にあるので、ここ数か月は悪い。
企業 動向 関連 (九州)	良くなる やや良くなる	-	-
		農林水産業（経営者）	・3～4月は行楽シーズンや異動時期で、スーパー、居酒屋関連も少しは盛り返してくる。スーパー関連も相変わらず加工品を中心に引き合いは出てくるとみている。ただ今年の後半、予想される円高等による輸入増や国内生産増からくる価格圧迫が心配される。
		食料品製造業（経営者）	・いろんな業種の人たちが試行錯誤で行動しているようだ。何か将来実になることが出てくるかもしれない。
		繊維工業（営業担当）	・工場は増えることはない。今、取引先も生産現場を見直すところにきているが、対応が遅いぐらいだ。
		家具製造業（従業員）	・国内での商業施設の計画も一時的オリンピック需要を見込んだ投資案件が落着いた。ただ、ホテル案件は非常に増えており、海外の主要な家具の生産工場は、どこも日本向けの生産で2～3年は忙しいとのことである。当社もホテル物件での家具需要が増えた。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・民間及び自治体ともに年度締めに向けた受注が見込まれる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・ユーザーもいろいろ考えた動きをしていると同時に、世界経済が悪いとは言いながらもやはり多少の動きはある。物により差が出るとは考えられる。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・各種イベントを開催する取引先が増えてきており、企業の投資意欲がおう盛である。
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	・民間企業は資金調達がしやすい環境である。取引先の次年度設備投資計画は前年よりも多い。3月決算企業は良い数字の会社が多い。
	変わらない	農林水産業（営業）	・若干の下り基調が続くと予想される。
		化学工業（総務担当）	・当工場の製品は景気の影響をあまり受けない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今月は特に特注関係もあり売上が良かったが、4～5月に開催されるイベントの動向次第では前年程度は見込まれる。それ以上のことはなかなか難しい。
		鉄鋼業（経営者）	・受注量が大幅に増加する時期がきたり、その反動で大幅減に転じたりで、受注量、販売量ともに不安定な状態である。このような状態を繰り返すため販売価格も上昇に転じることができず、低迷している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客の声を聞いてもあまり期待できるものはない。ただ、先日のある商談会では自動車業界にはまだ動きがあるとのことだ。これから営業を展開する予定ではあるがここ2～3か月で事業が急展開することはないと判断する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現在は変わらない現状を期待している。そこで利益を出し、品質を良くしていくには、社員教育、あるいは現場内での構造改善などで積極的に力をつけ、内部で生産性を上げる方向に進めることだと考えて、取り組んでいる。
		精密機械器具製造業（従業員）	・中国経済の影響か、受注先からの委託製品が激減している。これから先、良くなるのか悪くなるのか、まだまだ見通しがつかない状況にある。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・工場火災による操業停止分のばん回生産が行われるため生産量は増加するが、通年では増産ではない。
		輸送業（従業員）	・これから先行きが良くなる状況はあまりない。ただガソリンが安くなっているの、運送会社からの値上げ要請はなく、会社としてはなんとか助かる状況であるが、物の荷動きとしては良くない状況が続いている。
		輸送業（総務）	・客の情報や現場をみると、良くなる材料があまり見当たらない状況である。
通信業（職員）	・自社全体では受注額が目標値を超えており、当面は堅調に推移すると予想される。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		金融業（従業員）	・製造業中心に設備投資が増加している。また、新規求人も増加傾向を示しているなど、雇用、所得環境が改善している。一方、中国経済や新興国経済の減速などから、先行き慎重な見方が増加してきている。	
		金融業（調査担当）	・不動産に対する資金ニーズが堅調に推移しており、変化はない。	
		金融業（営業担当）	・取引先顧客は、3月の株価及び為替の動きに注目しており、動向により前向きに動くか現状維持かを見極める様子が見え始める。	
		金融業（得意先担当）	・日本銀行の金融政策に対する連日の報道を受け、法人、個人の客とともに既存の借入金の見直しの要望が多くなってきている。そういう状況下でいくと、金融機関間の競争はますます激化することが予想され、前向きな設備投資の資金ニーズがない厳しいなかで、当面現状維持すると予想する。	
		不動産業（従業員）	・賃貸物件の入居率が横ばいに推移している。	
		新聞社（広告）（担当者）	・博多駅周辺の再開発や自治体の地方創生関連の新年度予算などの材料があるが、どこまで新聞広告に結び付けられるかは不明で、しばらくは現状維持が続く。	
		経営コンサルタント	・コンサルタント業の特徴かもしれないが、有名な実績のあるコンサルタントに仕事が集中している。	
		経営コンサルタント（代表取締役）	・消費税増税が1年後に決まったこともあるが、これだけ厳しい状況が続いているなかで、増税を行った場合、どの程度消費者に対して影響が出てくるのかが非常に不安である。おそらくこのまま続くとかなり厳しい状況に追い込まれることは間違いない。したがって、よほどのプラスになる材料が出てこない限りは、ますます悪くなる。	
		経営コンサルタント（社員）	・高級酒の売上に回復がみられない。安く売っても消費者は慎重になっている。	
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・平成27年度業務で、地方創生関連で国から市町村に対して、交付金が拠出されると聞いているが、コンサルタントに発注するような業務は、現時点では少なく、入札なども少ないことから、景気は変わらないと考えられる。	
		やや悪くなる	金属製品製造業（事業統括）	・例年、この時期になると受注量も増加するが、受注量が伸びていない。受注が売上になるまでは約半年ほどかかるため、受注量の減少により売上も減少傾向となる。
			電気機械器具製造業（取締役）	・新興国経済の不振、スマートフォンの販売が先行き不調のためやや悪くなる。
			その他製造業（産業廃物処理業）	・需要、供給ともに落ち込み、為替も円高となっており、先行き良い情報はどこにもない。
建設業（経営者）	・円高、株安で景気の先行きが悪くなりそうだ。			
建設業（従業員）	・金融情勢の不安定さで設備投資をする企業や個人などが少なく、見積案件も停滞している。			
輸送業（総務担当）	・人件費高騰が経営に大きな影響を与えている。荷主に対し値上げを要請したために、他社に逃げられた案件も発生しており、売上減、利益減は避けられない。			
金融業（従業員）	・2月の当地については、スポーツキャンプで宿泊客が増加して経済的には上向きだが、今後そういったイベントはないため、毎年のことながら反動で悪くなる。			
金融業（営業）	・中国発の世界的な需要の低迷は、長期化する可能性もある。加えてマイナス金利により金融市場は大きく変動しており、落ち着くまでは投資も控える傾向にある。そのため、今よりも悪くなる可能性もある。			
広告代理店（従業員）	・今月の新聞折込枚数は前年同月比96%と前年に届かない。3か月前の実績からも悪くなっている。また、ローン金利低下、ガソリン代の低価格、電力自由化による電気代の低下などで家計費は軽減されても、その分が消費活動に向かうところまではいっていない。			
悪くなる	建設業（社員）		・例年では繰越工事の見積依頼があるが、今年はほとんどない。公共工事も平成28年は減少し、早期の発注は期待できそうにない。災害関連の工事は補正がついているが、少額である。ゼロ市債、県債、国債の発注を期待している。	
雇用関連 (九州)	良くなる	-	-	
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・春先に向け、観光シーズンも控え、福岡は外国人観光客含め人の動きも活発になり、求人も増えてくる。消費は伸びてくる。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・現在の求人数は年度末特需であるが、年度末に入る前から求人オーダーは一定量ある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・新年もスタートしている時期なので、多くの需要は見込めない。4月からの新規の注文もほとんどない。
		人材派遣会社（社員）	・業界的には業務量増加による派遣の需要の動きが少しみえつつあるが、景気が良くなるほどの動きはない。
		人材派遣会社（社員）	・新卒の入社が4月で、さらにすぐに次年度の新卒採用が始まるため、中途採用は当面落ち着く見通しである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・地元企業に頑張ってほしいという期待感である。
		職業安定所（職員）	・3月末は求職者が1年間で最も多い時期となるため、例年求人倍率は下がる傾向にある。
		職業安定所（職員）	・今後も新規求人の増加が見込まれる。月間有効求人倍率が8～12月の5か月連続で1倍を超えている。
		職業安定所（職業紹介）	・有効求人倍率及び正社員求人倍率の前年比での高い状態は今後も続くが、大幅な増加とまではならない。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・この時期は特に景気動向を判断できる材料が乏しいが、今後企業からの求人数を注視しながら判断する必要がある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・求人の動きは、今までどおり、堅調に推移することが予測される。
		やや悪くなる	
職業安定所（職員）	・日本銀行のマイナス金利政策等が、株価や為替を始めたとする日本経済に悪影響を与える恐れがあるとマスコミ報道等により、企業マインドに不安感を与え、ひいては求人の手控えにつながり、労働市場を冷え込ませる懸念がある。		
悪くなる		-	-

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	ゴルフ場（経営者）	・先の予約状況を見ても、かなり良くなっている。特に悪い材料が見当たらないというのが現状である。
		住宅販売会社（営業担当）	・消費税増税前に建築計画を進めたいとの言葉が、客から聞こえるようになってきた。マイナス金利の影響も考えられる。
(沖縄)	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・総菜類が好調で、またドーナツのような菓子類の売上も好調である。
	変わらない	一般小売店〔菓子〕	・県内観光入域者が増えても、当社の売上に寄与しない外国人の比率が高まることで、販売量増にはつながる見込みがない。
		百貨店（営業部）	・紳士フロアの改装や雑貨関連の拡張など、売場の変化により引き続き動員効果が保たれると思われる。インバウンド売上も伸び続けているが、前年実績を保つことができれば、堅調な推移となる見込みである。
		スーパー（販売企画担当）	・単価アップはまだ続くとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・ブランド統合による店舗の閉鎖もあるが、客単価も安定しており購買意欲は落ちていない。ブランド転換後もさらに客単価は上がり、効果も出ている。
		コンビニ（エリア担当）	・県内観光や県民消費欲に変化は見られない。この状況は、当分続くと判断する。
		衣料品専門店（経営者）	・ここ数か月、状況の変化は感じられない。観光客は多いが、地元客が少ない状況である。観光客は当社の売上にはつながっていない。景気の回復にはまだまだ様子見だとみられる。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・外国人観光客が増加しているようにも感じるが、全体の数字には大きな変化はないように思う。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	・現段階における予約状況から予測される客室稼働率は、今月と同様に前年同月実績を下回る見込みである。
		旅行代理店（マネージャー）	・航空券、ホテルの単価など旅行素材は値上がり傾向で、料金的に気軽に行ける雰囲気ではない。
		通信会社（店長）	・キャッシュバックなどの特典に惹かれて端末を購入する客が多かったため販売も順調に出ていたが、今後は故障などの物理的な理由がない限り購入を考えないのではないか。
	住宅販売会社（代表取締役）	・当社において、大型の建築案件や公共工事の受注が堅調であるが、当社現場代理人や下請業者の作業員確保が懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	コンビニ（経営者）	・4月に競合店の出店計画があり、客数減になると予想される。
		その他のサービス[レンタカー]（営業担当）	・3～4月の予約状況が、前年と比較して10%程ダウンをしている。予約状況は伸び悩み、悪くなってきている。原因は不明だが、インバウンドの入込が好調と聞いているので何らかの影響があるかも知れない。
	悪くなる	商店街（代表者）	・日本全体をみると、待遇改善や売上も伸びているようなところもわずかながらあるが、零細企業では、量販店の値下げ競争、大型店の出店等に対抗するのは厳しい状況である。末端の底上げを、何らかの施策で国には期待したい。
		その他飲食[居酒屋]（経営者）	・1番の問題は慢性的な人手不足で、時給を上げたぐらいでは全く採用できない状態である。卒業等でアルバイトはいなくなるが、補充ができないため、営業自体が危うくなってくる。
企業 動向 関連 (沖縄)	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・新築及びリフォームの相談件数が増え、仮契約が増えている。
		輸送業（営業）	・小売店、外食店舗などの新規出店が引き続き見込まれ、それに対する物量も少量だが伸びる見込みである。また、建築販売に関する部材、商材の流通量についても伸びている。
	変わらない	食料品製造業（総務）	・株価、為替、マイナス金利による銀行経営へのインパクト等、環境変化の乱高下が激しいニュースが相次ぎ今後どう動くのか全体的に様子見している感じがする。消費行動も当面慎重な動きになるのではないかと。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・公共工事は遅れている着工が開始予定であり、やや増の見込みである。民間は横ばいで、全体では横ばいの予測である。
		輸送業（代表者）	・与那国は陸上自衛隊工事と前年の台風災害復旧工事で忙しいが、低調であった他の離島先島地区も石垣を中心に公共、民間工事共に上向きつつある。
		広告代理店（営業担当）	・県内企業の販促投資は、一時的に上昇基調にあるように感じていたが、県外又は外資系企業との競争が激化するなかで、やや慎重になりつつある。一部、不動産業界のように需要が拡大するものの人手不足による受注対応能力を危惧することから、積極的な販促活動を控える動きもある。
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	-	-	
雇用 関連 (沖縄)	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人業界では繁忙期になる。
		学校[大学]（就職担当）	・年度末、年度初めに向けて個人消費含め、経済活動が活発になる可能性はあると考えられる。
	変わらない	-	-
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集室）	・前年の2月と4～5月を比較すると、週平均で50～80数件減少している。件数的には変わらないか、やや減少するのではないかと予想している。
		学校[専門学校]（就職担当）	・年度替わりの一時期は上向きの雰囲気が漂っていると思うが、持続は難しそうである。何事も短期決戦型になりそうな気がする。
悪くなる	-	-	